

平成 28 年度
知床半島ヒグマ保護管理方針に基づく
ゾーニング管理等推進業務
報告書



平成 29 年 3 月
環境省 釧路自然環境事務所
公益財団法人 知床財団

目次

概要.....	1
I. 野生生物との共生と適正利用に係る保護管理業務など	3
1. ヒグマに関する安全対策に係る現地管理および情報周知に係る業務	3
1-1. はじめに	3
1-2. 業務内容	3
1-3. 業務結果と考察	8
1-4. まとめ.....	36
2. 野生動物との共生に関する情報周知	48
2-1. 情報周知看板の作製・設置・撤去	48
2-2. インターネットを利用した情報周知	53
II. 自然保護業務補佐.....	54
1. 知床国立公園内のパトロール	54
2. 傷病鳥獣の保護および死亡鳥獣の回収	59
III. ヒグマ保護管理方針に関するデータ収集・とりまとめ・評価	66
巻末資料	69

概要

1. 事業名（英名）

平成28年度 知床半島ヒグマ保護管理方針に基づくゾーニング管理等推進業務 報告書
(Report: The program for promoting the zoning management based on the Conservation Management Policy for Brown Bears on the Shiretoko Peninsula, 2016)

2. 事業の背景・目的

本事業は、平成23年度末に定められた知床半島ヒグマ保護管理方針に基づき、ゾーニングごとに適切なヒグマ対応を推進するとともに、利用者側の啓発・指導等もあわせて実施していくことで、両者の軋轢を低減し、国立公園における利用の適正化と野生生物保護を推進することを目的とする。

3. 事業の実施体制

本事業は、環境省からの請負事業として公益財団法人 知床財団が実施した。

4. 事業の手法・概要

(i) 野生生物との共生と適正利用に係る保護管理業務など

- 1) 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、ヒグマの出没状況の把握やヒグマ保護管理対策活動等を実施した。遊歩道など利用エリアにおけるヒグマの出没状況に応じた情報周知等を行った。
- 2) ヒグマに関する情報収集として、ビジターや住民から提供されたヒグマ目撃情報を取りまとめた。
- 3) 野生生物との共生に関する情報周知として、看板の作成や設置、ホームページ等を用いた情報発信を実施した。

(ii) 自然保護業務補佐

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、傷病鳥獣の保護収容や自然保護業務全般に関わる補助的活動等を実施した。

(iii) ヒグマ保護管理方針に関するデータ収集・とりまとめ・評価

知床半島ヒグマ保護管理方針に関するデータを資料として取りまとめた。

5. 事業結果

(i) 野生生物との共生と適正利用に係る保護管理業務など

- 1) および 2) 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内におけるヒグマ目撃件数は 1,141 件（斜里町側 930 件、羅臼町側 211 件）、ヒグマ保護管理対策活動の実施件数は 579 件（斜里町側 493 件、羅臼町側 86 件）となり、ヒグマの出没は平年と比較して多く、過去 3 番目に多かった。

ヒグマによる人身事故は発生しなかったが、斜里町の幌別川ではヒグマと釣り人との危険なトラブルが発生した。また、羅臼町でも住宅に近い鳥獣保護区で人に対する警戒心が低いヒグマが出没する事例が発生した。

今年度、ヒグマの有害捕獲はなかった。

- 3) 利用者が多くヒグマの出没が多いエリアにヒグマ注意看板 21 基を設置し、冬期前に回収した。町道岩尾別温泉道路沿いにヒグマを撮影するカメラマンが守るべきルールやマナーを記した看板と現地で効果的に情報周知するための看板（情報掲示看板）を設置した。また、ヒグマの生息地であることを啓発するための看板やチラシを適宜作成し設置や撤去、配布を行った。

(ii) 自然保護業務補佐

知床国立公園内のパトロール活動を、5 月～10 月の期間中に週 2 回程度、55 日について実施した。公園利用者の不適切な行為に対する各種指導、外来種除去、ゴミ拾い等を随時実施した。ゴミの不法投棄や焚火、動物への餌やり、指定地以外での野営などの問題行為が複数回確認された。希少動植物の不法採取などの具体的事例は確認されなかった。

傷病鳥獣の保護収容は 5 種 5 件（斜里町側 3 種 3 件、羅臼町 2 種 2 件）で、希少種は含まれていなかった。野生動物死体の処理対応件数は 8 種 9 件（斜里町側 7 種 8 件、羅臼町側で 1 種 1 件）であった。

鳥獣保護区外の事例であったが、希少猛禽の保護が 5 件（オジロワシ 2 件、オオワシ 1 件、クマタカ 2 件）あった。希少猛禽の保護にあたっては環境省の指示を仰ぎ、必要に応じて猛禽類医学研究所に連絡しその後の処置を要請した。今年度、高病原性鳥インフルエンザの傷病鳥は確認されなかった。

(iii) ヒグマ保護管理方針に関するデータ収集・とりまとめ・評価

知床半島ヒグマ保護管理方針に関する各種データを巻末資料に取りまとめた。

I. 野生生物との共生と適正利用に係る保護管理業務など

1. ヒグマに関する安全対策に係る現地管理および情報周知に係る業務

1-1. はじめに

本業務では、ヒグマと人との軋轢低減を目的として、知床におけるヒグマ出没状況の把握と各種のヒグマ対策活動を実施した。なお、本業務は斜里町および羅臼町からそれぞれ受託しているヒグマ対策業務（国立公園や鳥獣保護区の区域外も含む）とも連携して実施したため、本報告には本事業の契約期間外の情報も一部含んでいる。

1-2. 業務内容

① 実施範囲

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区。なお、左記区域内の主要な地点名は、図 1-1 のとおりである。

② 業務実施期間

平成 28 年（2016 年）5 月 12 日から平成 29 年（2017 年）3 月 10 日

③ ヒグマ目撃情報の収集

ヒグマ出没状況は、斜里側においては観光客などによるヒグマ目撃情報をアンケート形式で随時収集することによって把握した（以下、アンケートとする）。羅臼側においては、国立公園区域外を含む町内全域のヒグマ出没に関する通報ルート（町役場経由、主に地元住民が目撃・通報）による情報提供が主体のため、アンケート以外にそれらも含めた。アンケート用紙はヒグマを目撃した場所、日時、状況、および個体の特徴などを記入するもので、知床国立公園内にある主要な施設（知床自然センター（以下、自然センター）、鳥獣保護区管理センター（以下、鳥保）、知床世界遺産センター（以下、遺産センター）、知床五湖フィールドハウス（以下、五湖 FH）、木下小屋、羅臼ビジターセンター（以下、羅臼 VC）、ルサフィールドハウス（以下、ルサ FH）に配置されている。アンケートは当財団の職員が電話や口頭でヒグマ目撃情報を入手した場合や、職員が偶然ヒグマを目撃した場合にも記録した。

収集した目撃情報は表 1-1 の地域区分に基づいて、地区別に集計した。なお斜里側のヒグマ観察を目的とした観光船による洋上からの目撃や、少数の漁業番屋しか存在しない斜里側の知床大橋から知床岬までの間で記録された人間との軋轢を伴わない目撃は、本集計から除外した。ヒグマの目撃は平成 28 年 3 月から始まったため、本報告書では平成 28 年 3

月から平成 29 年 2 月 28 日現在までに寄せられたアンケートを集計した。

④ヒグマ対策活動

ヒグマの生態に関する専門知識や、手投げ式の大型花火（轟音玉）および猟銃の所持などに関する資格と技能を有する当財団の職員が、ローテーション方式で「知床半島ヒグマ保護管理方針」に従ってヒグマ対策を実施した。日常業務として、知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内のパトロール、電波発信機を装着したヒグマのモニタリング、知床五湖駐車場の周囲に設置された電気柵の点検や補修作業を実施し、ヒグマと公園利用者との軋轢低減に努めた。またパトロールや通報により、遊歩道や道路周辺にヒグマを誘引する可能性のある物が確認された場合は、町役場などの関係機関とも協力して回収や除去作業を行い、ヒグマの定着を未然に防ぐよう努めた。誘引物とはヒグマの餌となり得るシカ、トド、イルカ、およびクジラなどの大型動物の死体、不法投棄されたゴミ、アリやハチの巣などである。また釣り人やキャンパーに対し、食料やゴミの管理徹底を促す看板の設置やチラシの配布、口頭での指導を行った。ヒグマの誘引を防ぐためのこのような普及啓発活動は、日常のヒグマ対策パトロールや出沒後の現場状況調査と併せて実施した。

さらにヒグマ出沒の際には、追い払いや調査、問題個体に関しては有害鳥獣捕獲（以下、有害捕獲）の必要性の判断などの対応を行った。特に知床五湖地上遊歩道やフレペの滝遊歩道に関しては、ヒグマの出沒により安全な利用が困難と判断された場合には、遊歩道の一部または全体を閉鎖した上で対応を行った。なお対応実施にあたっては、目撃地点、時刻、目撃時のヒグマの行動などを総合的に考慮し、追い払いは散弾銃による威嚇弾（花火弾・ゴム弾）の発射、手投げ式の大型花火（轟音玉）などによって行った。

上記の各種対応についても、目撃情報と同様に地区別、対応区分別（表 1-2）に記録・集計し、平成 28 年 3 月から平成 29 年 2 月 28 日現在までに実施したものを集計した。

⑤ヒグマに関する情報周知

羅臼岳登山道、硫黄山登山道、フレペの滝遊歩道、羅臼湖歩道などの歩道入口にはヒグマ出沒状況に応じて注意看板を設置した。注意看板の詳細は、I 章 2-1「情報周知看板の設置・撤去」に記述する。

また自然センター（<http://www.shiretoko.or.jp/>）や羅臼 VC（<http://rausu-vc.jp/>）のホームページを通じてヒグマ情報の発信を随時行った。

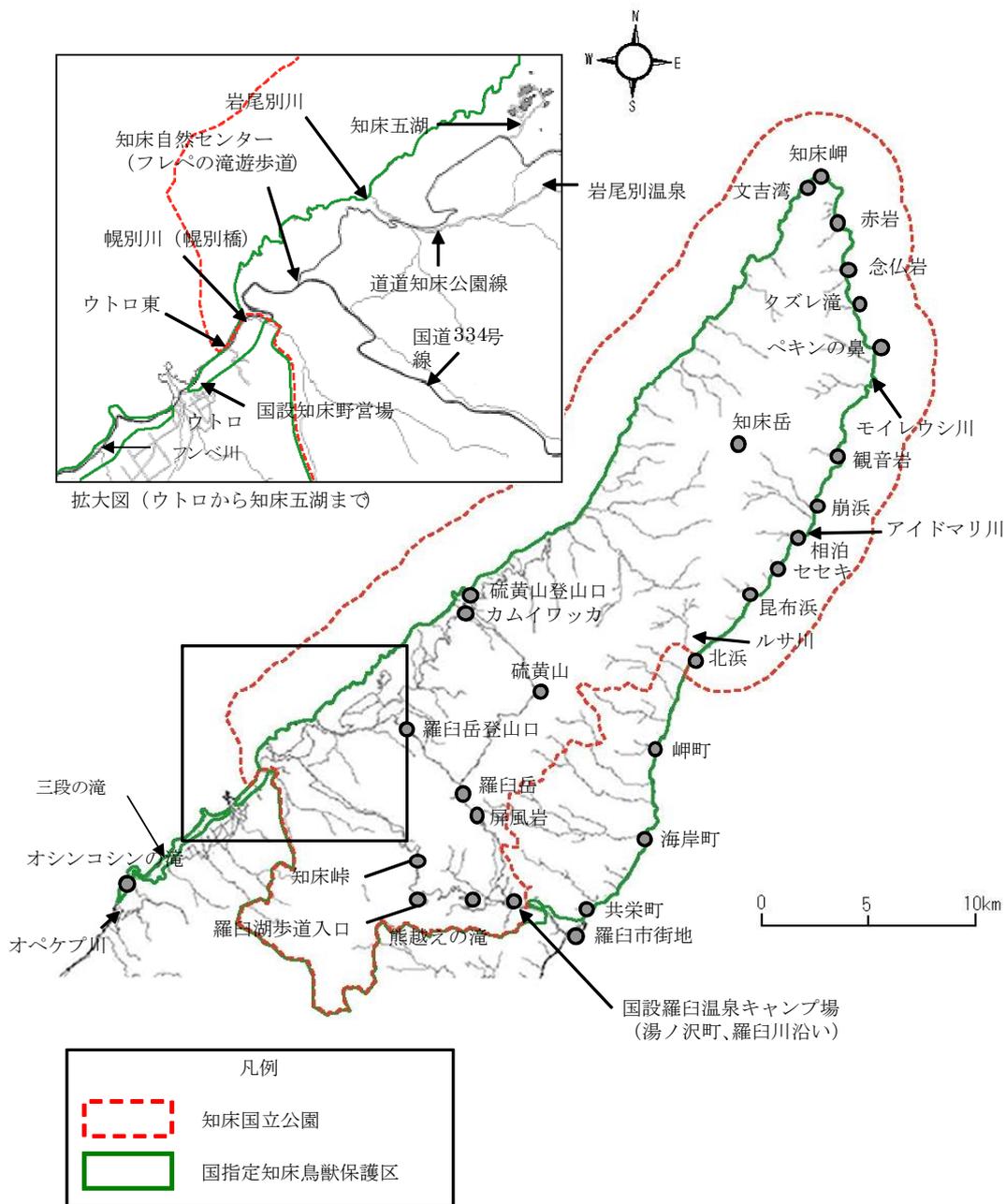


図 1-1. 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内の主要地点名

表 1-1. 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区における地域区分

斜 里 側	国立公園および 国指定知床鳥獣 保護区	幌別・岩尾別地区	国道 334 号線幌別橋から幌別園地を經由し道道知床公園線三峰橋に至るまでの道路沿いと町道岩尾別温泉道路沿い、町道五湖道路沿いおよびフレペの滝遊歩道沿い	
			岩尾別川沿い	岩尾別川河口から孵化場取り付け道路入り口に至るまでと町道岩尾別温泉道路で岩尾別温泉に至るまで道路沿い
			幌別川	幌別川河口部と幌別橋の上下流方向、それぞれ約 100m までの河川内と河畔林内
			フレペ遊歩道	フレペの滝遊歩道沿いおよび灯台管理道路沿い
			国道・道道沿い	国道 334 号線幌別橋から幌別園地に至る道路沿い、道道知床公園線幌別園地から三峰橋に至るまでの道路沿い
		知床五湖園地地区	知床五湖駐車場と知床五湖高架木道および知床五湖地上遊歩道沿い	
		イダシュベツ・ カムイワッカ地区	道道知床公園線三峰橋から知床大橋に至るまでの道道沿い	
			カムイワッカ地区	道道公園線ミラーNo.5 から硫黄山登山道入り口までのカムイワッカ川沢内
		知床連山登山道地区	木下小屋登山口から羅臼岳、硫黄山を經由し硫黄山登山口に至るまでの登山道沿い	
		知床横断道地区	国道 334 号線幌別ゲートから知床峠に至るまでの国道沿い	
知床岬地区	知床大橋から知床岬まで、文吉湾オコツク番屋周辺等			
国指定 知床鳥獣保護区	幌別川－オペケプ川地区	国立公園外の国指定知床鳥獣保護区で幌別川とオペケプ川に挟まれたエリア		
羅 臼 側	国立公園および 国指定知床鳥獣 保護区	ルサー知床岬地区	道道知床公園・羅臼線沿いの北浜（ルサ川左岸）から知床岬までの地区	
		湯ノ沢町－知床峠地区	国道 334 号線沿い湯ノ沢町温水プール前から知床峠までの地区 （羅臼湖歩道および羅臼岳登山道の羅臼温泉登山口から山頂までの区間も含む）	
	国指定 知床鳥獣保護区	羅臼市街地北側－岬町地区	国立公園外の国指定知床鳥獣保護区で、道道知床公園・羅臼線沿いの羅臼市街地の船見町（羅臼川左岸側）から北浜（ルサ川右岸）までの地区。海岸、道路および民有地を含まない、町有林と国有林。	

表 1-2. ヒグマ対策活動区分

出 没 時 対 策	調査：	ヒグマ出没情報を受けて出動したが、特別な対応をする必要がなく、現地調査のみ実施したもの。
	威嚇・追い払い：	ヒグマ出没情報を受けて出動し、出没個体に対して威嚇・追い払い措置を実施したもの。
	有害捕獲：	ヒグマの出没通報を受けて出動し、問題個体の有害捕獲を行ったもの。
防 御 的 対 策	誘引物除去：	ヒグマが定着中、あるいは定着する可能性のある誘引物（シカや海獣類の死体、アリやハチの巣）の除去・回収を目的として出動したもの。
	クマ対策パトロール：	ヒグマ出没多発地点の巡視や遊歩道の定期パトロールを実施したもの。
	施設管理活動：	電気柵の設置や維持管理、ヒグマ注意看板の設置等施設の管理を目的としたもの。
	その他：	上記いずれにも該当しないヒグマ対策や対応。

1-3. 業務結果と考察

①ヒグマ出没状況

平成28年3月5日～平成29年2月28日までの期間中（以下、今年度）、知床国立公園（以下、国立公園）および国指定知床鳥獣保護区（以下、鳥獣保護区）におけるヒグマ目撃件数は、合計1,141件であり（表1-3）、昨年度の1,556件より415件少なく、前年比73%となった。町別の目撃件数は、斜里町側が930件（前年度1,301件）、羅臼町側が211件（前年度255件）となり、両町とも前年より少なかった。同地域におけるヒグマ目撃件数は、北海道内の一地域としては突出しており、今年度の目撃件数は前年より下回ったが1,000件を超え、例年と比較して高い数値であった。斜里町側と羅臼町側におけるヒグマ出没状況を項目別にそれぞれ記載する。

表1-3. 国立公園および鳥獣保護区における地区別・月別のヒグマ目撃件数
（平成28年3月5日～平成29年2月28日）

地区区分	月												総計
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
斜里側													
幌別・岩尾別地区	1	32	126	115	167	78	67	76	28	6	0	0	696 (-170)
知床五湖園地地区	0	2	16	25	37	2	2	1	1	0	0	0	86 (-67)
イダシュベツ・カムイワッカ地区	0	0	0	25	12	2	1	6	0	0	0	0	46 (-68)
知床連山登山道地区	0	0	0	0	17	10	2	0	0	0	0	0	29 (-6)
知床横断道地区	0	0	10	8	17	10	3	0	0	0	0	0	48 (-57)
知床岬地区	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1 (+1)
幌別川ーオベケブ川地区	0	6	12	4	1	1	0	0	0	0	0	0	24 (-4)
小計	1	40	164	177	252	103	75	83	29	6	0	0	930 (-371)
羅臼側													
ルサー知床岬地区	1	5	53	4	54	11	3	1	0	0	0	0	132 (+8)
湯ノ沢町ー知床岬地区	0	0	3	9	19	10	4	0	0	0	0	0	45 (-5)
羅臼市街地北側ー岬町地区	1	2	8	7	14	0	0	1	1	0	0	0	34 (-47)
小計	2	7	64	20	87	21	7	2	1	0	0	0	211 (-44)
総計	3	47	228	197	339	124	82	85	30	6	0	0	1141 (-415)

※（）内の数字は昨年度との差を示す

<斜里側>

斜里側の国立公園および鳥獣保護区におけるヒグマ目撃件数は、合計930件であり、昨年度の1,301件より371件少なかった（前年比71.5%）。今年度のヒグマ目撃件数は過去3番目に多く、例年より若干上回った。近年では平成24年度と平成27年度にヒグマの大量出没が発生しており、近年のヒグマ目撃件数は増加傾向にある。

月別の目撃件数は、7月に最多の252件となり、次いで6月が177件となった（図1-2）。

7月に件数がピークになる傾向は例年と同様であった。ヒグマの出没は3月5日から始まり、例年より早かったが、3月の目撃件数は2件のみで、ヒグマの活動が活発化したのは4月以降であった。今年度の特徴として、5月の出没が164件と例年より多かった。

目撃件数を地区別に集計すると、幌別・岩尾別地区が最も多く696件、次いで知床五湖園地地区が86件、知床横断道地区が48件と続いた。前年と比較してほとんどの地区で目撃件数は少なくなった。

今年度においてもヒグマによる人身事故は発生しなかったが、人身事故に繋がりがねない危険な状況が複数あった。ヒグマが釣り人の自転車や荷物を荒らす事例、車に足をかける事例、車に何度も接近する事例などが発生した。国立公園の近隣のウトロ地区においても、住宅地や市街地にヒグマが接近する事例が発生し、人とヒグマの距離が縮まることによる危険事例が発生した。

問題行動をとるヒグマが複数確認されたが、本年は結果として鳥獣保護区内での有害捕獲はなかった。詳しくは地区別のヒグマ対応状況で後述する。

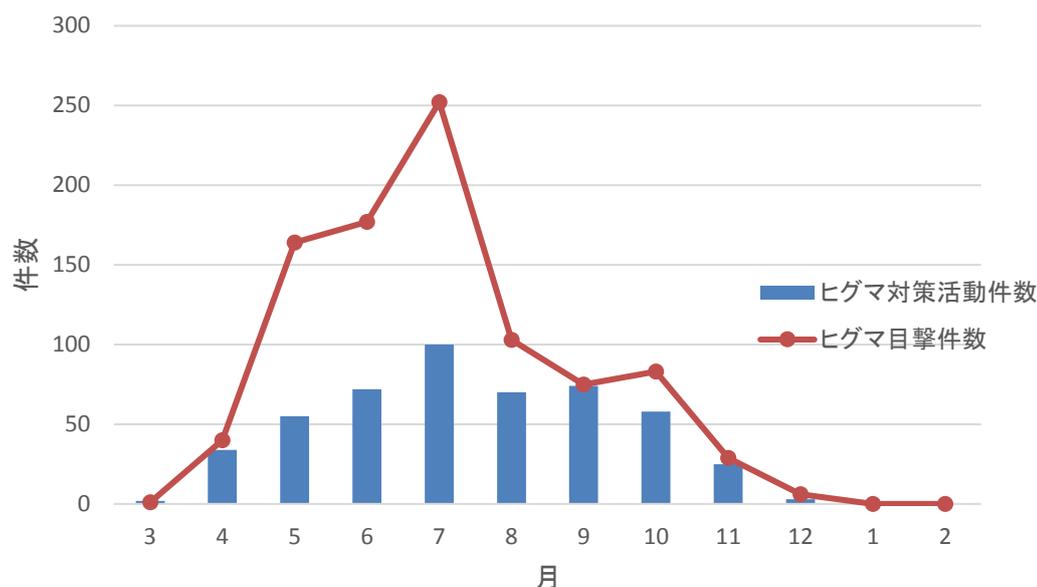


図 1-2. 斜里側におけるヒグマ目撃件数とヒグマ対策活動件数の月別推移
(平成 28 年 3 月 5 日～平成 29 年 2 月 28 日)

<羅臼側>

羅臼側の知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区におけるヒグマ目撃件数は、合計 211 件であり、平成 27 年度の 255 件から 44 件減少した。

月別では、7 月が最多の 87 件であった。また、羅臼側で最も目撃が多かった地区はルサー知床岬地区で 132 件であった。平成 27 年度と比較すると、ルサー知床岬地区以外の地区において目撃件数は減少した。

今年度、ルサー知床岬地区では、耳標が付いたヒグマが頻繁に目撃された。このヒグマは、耳標から過去に斜里町で学術捕獲された個体であることが分かった。また、湯ノ沢町一知床岬地区では、6 月から 8 月初旬にかけて知床横断道路沿いで頻繁にヒグマが目撃された。目撃地点は知床岬から羅臼町方面への約 2km 以内に集中していたが、同一個体かは不明であった。鳥獣保護区外ではあるが、隣接地区である羅臼市街地北側一岬町地区では、水産加工場の残渣がヒグマに荒らされる事例があり、1 頭のヒグマが有害捕獲となった。

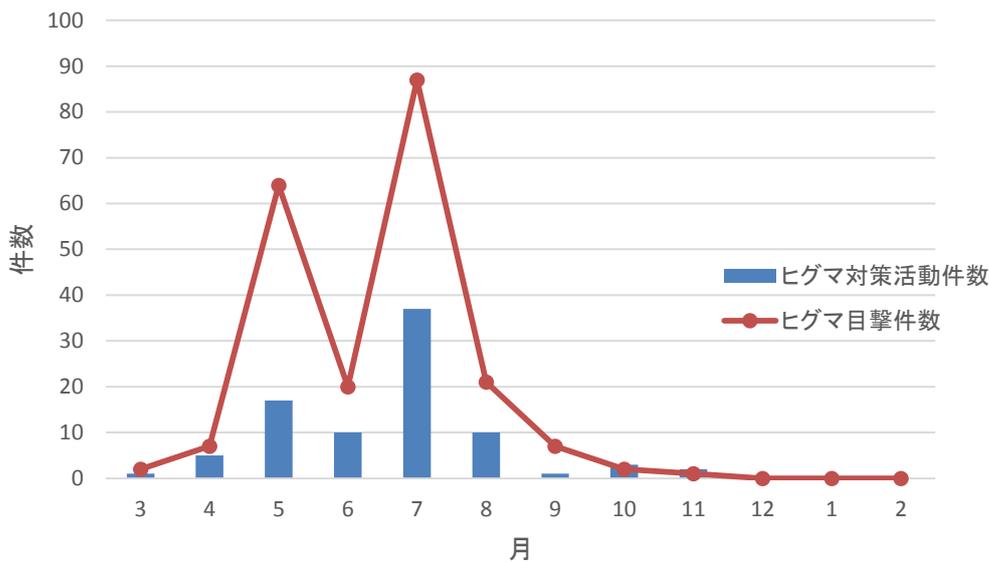


図 1-3. 羅臼側におけるヒグマ目撃件数とヒグマ対策件数の月別推移
(平成 28 年 3 月 5 日～平成 29 年 2 月 28 日)

②ヒグマ対策活動

国立公園および鳥獣保護区内におけるヒグマ対策活動件数（以下、対応件数）は、斜里側 493 件、羅臼側 86 件の合計 579 件であった（表 1-4）。昨年度（斜里 659 件、羅臼 120 件）より斜里側では 166 件少なく、羅臼側では 34 件少なかった。斜里側と羅臼側における対応件数の地区別・月別の状況は、それぞれ以下の通りである。

地区別に集計すると、斜里側では昨年度と同じく、幌別・岩尾別地区が 409 件（昨年度

537 件) と突出して多かった。羅臼側では昨年度と同様、羅臼市街地北側 - 岬町地区が 36 件 (昨年度 80 件) と最多になった。

対応件数は月別に集計すると、7 月が 137 件と最も多く、次いで 6 月が 82 件となった。今年度は 5 月から 8 月までヒグマの出没が多く、そのため対応件数も 5~8 月に多かったが、11 月以降はヒグマの出没の減少に伴い対応件数も減少したが、サケ・マスが遡上する河川等では局所的にヒグマの出没が続いた。冬期 (12 月、1 月、2 月) はヒグマの目撃がほとんどなかったため、威嚇・追い払い等の出没時対策をほとんど実施しなかった。

表 1-4. 国立公園および鳥獣保護区における地区別・月別のヒグマ対応件数
(平成 28 年 3 月 5 日～平成 29 年 2 月 28 日)

地区区分	月												総計
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
斜里側													
幌別・岩尾別地区	2	25	40	58	96	56	56	54	19	3	0	0	409 (-128)
知床五湖園地地区	0	4	2	3	1	2	1	1	1	0	0	0	15 (-34)
イダシュベツ・カムイワッカ地区	0	0	1	6	1	1	0	3	0	0	0	0	12 (+1)
知床連山登山道地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (±0)
知床横断道地区	0	0	5	3	1	2	1	0	0	0	0	0	12 (-42)
知床岬地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (±0)
幌別川-オベケブ川地区	0	5	7	2	1	9	16	0	5	0	0	0	45 (+37)
小計	2	34	55	72	100	70	74	58	25	3	0	0	493 (-166)
羅臼側													
ルサー知床岬地区	1	3	9	0	5	0	1	1	0	0	0	0	20 (+4)
湯ノ沢町-知床岬地区	0	1	2	4	15	8	0	0	0	0	0	0	30 (+6)
羅臼市街地北側-岬町地区	0	1	6	6	17	2	0	2	2	0	0	0	36 (-44)
小計	1	5	17	10	37	10	1	3	2	0	0	0	86 (-34)
総計	3	39	72	82	137	80	75	61	27	3	0	0	579 (-200)

※ () 内は昨年度との比較

今年度においてもヒグマが住宅地へ出没する等の危険事例が発生したため、問題行動のあるヒグマについては有害捕獲を実施できる態勢をとった。今年度、国立公園内および鳥獣保護区内での有害捕獲はなかった。ただし鳥獣保護区に隣接した羅臼町の水産加工場では、ヒグマによる被害が発生したためオス成獣 1 頭が有害捕獲となった。

③地区別のヒグマ出没状況およびヒグマ対応状況

国立公園および鳥獣保護区内の、各地区における詳細なヒグマ出没状況およびヒグマ対応状況を項目別に記載する。地域区分については表 1-1 を参照。

<斜里側>

幌別・岩尾別地区

目撃件数は 696 件で、前年度の 866 件より 170 件少なく、前年比で 80%となった。月別の目撃件数は、7 月が最も多く 167 件、次いで 6 月が 115 件となった。幌別・岩尾別地区のヒグマ目撃件数は例年と同様、他の地区より大幅に多く、斜里側の目撃件数のうち 75% が同地区のものであった。この地区の主な目撃地点は、幌別橋から知床五湖に至る国道 334 号線（以下、国道）沿い、道道知床公園線（以下、公園線）沿い、フレペの滝遊歩道、町道岩尾別温泉道路（岩尾別川流域）沿いなど、人の利用が多い場所であった。図 1-4 に同地区のヒグマ目撃場所を赤点で示した。同地区では人の利用があるエリア（道路や遊歩道等）のほぼすべてでヒグマの目撃があった。

人の利用地域に近い場所でヒグマの目撃があった場合には、パトロールの実施や誘引物除去作業を行い、道路や遊歩道周辺へのヒグマ定着防止に努めた。また、状況に応じて看板設置等を行い、利用者への注意喚起に努めた。以下、場所別の特徴を述べる。

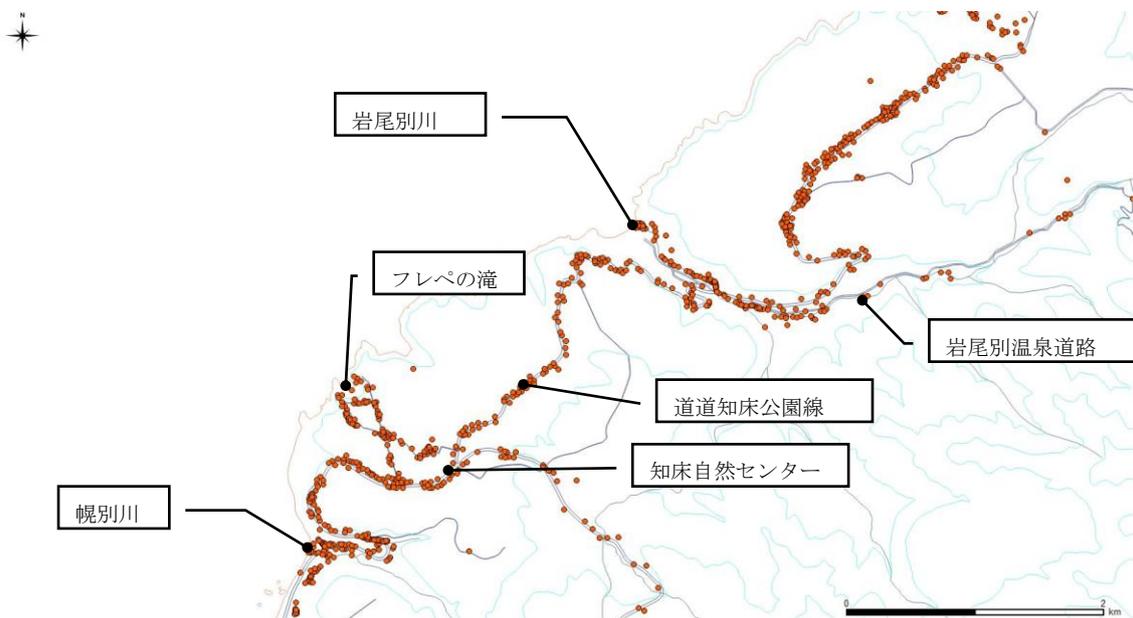


図 1-4. 幌別岩尾別地区におけるヒグマ目撃場所(赤点、平成 28 年)

① 国道および公園線沿い

幌別・岩尾別地区の目撃件数の 67% (468 件) が国道および道道知床公園線沿いでの目撃であった。ヒグマの目撃は 5 月から 8 月まで継続して高い頻度であり、7 月に最多の 125 件、

次いで5月が108件となった。9月以降は減少傾向を示し、12月以降は0～1件となった。道路沿いにヒグマが出没する理由としては、移動や道路の横断が多かったが、採食や食物を捜索する行動も確認された。

4月から5月にかけて、ヒグマが道路沿い法面や道路脇林内で草本（イラクサ等）や土壌性昆虫（おそらくセミ幼虫）を採食する行動が頻繁に確認された（写真1-1, 1-2）。また1件のみであったが、ヒグマがヘアピンカーブの内側でシカの死体を食べていたため、ヒグマを追い払って死体を回収した事例が5月2日にあった。幌別・岩尾別地区では昨年度においても頻繁に出没した複数の親子グマ（09B06、08B14、CM。いずれも2才の子連れ）の姿が確認された。

5月下旬からオス成獣と考えられる大型のヒグマが道路沿いで出没するようになり、オスヒグマがメスヒグマを追いかける行動や、子グマを追い払う行動がしばしば確認された。6月になると2才子をつれた親子グマの目撃は減少し、6月12日以降、親子グマの情報はほとんどなくなった。逆に2才程度の亜成獣の目撃件数が多くなったが、これは子グマが親離れし単独で行動するようになったためと考えられた。

7月に入ると単独もしくは複数の亜成獣が頻繁に、道路沿いのアリの巣を採食するため出没した。道路沿いにヒグマが出没すると交通渋滞が発生してしまうため、交通渋滞の整理とヒグマの追い払いを実施した（写真1-4）。利用者の中には車から降りてヒグマに接近しようとする者もいたため注意喚起した。



写真1-1. 4月25日、幌別の国道沿いで草本を採食する2才2頭連れ親子(09B06)



写真1-2. 4月25日、岩尾別の道道沿いで土壌性昆虫を採食する2才3頭連れ親子(CM)



写真1-3. 5月22日、岩尾別の道道沿いでメスヒグマを追跡するオスヒグマ(TY)



写真1-4. 7月30日、幌別の国道沿いでアリの巣を採食する2才ヒグマ(09B06の子:SP)

8月以降はヒグマの出没が減少したが、一部の人慣れした個体が同エリアに度々出没した。9月22日にはポロピナイ（幌別から岩尾別へ至る途中）の道路沿いで、車両に接近するヒグマにパンを与えようとする者がいたという情報があった。このケースでは目撃者が注意したため、餌付けにはいたらなかった。しかしその後もポロピナイで車両に接近するヒグマの情報が頻繁に寄せられ、情報は10月26日、28日、11月1日、8日、13日にあった。11月13日のケースではヒグマ対策職員が直に、現場で推定2才のヒグマ（ID:MK）が停車している車の運転席ドアの前に来て匂いを嗅ぐ行動を目視した。ヒグマは通報があったから職員が到着するまでの数分間、車の周りをうろついていたとのことだった（写真1-5）。これらのことから、当個体がポロピナイ周辺において車両から餌付けされた可能性が考えられた。また同日、岩尾別川へ下る連続カーブの途中で、駐車スペースにとまっていた車がヒグマに足をかけられるという事例が発生した。車は無人であり特に損傷もなかったが、ヒグマが車に何らかの興味を持った可能性があった。

これらの事例を受け駐車スペースには注意看板を設置（写真1-6）するとともに、頻繁にパトロールを実施した。岩尾別川周辺にはヒグマ撮影目的のカメラマンが集まっていたため、注意喚起を行った。12月1日には、ヒグマの出現を待ち構えていたカメラマンがヒグマの接近に気付かず、距離5mでヒグマと遭遇する事例があったが事故には至らなかった。当カメラマンには厳重注意を行った。

その後、ヒグマの出没は岩尾別川周辺で12月下旬まで続いたが餌付けや車両に接近するヒグマの情報はなかった。



写真1-5. 11月13日、ポロピナイ付近の道路沿いを徘徊するヒグマ(ID:MK)



写真1-6. 11月15日に道道沿いに設置した注意看板

② フレペの滝遊歩道

フレペの滝遊歩道周辺における目撃件数は78件であり、昨年度の120件より42件少なかった。対応件数は70件（昨年度110件）、遊歩道の緊急閉鎖は53回（昨年度85回）に及んだ（表1-5）。月別の目撃件数は7月が最も多く36件、次いで6月が18件となった。

ヒグマの出没場所は遊歩道のほぼ全区域に及んだ（図 1-5）。

フレペの滝遊歩道では少なくとも 4 頭（ID:09B06、YK、SP、VL）のヒグマが遊歩道内に出没したため、利用者の退避が必要な状況が度々発生した。7 月は特にヒグマの出没が頻繁となり、ほぼ毎日出没したため、ヒグマの目撃があった日は終日閉鎖を継続した。

フレペの滝遊歩道内でヒグマによる事故は発生していないが、7 月 5 日に利用者のグループの間を 2 頭のヒグマが通り抜ける事例が発生した（写真 1-7）。他にもヒグマが遊歩道近くにいて戻ることができないと通報があった事例が 6 月 16 日と 24 日にあり、利用者の誘導を行った。

例年の状況から、今期においてもヒグマの出没が活発になると予想されたため、ヒグマ出没状況の近況がわかる「ヒグマ出没カレンダー」を遊歩道入口に掲載するようにした（写真 1-8）。また 6 月 19 日に東屋のすぐ近くにヒグマが出没する事例があったことから、緊急時の連絡先を記載した注意看板を東屋に設置した（写真 1-9）。また遊歩道脇のオオヤマザクラの液果をヒグマが採食しにくる状況が予想されたため、6 月 20 日にオオヤマザクラ周辺の藪を刈り、ヒグマが潜みにくい環境にした。7 月になると遊歩道脇の草本（主にワラビ）が繁茂し視界が悪くなったため、ヒグマ対策の一環として除草作業を、道庁職員と協力して実施した（写真 1-10）。

表 1-5. 平成 28 年におけるフレペの滝遊歩道の閉鎖状況（※11 月以降は閉鎖なし）

月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1日				11、12回目	41回目		
2日				13回目	42回目		
3日					43回目		
4日			4回目	14回目	44回目		
5日				15回目			51回目
6日				16回目			
7日				17、18回目		49回目	
8日				19回目			
9日				20回目			52回目
10日	1回目				45回目		
11日	2回目			21回目			
12日	3回目			22回目	46回目		
13日			5回目	23回目			
14日				24回目			
15日				25回目			
16日				26回目			
17日				27回目		50回目	
18日				28回目			
19日			6回目	29回目			53回目
20日				30回目			
21日				31回目			
22日			7回目	32回目			
23日				33回目			
24日			8回目	34回目			
25日			9回目		47、48回目		
26日			10回目	35回目			
27日				36回目			
28日				37回目			
29日				38回目			
30日				39回目			
31日				40回目			

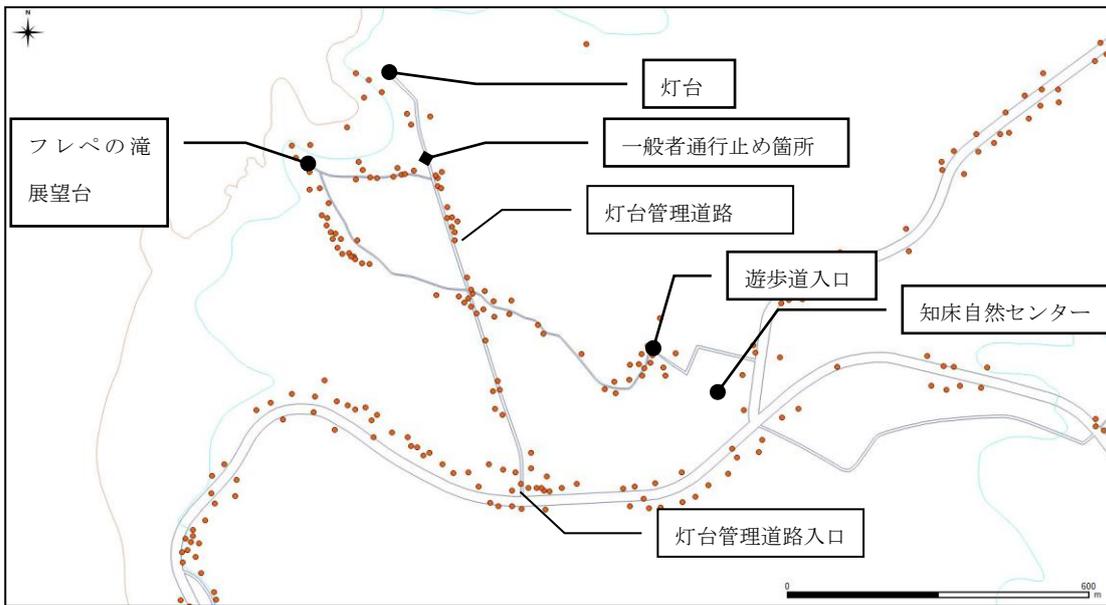


図 1-5. 平成 28 年 フレペの滝遊歩道周辺におけるヒグマ目撃場所(赤点)



写真 1-7. 7 月 5 日、利用者のグループの間を通り抜ける 2 頭のヒグマ(利用者提供写真)



写真 1-8. フレペの滝遊歩道に設置したヒグマ出没カレンダー(6月の情報)



写真 1-9. 6 月 19 日に東屋に設置したヒグマ注意看板



写真 1-10. 7 月 15 日に遊歩道脇の除草を行うヒグマ対策スタッフ

知床自然センターでは、知床で野外リクリエーションを行う利用者の行動をサポートする目的で、ヒグマ情報のレクチャーを本年度の 4 月 20 日から開始している（写真 1-11）。レクチャーはほぼ毎日実施され、10 月 30 日までの期間に 1,263 人の参加があった。レクチャーを受講してからフレペの滝へ行く利用者も多く、ヒグマとの遭遇リスクを減らす一助となっている。しかしフレペの滝の利用者は年間 4～5 万人おり（知床白書より）、ほとんどの利用者はレクチャーを受けずに散策していたことになる。これはレクチャー受講が任意のためである。

過去 8 年間のフレペの滝遊歩道におけるヒグマ目撃件数と閉鎖回数を図 1-6 に示す。本年は過去 3 番目に目撃件数が多く、2 番目に閉鎖回数が多かった。ヒグマの出没と遊歩道の閉鎖回数は増加傾向にあり、将来的に減少する可能性は考えにくい。そのためヒグマをコントロールすることよりも、利用者に正しい知識や技術を浸透させる方が重要であり、遊歩道散策前にレクチャーを受講してもらうようなシステムの構築が求められている。



写真 1-11. ヒグマ情報レクチャーの様子(左右)

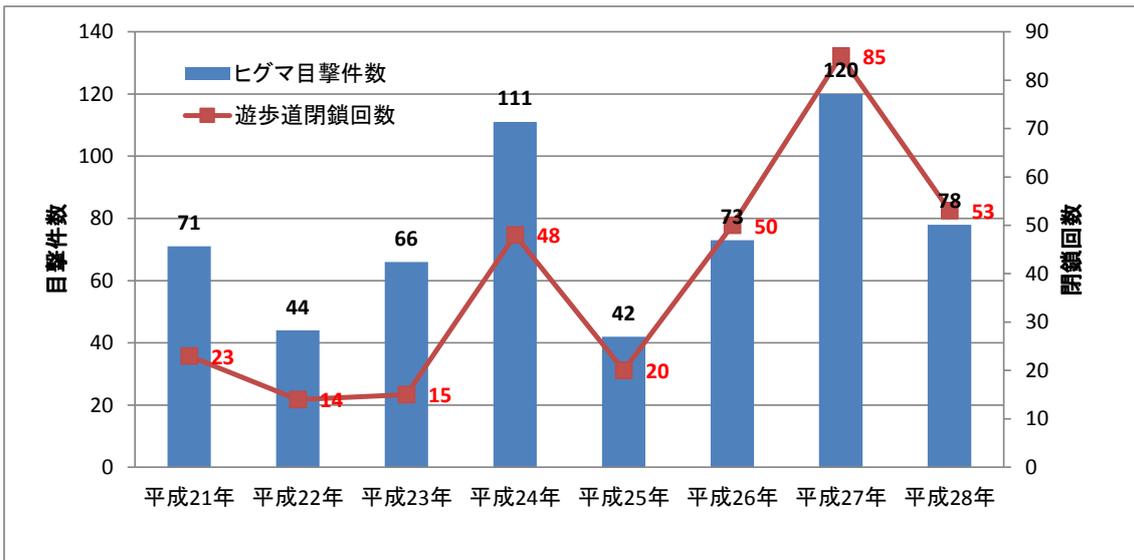


図 1-6. フレペの滝遊歩道の過去 8 年間におけるヒグマ目撃件数と遊歩道閉鎖回数

③ 幌別川河口

幌別川河口周辺におけるヒグマの目撃件数は 37 件で、昨年度の 54 件より 17 件少なかった。月別では 8 月が 11 件と最も多かったが、次いで 5 月が 9 件となり、サケ・マス遡上時期以外でもヒグマは幌別川沿いを利用していた。河口は融雪と草本の芽吹きが早いため、イラクサ等の草本を採食しに来るヒグマがたびたび確認された。主な出没個体は 4 頭 (ID:09B06、SP、YK、VL) であった。

ヒグマがマスを探している行動は 8 月 21 日に初めて確認された。その後、河口へのヒグマの出没が多くなり釣り人とのトラブルが発生するようになった。目撃情報や対策員の直接観察から、問題を起こした個体は SP である可能性が高かった (写真 1-12)。

8 月 24 日から 29 日にかけて、釣り人のリュックや自転車がヒグマに壊される事例や魚を横取りされる事例が連続的に発生した。幌別河口には例年、釣り人に対し注意喚起を呼びかける看板を設置し、ヒグマが出没するようになってからはパトロールを実施して、口頭で注意をしていた。また危険な事例が発生してからは、幌別川での釣りが危険であり、他の釣り場へ移動するよう勧告した。



写真 1-12. 8 月 24 日に幌別河口で自転車を物色するヒグマ(SP)

<幌別川河口の立入禁止措置について>

その後も釣り人とヒグマとの危険事例が繰り返し発生したため、関係機関（環境省、北海道森林管理局、北海道、斜里町、知床財団）は 8 月 31 日に開催した知床ヒグマ対策連絡会議において幌別川河口を立入禁止とすることを決定し、9 月 2 日から立入禁止措置をとった（写真 1-13）。立入禁止措置は法的な根拠に基づく規制ではなく、強制力はない。

その後も立入禁止を無視して釣りを続ける釣り人がいたため頻繁にパトロールを実施し、ヒグマの危険性や立入禁止になった経緯を説明し、退出を促した。退出に従う者もいれば忠告を無視して釣りを続ける者もあり、一部の釣り人からは立入禁止措置に強い不満の声も上がっていた。



写真 1-13. 9 月 2 日、幌別川河口に立入禁止看板を設置

<立入禁止措置の解除と河口利用の改善について>

9月8日に釣り人有志11名と関係機関（環境省、北海道森林管理局、北海道、斜里町、知床財団）による意見交換会が知床世界自然遺産センターで実施され、幌別川河口が立入禁止措置になった経緯と理由の説明と、幌別河口の利用のあり方などについての話し合いが行われた（写真1-14）。



写真1-14. 9月8日に実施された幌別川河口についての意見交換会

意見交換会において、はじめは釣り人から「なぜ立入禁止なのか」、「なぜヒグマを駆除しないのか」、「立入禁止は無意味」など反発意見が強かったが、最終的には概ね仕方のない措置であったとの理解が得られ、幌別河口においてヒグマの事故を防止するには釣り人自身が加わってルールを周知・徹底し適切な利用を推進することが重要であることが共通の認識となった。また状況が改善するまでは立入禁止措置の解除は難しいとの観点から、ヒグマを誘引する残滓の適切な管理や、釣り人自身のマナーの向上が求められた。これらの問題に対する解決策として、関係機関により残滓を一時保管する強固な金属製ボックスの設置が検討され、また釣り人有志により「幌別の釣りを守る会」が9月9日に結成された。会の目的は、幌別川河口の釣りを継続するため、釣り人のマナーを向上し、ヒグマとの事故を防止することであり、会発足当初の会員は常連の釣り人9名であった。具体的な活動として、会員は他の釣り人に対して普及啓発や情報提供を行い、ヒグマ出没時には事故に繋がらないよう避難を促すなどの注意を行った。

ヒグマの出没が減ったことと、上記の問題が改善されたことから、9月16日に幌別川河口の立入禁止措置は解除された。河口には利用にあたってのルールを説明する看板と、ヒグマ出没の近況を表示する看板が設置された。サケ・マス残滓問題の解決の一助として、金属製ボックスによる魚内臓回収ステーションが設置され、当財団職員が毎日夕方に回収した（写真1-15）。残滓入れ袋（斜里町指定生ゴミ袋）は現地で無人販売する方式とした。回収ステーションの運用は特段の問題はなく、金銭のトラブルも発生せず、釣り人からも概ね好意見であった。一度、ボックスにヒグマの足跡がついていたことがあったが、特に

破損箇所やこじ開けようとした痕跡はなく、一過性のものと考えられた。11月になるとヒグマの出没がほとんどなくなり、また釣り人も少なくなり、回収ステーションの利用もほとんどなくなったため11月14日に撤収した。期間中、使用された生ごみ袋は約70枚で回収した残滓は約230kgであった。

立入禁止解除後、ヒグマの目撃情報は6件であったが、釣り人の話では早朝によく出沒していたとのことから、実際はさらに多かったと見られる。立入禁止解除後は、ヒグマに魚を取られるなどのトラブルは確認されていない。これは一部のヒグマが岩尾別川や他の川に移動し、幌別川での出沒件数が減ったことが一因と考えられるが、釣り人がヒグマの存在や事故の危険性、適切な利用の重要性を主体的に意識し、トラブルの要因を減らす努力をしたことも大きな要因と考えられる。



写真 1-15. 9月16日に設置された注意看板と残滓回収ステーション

④ 岩尾別川

岩尾別川および町道岩尾別温泉道路沿いにおけるヒグマの目撃件数は113件で、昨年度の57件より56件多かった。月別では9月が最も多く38件、次いで10月が35件となった。9～10月に出沒件数が多くなった理由は、特定の人慣れした個体がサケ・マスを採食しに河川に繰り返し出沒したためであった。出沒場所は岩尾別橋近くや岩尾別川河口で多かった。

今年度においてもカメラマン対策として、9月16日から11月14日までの期間、町道岩尾別温泉道路沿いに斜里町が監視小屋、路上駐車防止のロープと注意看板を設置した（写真1-16, 1-17）。今年度は特にカラフトマスの遡上が多く、9月になると岩尾別橋からピリカベツ川合流付近までヒグマ撮影目的のカメラマンが待機するようになった。

監視小屋が設置されている期間中は、環境省・林野庁・斜里町・知床財団の職員が分担してパトロールを実施し、不適切な行動（路上駐車、ヒグマへの接近）を発見した場合には注意を行い、ルール啓発のチラシを配布した。そのため大部分のカメラマンには岩尾別川のルールが広まり、区間内の路上駐車はほとんど見られなくなった。一方、10月になる

とヒグマが岩尾別橋より下流側に主に出没するようになり、カメラマンの多くが岩尾別橋付近の駐車帯や岩尾別孵化場入口付近に車を停めるようになった（写真 1-18, 1-19）。これはカラフトマスの遡上が終わりとシロザケに切り替わったことと関連していると考えられた。町道岩尾別温泉道路沿いに待機するカメラマンの多くが岩尾別橋付近に移動したため、そのエリアでも路上駐車禁止やヒグマへの接近禁止の呼びかけを行った。ヒグマの出没は 12 月まで続いたが、カメラマンの大部分は 11 月中にみられなくなった。

本年度は、岩尾別橋周辺でのヒグマ渋滞が度々発生したが（写真 1-20, 1-21）、交通事故やヒグマによる被害などの発生はなかった。しかし、前述した車にのしかかったヒグマや餌付けされた疑いのあるヒグマは、岩尾別川沿いに頻繁に出没していたヒグマであった。2013 年の状況と同じように、岩尾別川はヒグマが人の存在に慣れてしまう環境であり、この状況は過去と根本的に変わっていない。



写真 1-16. 9 月 16 日に町道岩尾別温泉道路に設置された監視小屋と注意看板



写真 1-17. 待機スペースでヒグマを待つカメラマン(10 月 15 日)



写真 1-18. 岩尾別駐車帯に駐車する車両(10 月 2 日)



写真 1-19. 岩尾別孵化場入口に駐車する車両(10 月 1 日)



写真 1-20. 岩尾別橋周辺で発生したヒグマ渋滞(10月1日)



写真 1-21. 岩尾別橋上からヒグマの写真を撮る観光客(10月1日)

知床五湖園地地区

同地区におけるヒグマの目撃件数は 86 件であり、昨年度の 153 件より 67 件少なかった。目撃件数を月別に集計すると、7 月の 37 件が最も多く、次いで 6 月の 25 件となった(図 1-7)。例年、ヒグマ目撃件数は 7 月が最も多くなる傾向があり、本年も同様の傾向が見られた。

全体の目撃件数のうち、一般の利用者による目撃が 40 件(昨年 105 件)、ヒグマ活動期の登録引率者による目撃が 45 件(昨年 42 件)、当財団スタッフによる目撃が 1 件(昨年 6 件)であった。場所別では、地上遊歩道での目撃が 50 件(昨年 74 件)、高架木道からの目撃が 35 件(昨年 79 件)、駐車場周辺での目撃が 1 件(昨年 0 件)であった。ヒグマの目撃地点は例年、ミズバショウ群落のある湿地帯や湖畔に集中するが、本年も同じような傾向が見られた。

五湖地区で目撃されたヒグマの構成は、単独が 81 件(昨年 110 件)と最も多く、親子連れを中心とする複数頭の目撃は 5 件(昨年 41 件)であり、そのうち 3 件はオスとメスのペア、2 件は親子(1 頭子連れ)であった。昨年は目撃件数の 27%が複数頭であり、親子の目撃が 26 件と多く、五湖地区には数組の親子がいたと考えられたが、本年は子が独立したためか、親子の目撃は顕著に少なかった。

本年も特段、危険な目撃事例はなかった。ただし人を認識したうえで人を避けようしない個体が出没するなど、年々ヒグマの人慣れの進行が懸念される。

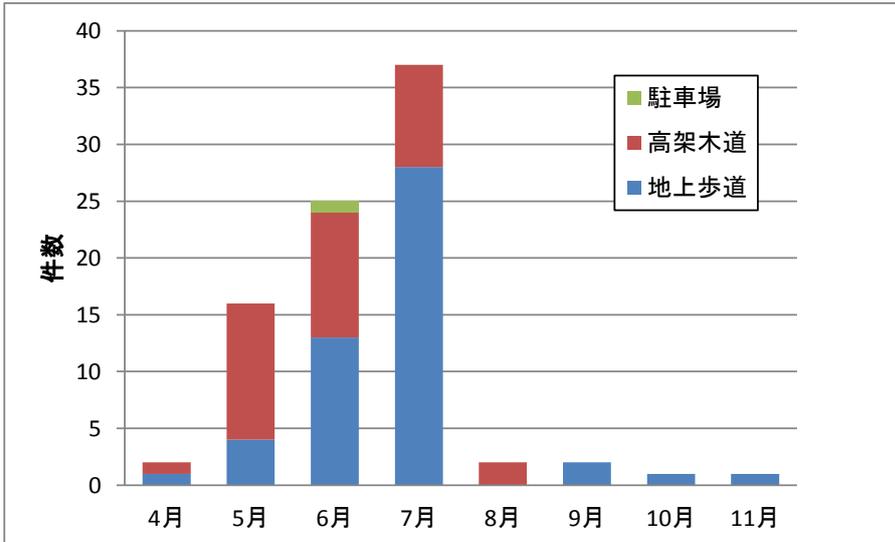


図 1-7. 五湖地区における月別のヒグマ目撃件数(平成 28 年)

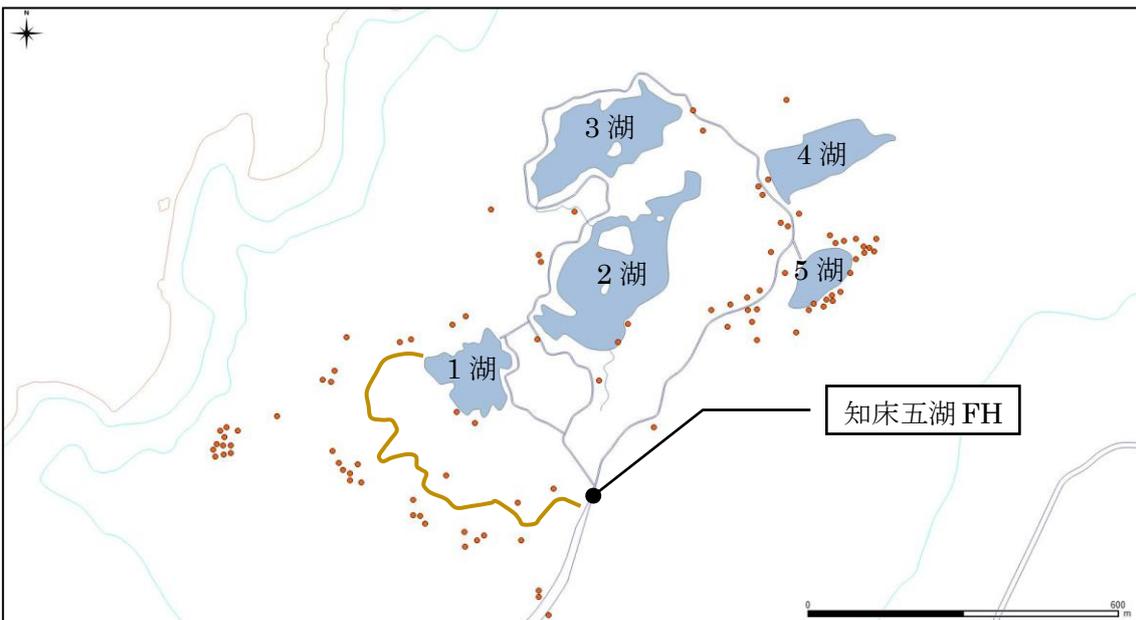


図 1-8. 五湖地区におけるヒグマ目撃地点(平成 28 年 4 月～11 月)

※赤点がヒグマ目撃地点を表す。

地上遊歩道および高架木道の状況は以下の通りである。

1) 地上遊歩道の状況

平成 24 年から平成 28 年までの地上遊歩道の供用状況について図 1-9 および表 1-6 にまとめた。過去 5 年間で比較すると、平成 24 年が最もヒグマを原因とする地上遊歩道閉鎖の多い年であり、次いで平成 27 年となった。本年はヒグマ活動期におけるヒグマの

遭遇件数が過去 2 番目に多かったが、ヒグマ活動期が終了した後はヒグマの出没が著しく減少した。緊急閉鎖はヒグマよりも積雪や台風など悪天候を理由としたものが多かった。

ヒグマ活動期における引率者のヒグマ遭遇回数とツアー中止回数は相関関係にあるものの、本年は平成 24 年と比較してヒグマに遭遇してもツアー中止としないケースの割合が顕著に高く、約 15% となった。これはヒグマに遭遇しても距離が十分に離れていたり、湖対岸にいるヒグマを目撃したりするケースが多かったためであった。また平成 25 年以降、中止判断における引率者の裁量が広がった点も一因だと考えられる。一方で出没するヒグマが人の存在や利用形態に慣れ、ある程度、遊歩道と距離を置いて行動している可能性も考えられた。

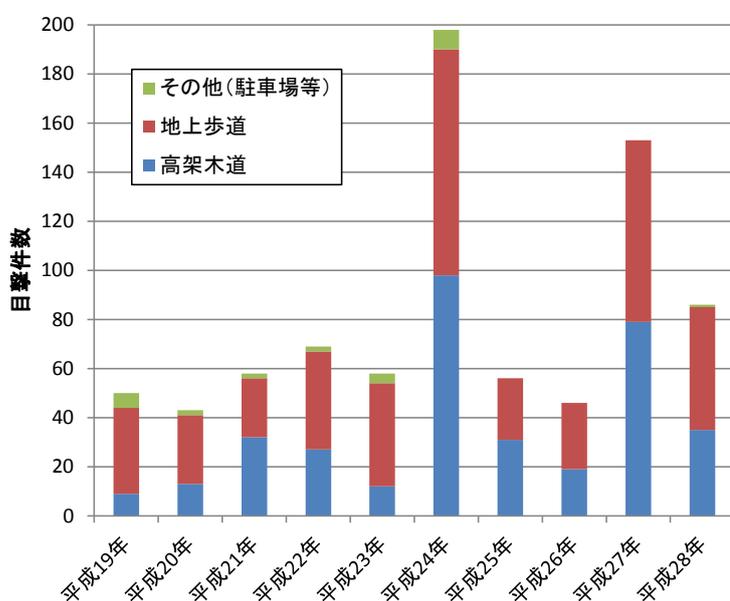


図 1-9. 五湖地区におけるヒグマ目撃情報の推移

表 1-6. 平成 24 年～平成 28 年における地上遊歩道の状況

	ヒグマ遭遇状況										地上遊歩道開閉状況*1														
	地上歩道遭遇回数					ツアー中止回数					終日開放日					緊急閉鎖/途中再開日					終日閉鎖日				
	H28年	H27年	H26年	H25年	H24年	H28年	H27年	H26年	H25年	H24年	H28年	H27年	H26年	H25年	H24年	H28年	H27年	H26年	H25年	H24年	H28年	H27年	H26年	H25年	H24年
植生保護期(春) 開園～5/9	1	5	0	0	1						11	17	13	8	17	6	4	1	1	3	3	0	8	12	0
4月計(開園～4/30)*2	1	1	0	0	0						6	10	4	8	11	4	1	1	1	0	1	0	8	3	0
5月計(5/1～9)	0	4	0	0	1						5	6	9	0	6	2	3	0	0	3	2	0	0	9	0
ヒグマ活動期 5/10～7/31	46	44	17	13	59	6	13	3	3	39															
5月計(5/10～31)	4	2	3	2	1	1	0	0	0	0															
6月計	14	12	5	8	14	2	2	2	2	9															
7月計	28	30	9	3	44	3	11	1	1	30															
植生保護期(夏) 8/1～10/20	2	24	7	8	24						66	51	71	74	30	9	26	10	7	32	6	4	0	0	19
8月計	0	7	3	2	10						21	19	27	28	0	4	12	4	3	16	6	0	0	0	15
9月計	2	13	1	3	7						27	19	29	29	15	3	11	1	1	11	0	0	0	0	4
10月計(～10/20)	0	4	3	3	7						18	13	15	17	15	2	3	5	3	5	0	4	0	0	0

*1 終日閉鎖、緊急閉鎖は荒天等を原因としたものも含む。

*2 H28年は4/20 11:00より開園

2) 高架木道の状況

本年の高架木道からのヒグマ目撃件数（35件）は過去3番目に多い数値となった。ヒグマ目撃件数は5月から7月にかけて多くなったが、8月以降はほとんどなくなり、例年とほぼ同じ傾向となった（図1-10）。ヒグマが出没した理由は草地でのアリの採食や子ジカの捕食と考えられた。ヒグマの目撃件数の月毎の増減は、ヒグマの餌資源の季節的变化に影響されていると考えられる。

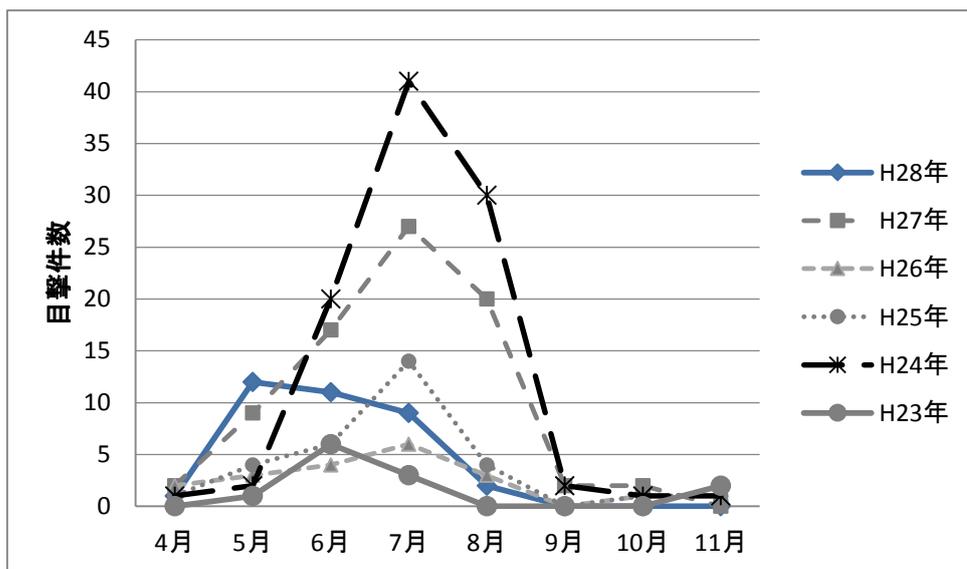


図1-10. 高架木道からのヒグマ目撃情報(平成23~28年)

イダシュベツ・カムイワッカ地区

同地区における目撃件数は46件で、昨年度の114件より68件少なかった。月別では6月が25件と最も多く、次いで7月が12件となった。4~5月および12月以降は同地区に至る道路が一般車両通行止めであったことから情報がなかった。

目撃情報のうち40件（87%）が五湖分岐からカムイワッカ湯の滝の道路沿いであり、湯の滝付近での目撃は6件（13%）であった（図1-11）。目撃の大部分（43件）が単独個体のものであった（写真1-22, 1-23）。

対応件数は12件で、パトロールが4件、直接的なヒグマの追い払いが3件、注意看板の設置等が3件であった。1件のみであったが誘引物除去として、シカの死体を回収した事例が10月10日にあった。ヒグマの痕跡はなく、ヒグマが餌付く前に回収することができた。シカ（メス成獣）の死体は新しく死後1日以内、胸部には細長い突起物で刺されたような穴があり、それが心臓を貫通していたため死亡したと考えられた。傷は非常に小さかったがシカの側面から逆側の皮膚の下まで達していたことから、長さ30cm以上の針状の突起物

に心臓を刺されて死亡したと考えられた。状況から交通事故や自然死とは考えにくく、何らかの人為的な物体によって刺された可能性が考えられた。

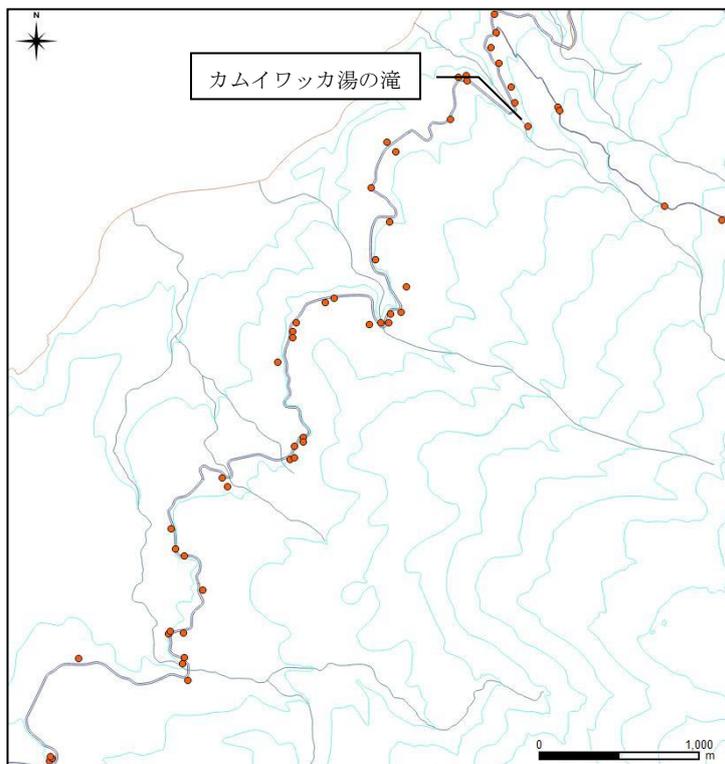


図 1-11. イダシュベツ・カムイワッカ地区におけるヒグマ目撃場所(平成 28 年度)
※場所が不明瞭な情報は省く



写真 1-22. 6 月 8 日にカムイワッカゲートより奥の道路法面に出没した単独ヒグマ

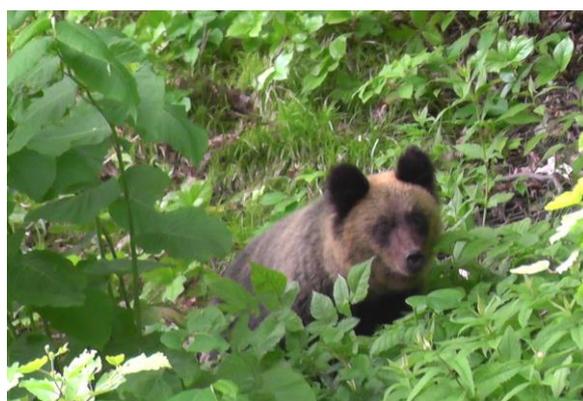


写真 1-23. 6 月 20 日にカーブミラーNo.21 付近に出没した単独ヒグマ

知床連山登山道地区

同地区での目撃件数は 29 件で、昨年度の 35 件より 6 件少なかった。月別の目撃件数は 7 月が 17 件と最も多く、次いで 8 月が 10 件となった。目撃場所別では羅臼岳登山道沿いで 17 件、硫黄山登山道沿いで 6 件、連山縦走路で 6 件となった。目撃されたヒグマは単独が 24 件、親子が 4 件であった。今年度から林野庁が登山者向けのヒグマアンケート用紙と回収ボックスを羅臼岳と硫黄山の登山口 3 箇所に設置し、登山道のヒグマ情報収集が強化され、その情報が関係者間で共有されるようになった。

本年は登山者とヒグマとが至近距離で遭遇して唸られる事例やヒグマが登山道脇にいて通れなくなる事例が発生した（表 1-7）。7 月 16 日から 17 日にかけて人を恐れないヒグマが羅臼平から三峰にかけての登山道近くに出没し、17 日には 100 名程の登山者が 1 時間以上足止めされる事例が発生した。8 月 13 日には硫黄山登山道において、登山者が親子グマと近距離で遭遇し親グマに唸られる事例が発生した。その他の場所でも至近距離での遭遇が相次いだ、いずれの事例も被害には至らなかった。

表 1-7. ヒグマと登山者の軋轢発生状況(平成 28 年)

期日	場所	状況
7月17日	知床連山縦走路	羅臼平付近で登山者100名程がヒグマに足止めされる
8月4日	羅臼岳登山道	650m岩峰付近で5mの至近距離遭遇
8月13日	羅臼岳登山道	弥三吉水手前で5mの至近距離遭遇
8月13日	硫黄山登山道	新噴火口～山頂の中間でヒグマに唸られる
8月18日	羅臼岳登山道	650m岩峰付近で8mの至近距離遭遇
8月25日	羅臼岳登山道	極楽平で2mの至近距離遭遇
8月27日	硫黄山登山道	登山口で5mの至近距離遭遇

知床横断道路地区

ヒグマ目撃件数は 48 件で、昨年度の 105 件より 57 件少なかった（前年比 46%）。月別では 7 月が 17 件と最も多く、次いで 5 月と 8 月が 10 件ずつとなった。対応件数は 12 件（前年度 54 件）で、そのうち 9 件が緊急出動したがヒグマの姿を確認できなかった事例、2 件がヒグマの追い払い、1 件がヒグマ対策パトロールであった。

前年はヒグマが自転車やバイクを追いかけたり、停車中の車に異常接近したり、のしかかる等の危険事例が発生したが、今年度は特に危険事例は確認されなかった。

目撃場所は横断道ゲートから数百mの区間で比較的多かった（図 1-12）。

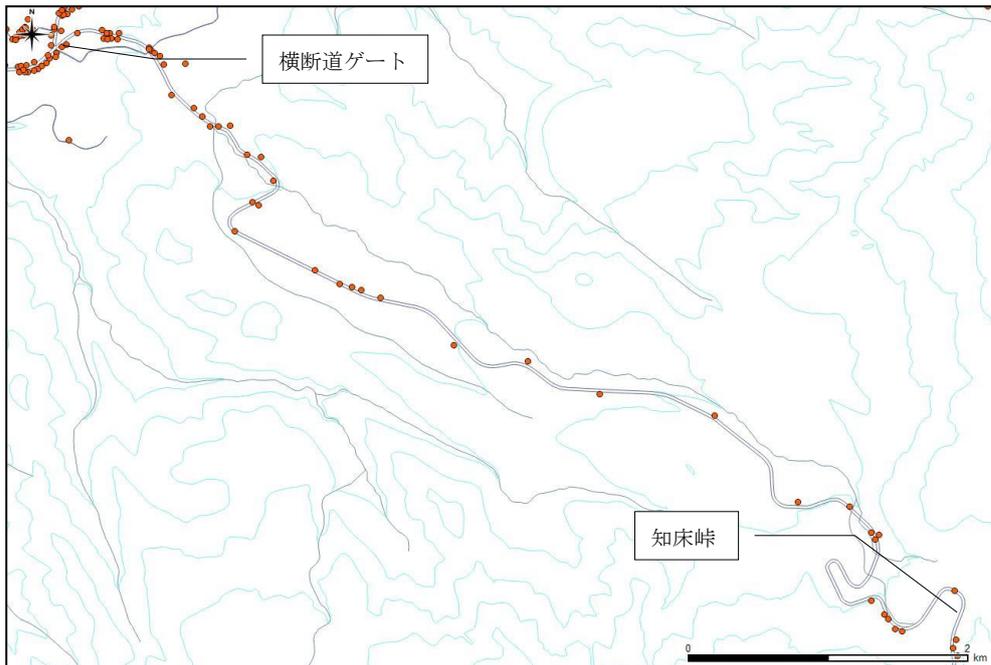


図 1-12. 知床横断道地区におけるヒグマ目撃場所(平成 28 年度)

知床岬地区

同地区でのヒグマ目撃件数は 1 件のみであった。同地区の目撃は人とヒグマの軋轢を伴うもののみ集計しており、実際のところ文吉湾周辺には日常的にヒグマが出没していることが漁業関係者の話から分かっている。1 件の目撃情報は国有林調査中の林野庁職員より寄せられたものであった。

昨年に引き続き、文吉湾では湾内へのヒグマ侵入を防止する目的で、当財団が独自事業として電気柵を 6 月 21 日に設置した。

幌別川ーオペケブ川地区 (国立公園外の鳥獣保護区)

同地区での目撃件数は 24 件となり、昨年度の 28 件より 4 件少なかった。月別では 5 月が 12 件と最も多く、次いで 4 月が 6 件となった。主な目撃場所は幌別川からウトロ東にかけての山側斜面であった。春期は特に幌別川付近での出没が多く、雪解けの早い斜面で草本を採食する行動が確認された。

ウトロ周辺地域は人に慣れた個体が住宅近くにまで出没する事例が相次いだ。以下に緊急性の高かった事例を記載する。

ウトロ東に複数のヒグマが出没

4 月の下旬から 5 月にかけてウトロ東(ウトロ沢～さいはて市場裏)の斜面に、連日のようにヒグマ

が出没したため、ヒグマの追い払い、パトロールや藪の除草等を実施した。出没した個体は少なくとも 4 組 8 頭(2 才 2 頭連れ親子(ID:09B06)、1 才 2 頭連れ親子(ID:UL)、単独メス成獣(ID:VL)、単独亜成獣(ID:TM))であった。ヒグマは斜面に芽吹いた草本(イラクサ等)を採食しにきており、実害は発生しなかったものの、頻繁に出没したため付近の住民や近くに作業場を持つ漁業者から不安の声が上がるようになった。

特に単独個体(VL)は斜面下部にまで降りてきて、声かけにも反応しないなど問題が見られ、住民や漁業者から駆除の要請が出るまでに至った(写真 1-24、1-25)。そのため関係機関と協議した結果、安全優先で射殺可能な状況が整えば、捕獲もやむなしという方針がとられた。しかしその後、VL は国立公園側へ移動したと見られ、ウトロ東には出没しなくなったため捕獲はされなかった。



写真 1-24. 5 月 17 日、ウトロ東のホテル裏に出没した VL

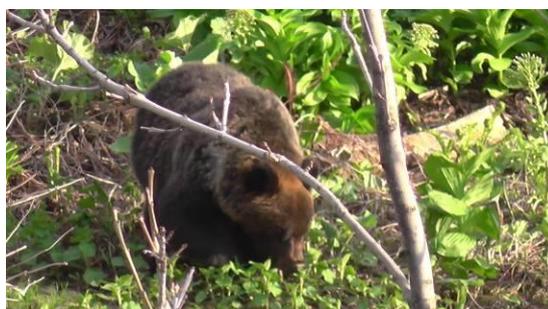


写真 1-25. 斜面で草本を採食する VL

あまり人慣れはしていないが、1 才 2 頭連れ親子(UL)も頻繁に斜面上部に出没したため、その都度追い払いを実施した。5 月下旬になると子グマのうち 1 頭が単独で行動するようになり、この個体が徐々に斜面下部に降りてくるようになった(写真 1-26)。威嚇して斜面上部に追いつける対応を何度か繰り返したが、飢餓状態のためか草本を採食しに再出没するような状況であった。5 月 30 日には子グマが漁業作業場近くにまで降りてきてしまったため、緊急的に麻酔銃で捕獲し、国立公園内の一般利用者が入らない奥地にて移動放獣した(写真 1-27)。

6 月以降、ヒグマの出没は大幅に少なくなり、月に 0~1 件程度となった。



写真 1-26. 5 月 30 日、ウトロ東に出没した UL の子



写真 1-27. 5 月 30 日、麻酔で不動化し奥地へ移動する UL の子(学術捕獲の許可範囲で捕獲を実施)

< 羅臼側 >

ルサー知床岬地区

ヒグマの目撃は 132 件であり、平成 27 年度の 124 件より 8 件増加した。月別では 7 月の 54 件が最も多かった。ヒグマ対策活動件数は 20 件であった。

相泊以北でのヒグマ目撃情報は、海岸線沿いに運航する小型観光船の乗員から寄せられるものが多くを占め、その他はトレッカー等の先端部地区利用者や関係機関職員による目撃情報であった。

本地区では、ヒグマへの接近および餌やりを禁止する看板を 2 基設置した。以下、道道 84 号知床公園羅臼線の終点である相泊を境に場所別の特徴を述べる。

【相泊川左岸－知床岬】

目撃件数 109 件、対策活動は 3 件であった。

ヒグマ対策活動は、3 件とも相泊での対応であった。これらは、ヒグマの目撃地点や特徴から同一個体である可能性が高かったが、2 度の追い払いにより同地点で目撃される事はなくなった。

赤岩地区については、平成 24 年度から別事業で昆布漁番屋に電気柵が導入されている。今シーズンにおいても、ヒグマが電気柵内に侵入するなどの深刻な事態は報告されなかったが、番屋周辺では頻繁にヒグマが目撃されたようであった。

例年、7 月末から 8 月にかけて開催されている「ふるさと少年探検隊」では、行程中に 2 件のヒグマ目撃があった。いずれも危険な遭遇ではなかったが、人間に対して警戒する様子は見られなかった。

【ルサー相泊川右岸】

ヒグマの目撃は 23 件、対策活動は 17 件であった。

本地区のヒグマ目撃件数は、平成 27 年度の 20 件より 2 件多かった。今年度は漁業生産活動が行われている海岸での目撃はなく、有害捕獲の対象となった個体もいなかった。

ヒグマ対策活動は、北浜で 7 件、相泊で 4 件、昆布浜と瀬石でそれぞれ 3 件と 2 件あった。本地区での目撃及び対応件数のうち、目撃 12 件、対応 8 件は同じ個体であり、耳標（左：青 25、右：黄 25）が付いたヒグマであった（写真 1-28）。このヒグマに対して 4 回追い払いを行ったが、反応は極端に悪かったため海岸への出没が懸念されていたが、7 月 31 日の追い払いを最後に目撃される事はなくなった。なお、耳標の番号からこのヒグマが 2013 年に斜里町ルシャ地区において学術捕獲された個体（ID:13B02）であることが判明した。



写真 1-28. 7 月 25 日に出没した耳標付き個体 (ID:13B02)

湯ノ沢町ー知床峠地区

湯ノ沢町の国立公園境界から知床峠にかけての知床横断道路沿い（羅臼側）、羅臼湖歩道、および羅臼岳登山道の羅臼温泉ルートを含む当地区におけるヒグマ目撃件数は 45 件で昨年度の 50 件より 5 件少なく、ヒグマ対策活動は 30 件で昨年度の 24 件より 6 件多かった。

なお、本地区では、湯ノ沢国道沿いの駐車場にヒグマへの接近および餌やりを禁止する看板を 1 基設置した。

本地区のヒグマ目撃 45 件のうち、38 件が知床横断道路での目撃であり、それに伴う対策活動は 27 件であった。以下、場所別に特徴を述べる。

【羅臼湖歩道および知床横断道路】

ヒグマの目撃は 40 件あり、対策活動は 27 件であった。40 件の目撃の内、2 件は羅臼湖歩道、38 件が知床横断道路での目撃であった。なかでも、6 月から 8 月にかけて羅臼湖入口ー知床峠駐車場までの区間で目撃が集中し、38 件のうち 29 件がこの区間であった。うち 21 件で対応を行ったがいずれも単独個体で、この個体は道路脇で採食を行うなど人間の存在をまったく警戒しない行動が見られた（写真 1-29, 1-30）。また、8 月に入ってから 1 歳程度の小型のヒグマが単独で道路脇にいるのが連日目撃され（写真 1-31）、麻酔銃を用いた捕獲・移動放獣を試みた。結局、捕獲には至らなかったが、当該個体の DNA サンプルの採取には成功した。その後このヒグマは、8 月 6 日の目撃を最後に知床横断道路沿いで目撃される事はなくなった。なお、北海道大学を中心とした共同研究グループによって、羅臼湖入口から知床峠駐車場の間で採取された糞から採取した DNA サンプルが解析された。その結果、平成 26 年度から同区間において頻繁に目撃されていた子 2 頭連れ親子（親グマ ID:08B14）の、親と子の DNA が検出され、今年もこの区間を利用していたことが判明した。



写真 1-29. 7月6日に横断道沿いに出没した単独個体



写真 1-30.横断道のすぐ脇でフキを食べる単独個体(7月6日)



写真 1-31. 8月4日に横断道沿いに出没した推定1才のヒグマ

【知床国立公園羅臼温泉野営場周辺～羅臼町民温水プール】

ヒグマの目撃は2件、対策活動4件であった。本地区での平成27年度の目撃は7件、対策活動は5件であった。

対策活動はいずれも痕跡等の調査のみであり、目撃を伴う対応はなかった。9月15日に間欠泉付近でヒグマ1頭が目撃されたが、目撃から通報までかなりの時間が経過していたことから、対応出動はしなかった。

【羅臼岳登山道（羅臼温泉ルート）】

目撃件数は3件、対策活動はなかった。

目撃があったのは里見台付近1件、屏風岩付近で2件あった。里見台付近の目撃では、登山道にヒグマがいたため目撃者はその場で引き返したとのことであった。

羅臼市街地北側－岬町地区（国指定鳥獣保護区内）

羅臼市街地北側（栄町、富士見町および船見町）から共栄町、海岸町、岬町を経て北浜の国立公園境界に至る本地区は、住宅地や道道の背後に広がる町有林および国有林が国指定鳥獣保護区に指定されている（国立公園区域には指定されていない）。本地区におけるヒグマの目撃件数は34件（昨年度81件）、ヒグマの対策活動件数は36件（昨年度80件）であり、ともに昨年度より少なかった。なお、上記の数字には、鳥獣保護区外である海岸、道路敷、および住宅敷地内における目撃や対策活動の件数は含まれていない。鳥獣保護区と接している住宅敷地内などの隣接地域では目撃が4件、対策活動が11件（昨年度目撃5件、対策活動16件）あった。

本地区では、鳥獣保護区内での有害捕獲はなかったが、保護区外で1件の捕獲があった。これは、水産加工場の敷地内で残渣を荒らされる被害が発生したことによるものであった（写真1-32）。被害後の調査によって、ヒグマが同加工場の残渣置き場に3日連続で訪れていることが確認された。このヒグマは、知床半島ヒグマ保護管理方針で問題個体と位置付けられた「行動段階2」の個体であるため、有害捕獲対象となり、1頭のヒグマが有害捕獲された。捕獲個体は体重206kgのオス成獣であった。

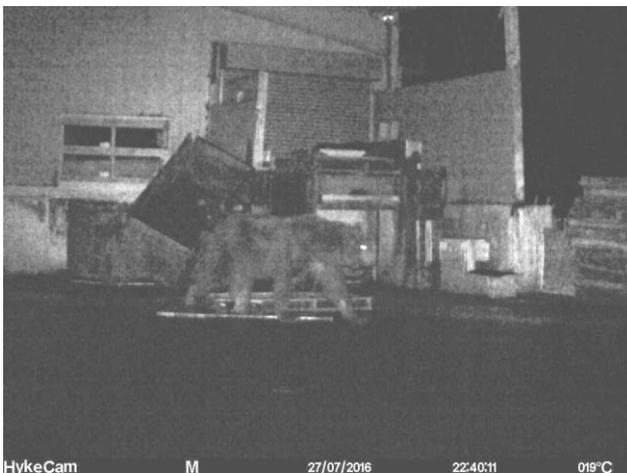


写真 1-32. 7月27日に水産加工場で自動撮影されたオス成獣

1-4. まとめ

1) 平成 28 年度のヒグマ出没状況について

今年度において斜里および羅臼のヒグマ目撃件数は過去 3 番目に多かった。ヒグマの人為的死亡数（有害・狩猟・事故含む）は、鳥獣保護区内では 0 頭であった。目撃や対応の件数は例年より比較的多かったが、捕獲対象となるような事例はほぼなかった。羅臼側では、今年のマス遡上が例年より多く、河川内の餌資源が豊富だったため、8 月以降は河川へ執着したと推測される。また、今年度から別事業で新たに緩衝地帯作りを行っており、道路沿いでヒグマ目撃がありフキ等の藪に食痕やヒグマの通り道などの痕跡が認められた場所や、例年目撃が多い場所では積極的に草刈りを実施していた。草刈りを実施した場所で再度ヒグマが目撃された事例は 1 件しかなかったことから、草刈りによってヒグマの出没が抑制されていた可能性が考えられる。

過去と比較すると本年の状況は平成 25 年および 26 年の状況と似ている。平成 25～26 年は平成 24 年の大量出没および大量捕獲の後であり、一時的にヒグマの頭数が減少したことと、サケ・マス遡上状況やミズナラの実りが比較的良好だったことから、食物が安定して得られていた可能性があった。平成 27 年は再び大量出没および大量捕獲が起こり、知床半島全体で少なくとも 68 頭のヒグマが死亡し、今年に強く影響をおよぼしている可能性が考えられる。この状況下で過去 3 番目に目撃件数が多かった理由は、人とヒグマの距離が縮まり、ヒグマが人の存在に慣れてしまったことと関係していると考えられる。ヒグマが人に慣れた状況で再び食物不足が発生すれば、また多くのヒグマが捕獲される恐れがある。

今年度、人身事故は発生しなかったが、人とヒグマのニアミスが発生し、危険事例が複数発生した。農業被害や漁業施設への接近・破損事例は、昨年度と比較して少なかったが根本的な問題は解決されていない。被害を減らす方法として、電気柵の普及やゴミ・食糧の管理の強化、観光客への普及啓発等を地道に行っているが、現状は十分とは言えない。

2) ヒグマの人慣れと危険事例

斜里町のウトロでは国立公園内で人の存在に慣れたヒグマが公園外の住宅近くに接近する事例が発生した。また国立公園の境界である幌別川では人に慣れたヒグマが頻繁に出没するだけでなく、釣り人の荷物を漁るなど、一線を越える行動をする個体が現れた。地域住民や釣り人からは駆除を求める意見が上がっていたが、ヒグマの追い払いの強化や釣り人の意識改善に力を入れた結果、捕獲には至らなかった。昨年引き続き車に足をかけるヒグマが今年も確認され、餌付けされた疑惑のある個体も確認された。ヒグマの人慣れは急速に進行しており、これらの個体は餌不足になれば行動がエスカレートする恐れがある。

一方でヒグマを目的とするビジターやカメラマンは多数存在し、ヒグマを見たい、撮影したいという大勢の欲求がヒグマの人慣れを加速させている状況である。威嚇弾による追

い払いは一時的なものにすぎず、根本的にヒグマの人慣れを抑制するには人間のヒグマへの接近の強制的なコントロールや、あるいは人慣れを引き起こさずに利用者の欲求を満たす方法の検討などの根本的な取り組みが必要と考えられる。

3) ルサ - 相泊地区における電気柵設置

羅臼町では、平成 23 年から平成 27 年度にかけて、ダイキン工業株式会社からの支援を受けた羅臼町により、順次電気柵が導入された。電気柵設置区間における今年度のヒグマ目撃は 25 件（うち電気柵稼働期間中の目撃 14 件）、電気柵の内側でヒグマが目撃された事例は 2 件（ルサ川：1 件、電気柵稼働期間外の進入：1 件）であった。電気柵の内側で目撃された際には、速やかに侵入箇所や原因の解明を行った。その結果、電気柵の破損や不備が認められたため修繕を行い、以降、同じ場所でヒグマが目撃されることはなかった。

これらの事から、電気柵は人の生活圏へのヒグマの侵入に対し、一定の効果을上げていると考えられた。

4) 近年におけるヒグマ出没と対応状況について

今年度のヒグマ出没状況および対応状況を過去と比較するため、過去 10 年間の国立公園および鳥獣保護区におけるヒグマ目撃件数と対応件数および有害捕獲頭数を表 1-8 に示した。目撃件数と対応件数は過去 3 番目の多さとなり、平均を上回った。一方、有害捕獲頭数は 0 頭となり過去 10 年間で初めての事例であった。ただし鳥獣保護区外では、斜里町で 11 頭、羅臼町で 1 頭の計 12 頭が有害捕獲されている。羅臼町では例年より少なかったが、斜里町では例年並みの有害捕獲頭数であった。

表 1-8. 国立公園および鳥獣保護区における過去 10 年間のヒグマ目撃情報および対応状況

年度(平成)	目撃件数			対応件数			有害捕獲頭数		
	斜里側	羅臼側	合計	斜里側	羅臼側	合計	斜里側	羅臼側	合計
19	656	85	741	400	58	458	3	7	10
20	750	75	825	409	56	465	1	9	10
21	654	100	754	362	56	418	2	7	9
22	509	140	649	311	68	379	0	7	7
23	759	192	951	388	124	512	2	4	6
24	1,702	280	1,982	823	177	1,000	4	20	24
25	697	65	762	431	40	471	1	1	2
26	703	78	781	395	58	453	2	3	5
27	1,301	255	1,556	659	120	779	3	7	10
28	930	211	1,141	493	86	579	0	0	0

過去 10 年間の目撃件数を地区別に示したのが表 1-9 である。今年度はほとんどの地区で前年度以下のヒグマ出没となった。斜里側ではほとんどの地区で例年並みもしくはやや多い程度であった。羅臼側ではルサ-知床岬地区で過去最多となったが、観光船からのヒグマ目撃情報が占める割合が大きい。湯の沢町-知床岬地区で過去 2 番目の多さとなったが、羅臼市街地北側-岬町地区では例年並みであった。

表 1-9. 国立公園および鳥獣保護区における過去 10 年間の地区区分別目撃件数の推移

地区区分	年度(平成)										
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
斜里側											
幌別・岩尾別地区	456	567	469	330	455	1192	545	505	866	696	
知床五湖園地地区	52	45	58	70	58	198	56	46	153	86	
イダシュベツ・カムイワッカ地区	52	33	57	36	90	85	34	38	114	46	
知床連山登山道地区	26	30	32	21	60	56	17	10	35	29	
知床横断道地区	11	22	25	16	33	42	35	44	105	48	
知床岬地区	6	6	0	10	13	4	1	0	0	1	
幌別川-オペケブ川地区	53	47	13	26	50	125	9	60	28	24	
小計	656	750	654	509	759	1702	697	703	1301	930	
羅臼側											
ルサー-知床岬地区	19	38	57	99	105	112	38	37	124	132	
湯ノ沢町-知床岬地区	35	15	20	23	27	39	17	13	50	45	
羅臼市街地北側-岬町地区	31	22	23	18	60	129	10	28	81	34	
小計	85	75	100	140	192	280	65	78	255	211	
総計	741	825	754	649	951	1982	762	781	1556	1141	

※セルの濃淡は各地区の 10 年間の数値を比較しての強弱を表す。白が最少値で色が濃くなるほど数値が高い。

国立公園外を含んだ斜里町および羅臼町のヒグマ目撃件数の推移を図 1-13 と 1-14 にそれぞれ示す。今年度の斜里町のヒグマ目撃件数は、データを取り始めた平成 5 年度以降、

過去3番目に多く、羅臼町のヒグマ目撃件数もデータを取り始めた平成19年度以降、過去4番目に多かった。過去のヒグマ出没状況を比較してみる限りヒグマの出没には年毎に波があり、来年度以降がどのような状況になるか予測することは困難である。大量捕獲となった平成24年度以降の2年間は目撃件数が減少したが、同じ大量出没のあった平成27年度の翌年である今年度は例年と比較して減少はしていない。

目撃件数が多いからといってヒグマの個体数が減っていないと判断するのは早急である。このような大量捕獲が地域個体群にどの程度の負荷をかけているか解明されておらず、大量出没に対し捕獲のみを継続していけば知床半島の個体群の衰退につながる恐れがあり、個体群に関するデータ不足のままでは楽観視はできない。

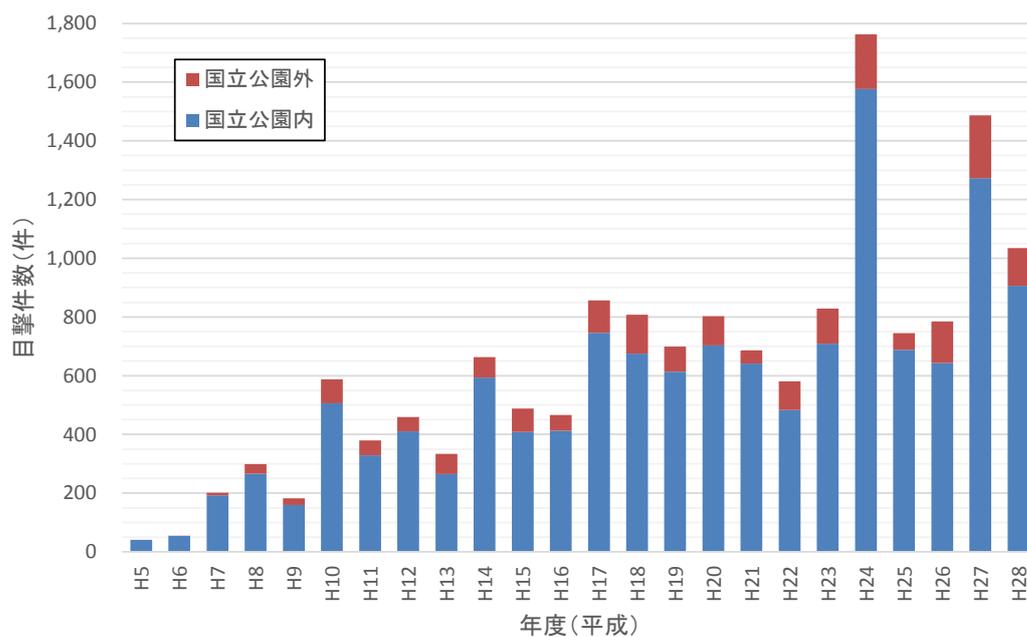


図 1-13. 斜里町におけるヒグマ目撃件数の推移

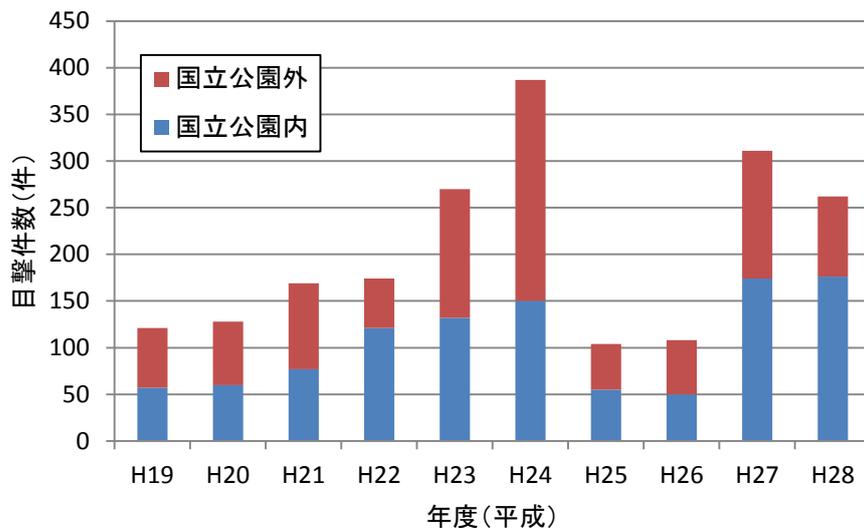


図 1-14. 羅臼町におけるヒグマ目撃件数の推移

表 1-10 に過去 10 年間における特筆すべきヒグマ出没事例と、国立公園内での主な出来事等を年表としてまとめた。知床半島が世界自然遺産に登録されてから、平成 28 年で 11 年が経過した。近年、国立公園内の施設や利用状況は大きく変化している。特に知床五湖園地地区では、新施設の設置や利用調整地区制度導入などの変化があった。羅臼側ではルサから相泊に至る区間に電気柵が設置されるなど、ヒグマの行動に強く影響すると考えられる施設の変化があった。平成 27 年には北海道生物の多様性の保全等に関する条例によりヒグマへの餌付け行為が禁止された。

この 10 年間で、偶発的なヒグマとの遭遇や人慣れ個体の出現、食料やゴミにヒグマが誘引された事例は、毎年のように発生している。また近年、5 年間以内の短い期間にヒグマの大量出没と大量捕獲が 2 回も発生しており、これまで以上に地域個体群の保全を念頭に置いた対策を実施し継続していく必要がある。

表 1-10. 過去 10 年間における斜里町・羅臼町でのヒグマ管理対策に関する出来事

年	斜里町・羅臼町におけるヒグマ出没状況(特記事項)	知床国立公園内の主な出来事	その他の主な出来事
2007年 (平成19年)	<ul style="list-style-type: none"> フレベの滝遊歩道でヒグマが利用者の近くでシカを追いかける事例が複数回発生。 五湖地上遊歩道で観光客がヒグマに威嚇される事例が発生。 岩尾別温泉のホテルのゴミ箱がヒグマに荒らされる事例が発生。 ヒグマを追い払い中のヒグマ対策員が轟音玉で負傷する事例が発生。 カムイワッカでヒグマが頻繁に出没し、利用者がバスに一時退避する事例が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境省が新・羅臼ビジターセンターを開設。 「カムイワッカ地区でヒグマが出没した際の対応方針」を関係機関が取りまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床財団に羅臼地区事業係が新設され、新・羅臼ビジターセンターを拠点に活動開始。 羅臼町が知床財団にヒグマ管理対策業務の委託を開始。 斜里町がウトロ市街地を囲う柵を設置。
2008年 (平成20年)	<ul style="list-style-type: none"> 真鯉のエゾシカファームにヒグマが侵入しシカを捕食する事例が発生。 国設羅臼温泉キャンプ場で、人が入っている状態のテントがヒグマに破られる事例が発生。根室支庁が同キャンプ場の一部に電気柵を設置。 羅臼岳登山道で登山者がヒグマに威嚇突進され転倒する事例が発生。 漁業番屋の番犬がヒグマに叩かれ瀕死の重傷を負う事例が発生。 海岸町～岬町にかけて魚目当てにヒグマが物置を荒らす事例が発生。 		<ul style="list-style-type: none"> 「知床国立公園先端部地区利用の心得」の策定。 幌別駐車帯がヒグマの出没が頻繁という理由で、夏期から秋期にかけて閉鎖される。その後毎年実施されるようになる。
2009年 (平成21年)	<ul style="list-style-type: none"> ウトロ東でヒグマが物置の戸を破壊する事例が発生。 知床岬を目指すトレッカーが念仏岩でテントと食料をヒグマに荒らされる事例が発生。これを受け関係機関が海岸トレッキングの自粛を要請。 知床峠付近で利用者がヒグマに約1mまで接近される事例が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床五湖で高架式木道が第2展望台まで延長される。 環境省が羅臼町北浜にルサフィールドハウスを開設。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境省がウトロ地区に知床世界遺産センターを開設。
2010年 (平成22年)	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼岳登山道でヒグマがエゾシカを捕食する事例が発生。関係機関が登山道利用の自粛を要請。 相泊～知床岬間を巡視中の環境省職員が、負傷したヒグマに威嚇突進を受け、転倒し軽傷を負う事例が発生。 崩浜付近をトレッキング中の観光客の犬がヒグマに襲われ、逃げる犬を追ってヒグマが飼い主に急接近する事例が発生。 斜里町市街地に親子グマ2頭が出没し駆除される事例が発生。役場に全国から苦情が殺到。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床五湖で高架式木道が第3展望台まで延長される。 五湖地上遊歩道で知床五湖利用コントロール導入実験が約1カ月間実施される。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床半島ヒグマ保護管理方針の検討が始まる。
2011年 (平成23年)	<ul style="list-style-type: none"> 秋期にウトロ市街地でヒグマの出没が相次ぐ。ウトロ東の民家ベランダにヒグマが侵入する事例が発生。 斜里市街地近くにヒグマが連続出没。防風林縁などに電気柵が設置される。 羅臼町のヒグマ目撃件数が過去最大となる。 羅臼町海岸でトドの死亡漂着が相次ぎ、ヒグマが誘引される事例が発生。 秋期に共栄町～岬町にかけて干し魚を奪われる事例が複数回発生。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境省が知床五湖フィールドハウスを開設。五湖地上遊歩道で利用調整地区制度が導入される。 知床公園線の五湖～カムイワッカ区間で一部の期間、一般車両の通行が可能になる。 硫黄山登山道が利用可能となる。 ダイキン工業からの寄付を受けた羅臼町によって昆布浜地区に電気柵が設置される。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床岬地区にエゾシカ捕獲用の仕切り柵が設置される。
2012年 (平成24年)	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼町でのヒグマ目撃・対応件数および有害捕獲頭数が過去最多となった。 羅臼町で警察官職務執行法第4条第1項が適応された事例が発生(警察官の命令による日没後発砲)。 1990, 1992, 1999年に学術捕獲されていた個体「通称:ローズ」が羅臼町で有害捕獲となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ダイキン工業からの寄付を受けた羅臼町によってルサから昆布浜までの区間に電気柵が設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床半島ヒグマ保護管理方針の策定(3月)
2013年 (平成25年)	<ul style="list-style-type: none"> 岩尾別川に人慣れヒグマが出没しカメラマン集まる。科学委員会が緊急声明を発表。 羅臼町において、市街地の最中心部をヒグマが横断する事例が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> ダイキン工業からの寄付を受けた羅臼町によって昆布浜から相泊までの区間に電気柵が設置される。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床ヒグマえさやり禁止キャンペーンが実施される。
2014年 (平成26年)	<ul style="list-style-type: none"> 前年秋に岩尾別川に出没していた人慣れヒグマが半島基部に移動し有害捕獲となる。 斜里側のブニ岬付近の国道でヒグマが自転車を追いかける事例が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床五湖が駐車場工事のため10月14日から閉園となる。 「100平方メートル運動地公開を目的とした社会実験」が幌別・岩尾別地区で実施される。 	<ul style="list-style-type: none"> 斜里町でクジラやトドなど海獣類の死体漂着が例年より多く発生。 ミズナラの結実が例年より突出して豊作となる。
2015年 (平成27年)	<ul style="list-style-type: none"> ヒグマの出没が2012年に次ぐ多さ。農地や住宅地での人為的死亡頭数(捕獲、交通事故、羅網含む)が過去最多となる。 2013年から幌別地区で頻繁に出没したオス亜成獣がウトロ周辺で駆除となる(ID:RB,ゾーン4)。 真鯉地区で交通事故により負傷したヒグマが駆除となる(ID:15B05,ゾーン2)。他に1頭、交通事故で死亡(ID:15B09,ゾーン2)。 横断道でヒグマが自転車を追いかける事例が発生(ID:08B14疑い,ゾーン3)。 ウトロのコンビニエンスストア駐車場で深夜にヒグマが目撃される(ID不明,ゾーン5)。 ヒグマがウトロ郊外の住宅の窓をのぞき込む事例が発生(ID不明,ゾーン4)。 岩尾別付近でヒグマが自ら車に接触しようとする事例が発生(ID:EX疑い,ゾーン3)。 岩尾別でヒグマが乗用車を叩く事例が発生(ID不明,ゾーン3)。 岩尾別でヒグマがバイクを追いかける事例が発生(ID不明,ゾーン3)。 幌別でヒグマが車に足をかけ揺らす事例が発生(ID:09B06,ゾーン3)。その後、当個体の子(06spot)が車に自ら接触する事例が複数回発生。 日の出地区にクジラ死体が漂着し、ヒグマが定着する事例が発生(ID不明,ゾーン4)。 ルシヤ地区において麻酔事故でヒグマが死亡(ID:BE)。 単独亜成獣がウトロ東の沿岸を泳ぎウトロ漁港へ接近する事例が発生(ID:CP)。 斜里市街地の町民公園内でヒグマの足跡が発見される(ゾーン5)。 エゾシカファームにヒグマが繰り返し侵入する事例が発生し、1頭が有害捕獲となる(ID:DF,ゾーン2)。 幌別川河口でヒグマが釣り人の荷物を漁る事例が発生し、単独♀を有害捕獲(ID:EX,ゾーン3)。 幌別川河口でヒグマが釣り人の放置したサケを食べる事例が発生。追い払い中に実弾が誤射されヒグマが手負いとなり、緊急駆除(ID:15B51,ゾーン3)。 羅臼町海岸町において、♀0才が網に絡まって死亡する事例が発生。 羅臼町相泊以北の釣り場において、釣り人が釣り上げたマスや釣り人の持参した食べ物がヒグマに奪われる事例が複数回発生。 羅臼町内の水産加工場被害が過去最多となり、4か所の加工場が被害に遭った。 知床峠において、ゴム弾で0才が負傷する事故が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床世界自然遺産登録10周年 知床自然センター改修工事 岩尾別温泉道路のカメラマン対策2年目 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年のミズナラ堅果が春先に豊富に残る ネズミ類が増える 秋期のミズナラ堅果が不作 斜里側のカラフトマス遡上不調 北海道生物多様性保全条例(ヒグマ餌付け禁止条例)
2016年 (平成28年)	<ul style="list-style-type: none"> 斜里町ウトロ東に親からはぐれた子グマが出没。麻酔銃で不動化し奥地放獣。 ウトロ市街地内でヒグマの痕跡が相次いで見つかる。 幌別川で釣り人の自転車がヒグマに壊される。その後もヒグマが釣り人の荷物や魚を漁る事例が複数回発生。 斜里町の幌別～岩尾別地区でヒグマが車に接近する事例が多発。同エリアで車にのしかかるヒグマが確認される。 羅臼町岬町の水産加工場の残滓がヒグマに漁られ、1頭が有害捕獲となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒグマ出没頻繁化により、幌別川河口が立入禁止となる。 常連釣り人により「幌別の釣りを守る会」が発足 幌別川河口開放に併せて残滓入れボックスを設置 岩尾別温泉道路のカメラマン対策3年目 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道知床世界自然遺産条例が制定される 知床半島ヒグマ保護管理方針運用から5年経過(1期終了)。メスの捕獲数が目標値を超える。

表 1-11. ヒグマの行動段階区分の判定基準

段階	有害性	人に対するヒグマの行動	人為的食物の採餌や、人の財産・所有物に対するヒグマの行動
3	大 ↓ 小	人につきまとう、または積極的に人を攻撃する (iii)	I または II
2		i または ii	人為的食物を食べた、あるいは農作物や漁獲物、人の財産・所有物に実害を与えた (II)
1		人を避けない一人との遭遇を気にせず遭遇しても慌てて逃げていくような行動が見られない (ii)	人為的食物(生ゴミや農作物など)を食べていない、また人の財産・所有物に実害を与えていない (I)
0		人を避ける一人との遭遇を積極的に避け、仮に遭遇してもヒグマの方から逃げて行く (i)	

平成 28 年度におけるゾーン別・行動段階別のヒグマ対応状況

今年度において実施したヒグマ対応件数をゾーン別とヒグマ行動段階別に集計したものが表 1-12 (斜里側)、1-13 (羅臼側) である。斜里側では 269 件、羅臼側では 113 件の事例においてヒグマの行動段階を区分した。両町とも段階 1 のヒグマの出没が最も多く、全体の 90%以上を占めた。行動段階 3 の個体は確認されなかったが、行動段階 2 は斜里町で 19 件、羅臼町で 3 件確認された。行動段階 2 の個体の大部分は農地や水産加工場で有害捕獲された事例であった。

ゾーン別に比較すると、斜里側ではゾーン 3 の目撃事例が最も多く全体の 72%、羅臼側ではゾーン 5 の目撃事例が最も多く全体の 53%を占めた。昨年度と比較すると今年度は斜里町側でゾーン 4 の、羅臼町ではゾーン 3 での目撃事例が占める割合が大きかった。

表 1-12. 平成 28 年度の斜里町において実施したヒグマ対策のゾーン別・行動段階別集計

ゾーン	行動段階				合計
	0	1	2	3	
1	0	0	0	0	0
2	0	2	0	0	2
3	3	189	2	0	194
4	0	56	17	0	73
5	0	0	0	0	0
合計	3	247	19	0	269

※痕跡のみや 2 次情報のみなどヒグマの行動段階が不明なものは除く。

表 1-13. 平成 28 年度の羅臼町において実施したヒグマ対策のゾーン別・行動段階別集計

ゾーン	行動段階				合計
	0	1	2	3	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	44	0	0	44
4	0	9	0	0	9
5	0	57	3	0	60
合計	0	110	3	0	113

※痕跡のみや 2 次情報のみなどヒグマの行動段階が不明なものは除く。

過去 5 年間におけるゾーン別・行動段階別のヒグマ対応状況

平成 24 年度から平成 28 年度までにおける過去 5 年間のヒグマ対応件数をゾーン別に集計したものが表 1-14、ヒグマ行動段階別に集計したものが表 1-15 である。斜里側は基本的にゾーン 3 におけるヒグマの対応件数が多く、ゾーン 5 は例年 1~2 件であった。5 年間で比較すると今年度はゾーン 4 の占める割合が 27.1%と大きくなった。

羅臼側は年によってゾーン 3 とゾーン 5 の件数の増減が大きく、ヒグマが大量出沒した平成 24 年度はゾーン 5 の対応件数が 93 件 (57.8%) と最多となった。今年度もゾーン 5 の件数が 53.1%と半数を占め、同様の傾向であった。

行動段階別に見ると基本的に 90%以上のケースでヒグマの行動段階は 1 以下と判定された。ただしヒグマの大量出沒があった平成 24 年度と平成 27 年度は、行動段階 2 が比較的多く確認された。ヒグマ出沒の絶対数が増えることで、ヒグマが人為的食物を採取する可能性が高まると考えられた。一方で行動段階 3 は過去 5 年間で確認されていない。ただし判定基準を満たしていない、もしくは証拠が不足したり、個体識別ができなかった等の理由で段階 3 に判定できなかった事例は存在する。平成 27 年に知床横断道で自転車を追いかけた個体や車に足をかけて揺らした個体、平成 28 年に釣り人に接近し魚を奪った個体や車に積極的に接近する個体が存在した。このように実害を及ぼしていないが自ら人に接近する行動をする等、危険な兆候が見られたケースが複数確認された。今後、行動段階 3 の基準をさらに明確化する必要があると考えられる。

表 1-14. 平成 24～28 年の斜里町および羅臼町において実施した
ヒグマ対策のゾーン別集計

町別	ゾーン	H24(2012)年		H25(2013)年		H26(2014)年		H27(2015)年		H28(2016)年	
		件数	比率								
斜里	1	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	2	23	7.0%	11	6.0%	10	5.4%	26	7.3%	2	0.7%
	3	283	85.8%	165	90.7%	147	79.0%	287	80.6%	194	72.1%
	4	21	6.4%	3	1.6%	28	15.1%	41	11.5%	73	27.1%
	5	2	0.6%	2	1.1%	1	0.5%	2	0.6%	0	0.0%
	計	330	100.0%	182	100.0%	186	100.0%	356	100.0%	269	100.0%
羅臼	1	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	2	2	1.2%	0	0.0%	3	7.3%	2	1.6%	0	0.0%
	3	47	29.2%	24	70.6%	15	36.6%	32	25.8%	44	38.9%
	4	17	10.6%	5	14.7%	2	4.9%	12	9.7%	9	8.0%
	5	93	57.8%	5	14.7%	21	51.2%	78	62.9%	60	53.1%
	計	161	100.0%	34	100.0%	41	100.0%	124	100.0%	113	100.0%

表 1-15. 平成 24～28 年の斜里町および羅臼町において実施した
ヒグマ対策の行動段階別集計

町別	行動段階	H24(2012)年		H25(2013)年		H26(2014)年		H27(2015)年		H28(2016)年	
		件数	比率								
斜里	0	11	3.3%	2	1.1%	2	1.1%	8	2.2%	3	1.1%
	1	314	95.2%	179	98.4%	184	98.9%	338	94.9%	247	91.8%
	2	5	1.5%	1	0.5%	0	0.0%	10	2.8%	19	7.1%
	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	330	100.0%	182	100.0%	186	100.0%	356	100.0%	269	100.0%
羅臼	0	8	5.0%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	1	147	91.3%	33	97.1%	41	100.0%	113	91.1%	110	97.3%
	2	6	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	11	8.9%	3	2.7%
	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	161	100.0%	34	100.0%	41	100.0%	124	100.0%	113	100.0%

ヒグマの人為的死亡数と保護管理方針の目標値

知床半島ヒグマ保護管理方針では、5才以上のメスヒグマの人為的な死亡数を総数で30頭以下にする目標を掲げた。しかし5年間で2回の大量出沒と大量捕獲が発生した結果、5才以上のメスヒグマの人為死亡数は39頭に及んだ（巻末資料：調査研究・モニタリング項目①② 斜里町と羅臼町におけるヒグマの人為的死亡数）。すなわち目標数を9頭超過してしまい、方針の目標を守れなかったことになる。また、5年間の斜里町および羅臼町における捕獲数の合計は187頭となり、平成23年以前の5年間と比較して1.25倍となった。

この結果から二つの可能性が考えられる。一つは方針を策定する段階で想定していた頭数以上にヒグマの個体数が多く、平成24年および平成27年の大量捕獲が個体群にあまり影響を及ぼさなかったということ、もう一つは、個体数は想定内であったが生息環境の悪化により、ヒグマが人里に出沒しやすくなり、結果として捕獲されやすくなったということである。前者であれば人為的死亡数の超過がもたらす個体群への影響は少ないと考えられるが、後者であれば近年の大量捕獲が個体群に相当な悪影響を及ぼしている可能性が高い。現在も知床半島のヒグマ個体群の生息頭数については精度の高い推定値が得られていないが、死亡個体の頭数や年齢構成、生存個体も含めて遺伝子情報などを解析し続けることで、より正確な頭数を把握することが必要と考えられる。

重要な問題は、仮にヒグマの捕獲数が目標を超過したとしても、農業被害や生活被害を及ぼしている個体を放置することは、これまで同様に今後も現実的に不可能ということである。平成 24 年度および平成 27 年度のような大量出没が発生した際に、捕獲以外の方法で問題を解決する具体的な方法を検討しなければ、目標値を立ててもまったく意味をなさない。具体的にはヒグマによる被害が発生しないよう予防体制が重要であり、住民やビジターの意識改革や行動改善のための制度整備、農地や住宅地への電気柵の導入等の被害予防策の充実などが必要である。さらに一般狩猟がヒグマの死亡に拍車をかけていることから、ヒグマの死亡数が増加した状況ではヒグマの狩猟捕獲数や狩猟捕獲期間に一定の制限を加えるなど、臨機応変な対応が可能な仕組みの構築が必要と考えられる。

2. 野生動物との共生に関する情報周知

野生動物との共生を図るため、一般ビジターや登山者、釣り人、カメラマン等の利用者が守るべきルールやマナーを啓発するため、情報周知看板の作成と設置および撤去、チラシの作成等を行った。またインターネット（ホームページ、ツイッター等）を利用して普及啓発情報を発信した。

2-1. 情報周知看板の作製・設置・撤去

情報周知看板として、ヒグマ注意看板 15 基とキャッチ・アンド・リリースを呼び掛ける看板 6 基、ヒグマ撮影に関する注意看板 1 基、計 22 基の看板の作製、設置および撤去を行った。

・ヒグマ注意看板の作製・設置・撤去

ヒグマ出没の多い場所では国立公園利用者にヒグマの生息地であることを啓発するため、看板の設置を行った（写真 1-33、1-34）。設置場所は国立公園内の道路沿いやカムイワッカといった利用拠点周辺で、斜里側に 12 基、羅臼側に 3 基それぞれ設置した（表 1-16、図 1-16、1-17）。看板の内容は設置場所によって一部異なり、全部で 6 種類とした。看板は自然センター駐車場に設置した 2 基を除き積雪期前に撤去した。

このうち、斜里側の看板 1 基は今年度新たに作製した。作製にあたっては、環境省担当官と調整し、看板の視認性を高めることを目的として一部デザインを変更した（図 1-18）。



写真 1-33. 知床公園線沿いに型Aの看板を設置する当財団職員



写真 1-34. セセキパーキングに型Bの看板を設置する当財団職員

表 1-16. ヒグマ注意看板の設置場所及び設置期間

型	設置場所	設置期間
A	知床公園線（五湖～カムイワッカ カーブミラーNo. 29～30）	6/8～10/29
A	知床公園線（五湖～カムイワッカ カーブミラーNo. 49）	6/8～10/29
A	知床公園線（岩尾別台地直線道路）	6/8～11/28
A	知床公園線（岩尾別台地ヘアピンカーブ）	6/9～11/28
A	町道岩尾別温泉道路（ゲート付近）	6/9～11/28
A	国道 334 号（幌別橋付近）	6/9～11/28
A	国道 334 号（プユニ岬付近）	6/9～11/28
A	国道 334 号（知床自然センター入口）	6/9～11/28
B	湯ノ沢パーキングエリア脇	7/27～11/22
B	ルサ川河口左岸道道沿い	7/29～10/21
B	瀬石温泉パーキング	7/29～10/14
C（日本語）	知床自然センター駐車場	6/8～
C（外国語）		
D（日本語）	カムイワッカ湯の沢入口	6/8～10/29
D（外国語）		

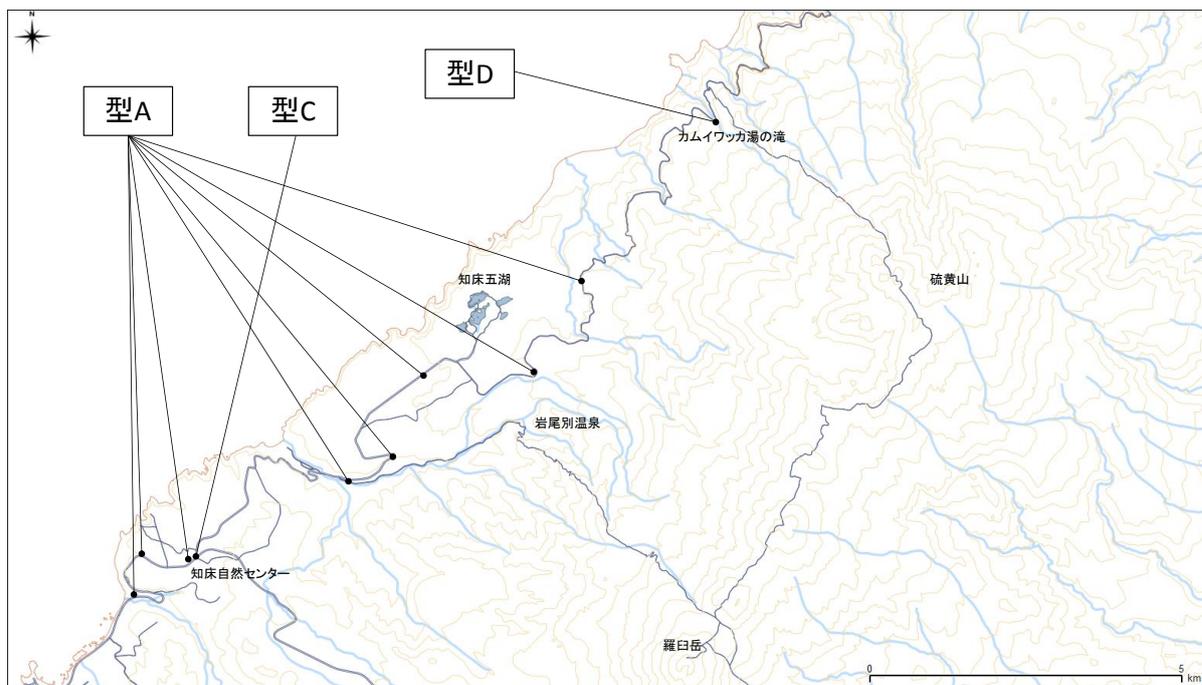


図 1-16. 斜里町内の看板設置位置図

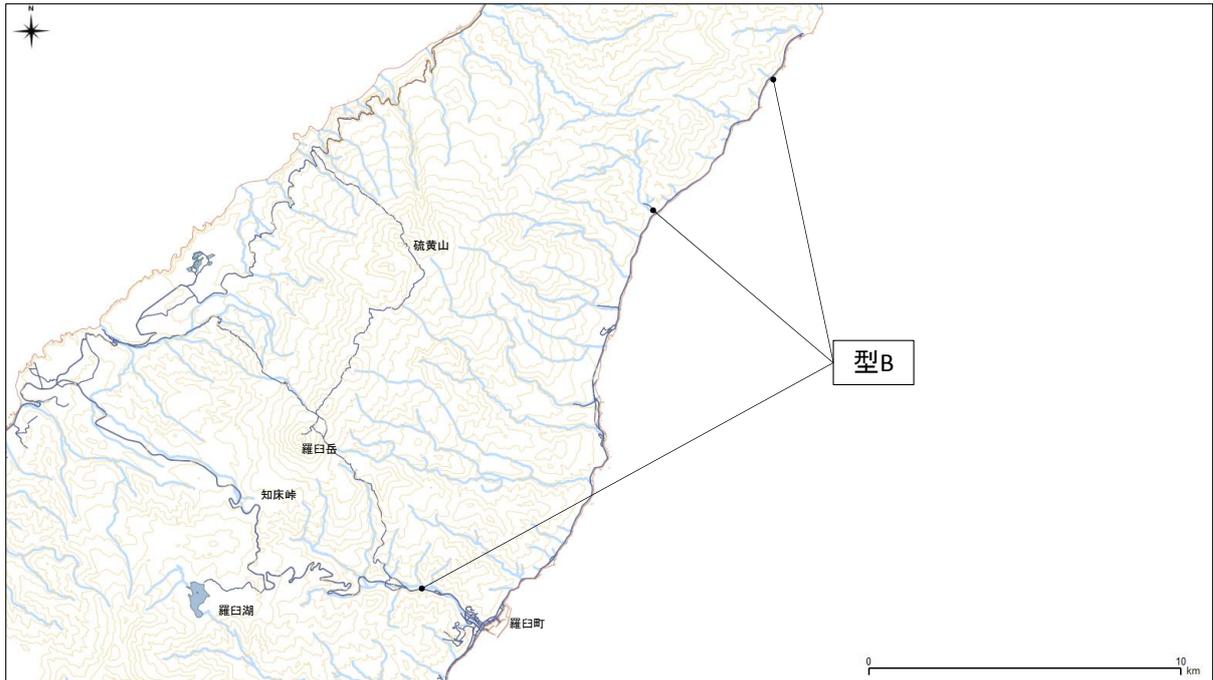


図 1-17. 羅臼町内の看板設置位置図



図 1-18. 新規に作成した看板のデザイン

・キャッチ・アンド・リリースの協力を呼びかける看板の設置・撤去

様々な野生生物に利用されるオショロコマを必要以上に捕獲させないよう、キャッチ・アンド・リリースの協力を呼びかける看板を 6 基設置した(写真 35)。設置箇所については、羅臼町内の国立公園区域および鳥獣保護区周辺でオショロコマが生息している 6 河川(表 17)とし、各河川に 1 基ずつ設置した。設置した看板は積雪期前に全て撤去した。

なお羅臼側は例年 7 基設置していたが、平成 27 年度に 1 基亡失しており、6 基のみ設置した。また、今年度チエンベツ川河川敷に設置した 1 基は、10 月に強風により脚部が破損した。したがって次年度の設置に当たっては、看板 2 基分の新規作製が必要である。



写真 35. ルサ川左岸に設置したキャッチ・アンド・リリースの情報周知看板

表 1-17. 情報周知看板の設置場所および設置期間

設置場所	設置期間
ルサ川河川敷地	8/8~10/21
ケンネベツ川河川敷地	8/8~11/24
チエンベツ川河川敷地	8/8~10/22
モセカルベツ川河川敷地	8/8~11/24
オッカバケ川河川敷地	8/8~10/21
サシルイ川河川敷地	8/8~11/24

・ヒグマ撮影に関する注意看板の設置・撤去

ヒグマを写真撮影するにあたり、カメラマンが守るべきルールやマナーを記した看板 1 基(大きさ 90 cm×180 cm)を町道岩尾別温泉道路沿いに設置・撤去した(写真 1-36)。また、カメラマンが守るべきルールやマナーを記したチラシ(A4 両面、図 1-19)を作成した。



写真 1-36. 岩尾別温泉道路に設置した注意看板(9月18日)

クマの写真を撮影する皆様へ

事故の危険性が高まっています！！

2015年夏

車両に手をかけるヒグマ

2016年秋

ヒグマへの過剰な接近
& クマを取り囲んでの撮影

2015年秋

このような状況は、
通行の妨げになります！

今年のヒグマの目撃件数は、850件を超えています
(斜里町内のみ、9/16時点)。ヒグマが車に手をかける、自転車
を追いかけるなど、特に危険な状況も確認されてお
り、人身事故の発生を危惧しています。

事故を防止するため、クマ本来の生活を守るために、
裏面のルールを守るようお願いします。

環境省・林野庁・斜里町・知床財団

事故を防止するためのルール

実施期間：2016/9/12(日)～11/13(日)
対象区間：温泉道路入口から約1km区間
*対象区間にはロープが張ってあります。

対象区間

- ①写真撮影を目的とする方は、対象区間に徒歩で入ってくだ
さい。
*対象区間に駐車することは出来ません。
- ②クマを撮影される方は待機スペースをお願いします。
*待機スペース3か所、ロープで明示してあります。
*待機スペースは、皆様の安全を保障するものではありません。
*クマスプレーを持つことをおすすめします。
- ③クマとは、50m以上の距離を常に保ってください。

撮影にあたって、安全確保は自己責任です。

*この地域の道路沿いでは、危険を回避するため、極度な人慣れ
を防ぐためのクマの追い払いを行っています。

環境省・林野庁・斜里町・知床財団

図 1-19. ヒグマ目的のカメラマンに注意喚起するチラシ(A4 両面)

2-2. インターネットを利用した情報周知

知床自然センターや羅臼ビジターセンター、知床財団のホームページにおいてヒグマの出没状況やヒグマへの対処法を掲載した（図 1-20）。知床五湖やフレペの滝遊歩道の開閉情報はツイッターを利用してリアルタイムに情報を周知した（図 1-21）。



図 1-20. 知床財団ホームページに掲載したヒグマの情報 (<http://www.shiretoko.or.jp/>)



図 1-21. ツイッターに掲載したフレペの滝遊歩道開閉などの情報 (https://twitter.com/shiretoko_NC?ref_src=twsrc%5Etfw)

II. 自然保護業務補佐

1. 知床国立公園内のパトロール

知床国立公園内のパトロール活動は5月13日～10月31日に週2回程度実施し、業務期間中の55日について実施した。パトロールは利用者が多いエリアを中心に行った。国立公園内で問題とされる行為が認められた場合、公園利用者に対する指導や看板設置などによる普及活動を行った。具体的事例としては、国立公園内で犬を連れている利用者や車中泊を行おうとしている利用者、キツネに餌付けをしている利用者への注意喚起や指導、啓発を行った。また不法投棄されたゴミの回収も行った。

ゴミの不法投棄について

斜里側ではゴミの不法投棄が10件あった。ゴミの内容物は生ごみや空の弁当容器、ペットボトルなど食品に由来するものが多かった。生ゴミやジュースが入ったペットボトル等のゴミは、野生動物の行動を大きく狂わせる可能性があるため、発見次第迅速に回収を行った。中には野生動物への餌付けを目的として投棄されたと考えられるゴミも散見された。9月17日に自然センターから道道知床公園線岩尾別側500m地点の道脇で回収した6匹分のシロザケの死体は、塩鮭に加工されており冷凍焼けした物であった(写真2-1)。動物に荒らされた形跡はなかった。

羅臼側では、ゴミの不法投棄が2件あった。9月29日にはルサフィールドハウス横の草地で、魚卵を抜かれた状態で投棄されたマス5尾を確認した。マスは腐敗が進んでおり、投棄されてから数日は経っている様子であった(写真2-2)。なお、この時にルサ川周辺で釣りをしている利用者はいなかった。



写真 2-1. 道道知床公園線の道脇にて回収したシロザケ 6 匹分(9 月 17 日)



写真 2-2. ルサフィールドハウス横で発見回収したカラフトマス(9月29日)

野生動物への餌やりについて（ヒグマを除く）

斜里側では平成23年度から引き続き、道道知床公園線や知床横断道路のパトロール中に、人や車を見ると餌をねだるキタキツネを多数目撃した。パトロール中に餌やり行為自体を確認した事例はなかったが、利用者がキツネに餌をやっていたという目撃情報が2件あった。即座に出動するも、現場で利用者やキツネを発見することはできなかった。

昨年に引き続き、餌やり禁止を啓発する張り紙を、知床五湖フィールドハウスのトイレ内など大勢の利用者の目に付きやすい場所に掲示した。

羅臼側での餌やりについての対応はなかった。

利用者指導

斜里側における国立公園内の利用者指導は、7月に1件であった。

指導内容は、岩尾別橋付近の駐車帯でキャンプをしている利用者にヒグマの出没情報を伝え、岩尾別ユースホステルへ移動してもらった。

利用者指導の一環として、看板の設置が2件あった。7月17日にホテル地の涯前の空き地にキャンプや車中泊をする利用者が毎年確認されるために、野営しないよう注意する看板を設置した（図2-1、写真2-3）。8月3日に幌別川河口にサケ、マスの釣り人に対する注意喚起看板を4カ所に設置した（図2-2、写真2-4）。

羅臼側における国立公園内の利用者指導は、7月、8月に各1件であった。7月29日にルサ川左岸において、野外で炊事をしている利用者がいたため、食べ物の管理に注意するよう指導を行った（写真2-5）。8月24日には相泊川左岸においてテントを張っている利用者がいたため移動を呼びかけたが、キャンパーに移動の意思はなく、注意喚起のみとなった。

ヒグマの出没多発 キャンプ・車中泊はご遠慮ください

岩尾別川沿いでヒグマの出没が多発しています。十分注意してください。

食べ物や生ゴミの臭いは、ヒグマを誘引する可能性があります。キャンプ・車中泊はご遠慮ください。
食べ物やゴミを車外に放置しないでください。



7月15日 岩尾別川にて

* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。

(知床財団0152-24-2775)

環境省・斜里町・
網走南部森林管理署

図 2-1. 岩尾別の温泉に設置したキャンプ・車中泊を注意する看板



写真 2-3. 岩尾別温泉前の駐車スペースに設置した看板(7月17日)

ヒグマの生息地 食料・ゴミの管理の徹底を！

ヒグマの出没が頻発しています。過去には、ヒグマが釣り人の食べ物（荷物）を持ち去る事件が発生しています。食料などの荷物は必ず身につけて管理してください。

釣りの間も、周辺にヒグマがいないかよく確認してください。ゴミや魚の投棄は絶対にやめてください。

ゴミや食料（釣り上げた魚を含む）の管理が徹底されない場合やヒグマの出没状況によっては、安全対策として河口の一部を立ち入り禁止とする場合があります。

※ ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。 知床財団 0152-24-2775

環境省・北海道・斜里町



図 2-2. 幌別川河口に設置した注意喚起看板



写真 2-4. 看板設置の状況(8月3日)



写真 2-5. ルサ川沿いで炊事をしている利用者(7月 29日)

2. 傷病鳥獣の保護および死亡鳥獣の回収

観光客や地域住民から傷病鳥獣に関する通報や持ち込みがあった場合、随時個体の保護または回収作業を行った。なお、本業務は斜里町および羅臼町からそれぞれ受託している自然環境保護対策業務（国立公園や鳥獣保護区の区域外も含む）と連携して実施した。

傷病鳥獣の保護について

平成 28 年 5 月 13 日から 10 月 31 日の期間中、知床国立公園内および国指定知床鳥獣保護区内における傷病鳥獣の保護件数は、斜里町で 3 種 3 件、羅臼町で 2 種 2 件の計 5 件であった（表 2-1）。

斜里町側の 3 件は、5 月 5 日に五湖 F H 前にて保護したドバトと、7 月 6 日にウトロ東の漁業部倉庫内で保護したキタキツネ、10 月 6 日に五湖 F H 内で保護したウサギコウモリであった。3 件とも衰弱した状態であった。ドバトはレースバトだったため、飼い主に返送した。キタキツネは収容中に死亡した。ウサギコウモリは動きが鈍かったため冬眠前と判断し、冬眠可能と推測される適切な場所に放獣した（写真 2-6）。

羅臼側の 2 件は、6 月 12 日に衰弱を疑った住民によって保護されたが、収容後間もなく回復した様子が見られたため放鳥したシジュウカラと（写真 2-7）、8 月 20 日に負傷したオオセグロカモメが段ボール箱に入れられた状態で、羅臼ビジターセンターの玄関前に安置されていた件であった。オオセグロカモメは、野生復帰不可能と判断し安楽殺処分を施した。

今期は国立公園および国指定知床鳥獣保護区内における希少種の保護事例はなかったが、区域外の一般地域にて希少種の保護があったために記載する。

斜里側では、2 件の希少鳥獣の保護があった。平成 29 年 1 月 6 日にウトロ高原にて農地の柵に絡まって動けなくなっているオオワシを保護した（写真 2-8）。平成 29 年 1 月 7 日にウトロ西の国道 334 号線の路肩にてうずくまっているクマタカを保護した（写真 2-9）。この個体は交通事故の疑いがあった。どちらも環境省へ連絡の上、猛禽類医学研究所に引き渡した。両鳥とも知床鳥獣保護区管理センターで高病原性鳥インフルエンザ（以後：鳥フル）の簡易検査が専門家によって行われ、どちらも陰性であった。後日、鳥フルでも鉛中毒でもなかったとの報告を受けた。クマタカは、2 月 17 日に保護した付近の山側にあるウトロ高原にて放鳥した。

羅臼側では、3 件の希少鳥獣の保護があった。7 月 8 日に標津方面へ移動中の当財団職員が、羅臼町と標津町の境界線近くの標津町側国道脇に横たわっているオジロワシを発見した。当該個体は右翼が背側に垂れたような状態であったことから（写真 2-10）、交通事故が疑われ、環境省への連絡の上、猛禽類医学研究所へ移送された。9 月 22 日には羅臼漁港沖で、水面から飛び立てないオジロワシが付近の漁船によって保護された。この個体は釧路自然環境事務所の指示のもと、羅臼 V C に収容後、羽を乾燥させたのちに放鳥した（写真

2-11)。また、平成 29 年 2 月 9 日には海岸町の民家の敷地内で衰弱したクマタカが発見された。この個体は外傷がない状態で衰弱していたことから鳥フルへの感染が疑われたため、保護収容後（写真 2-12）、羅臼自然保護官事務所により鳥フルの簡易検査が実施された。結果は陰性であった。その後、猛禽類医学研究所に移送された。

表 2-1. 知床国立公園内及び国指定知床鳥獣保護区における傷病鳥獣の保護状況

【平成 28 年 5 月 1 日～10 月 31 日】

＜斜里町：3件＞				
年月日	動物種	場所	保護理由	処置・経過
5/15	ドバト（レースバト）	五湖F H前	衰弱	飼育者へ返送
7/6	キタキツネ	ウトロ東の漁業部倉庫内	衰弱	収容中に死亡
10/6	ウサギコウモリ	五湖F H内	衰弱	翌日に放獣
＜羅臼町：2件＞				
年月日	動物種	場所	保護理由	処置・経過
6/12	シジュウカラ	湯ノ沢町	衰弱	放鳥
8/20	オオセグロカモメ	湯ノ沢町	負傷	安楽殺処置



写真 2-6. 五湖 FH で保護されたウサギコウモリ(10 月 6 日)



写真 2-7. 羅臼ビジターセンターでシジュウカラを放鳥する当財団スタッフ(6月12日)



写真 2-8. 斜里町ウトロ高原でオオワシを保護する様子(1月6日)



写真 2-9. 斜里町の国道沿いでクマタカを保護する様子(1月7日)



写真 2-10. 国道沿いで発見したオジロワシ(7月8日)



写真 2-11. 羅臼町で放鳥したオジロワシ(9月22日)



写真 2-12. 羅臼町海岸町でクマタカを保護する様子(2月9日)

鳥獣の死体回収について

知床国立公園内および国指定知床鳥獣保護区内における野生鳥獣死体の回収は、斜里町で7種8件、羅臼町で1種1件の計9件であった（表2-2）。

斜里町側で回収した8件のうち4件は哺乳類で、エゾシカ2件、キタキツネ、エゾリスが各1件であった。回収した各哺乳類の死亡要因は、キタキツネとエゾリス（写真2-13）が交通事故であった。エゾシカは2件とも死因不明であった。

残り4件は鳥類で、アカゲラ、エゾフクロウ、オナガガモおよびオオセグロカモメが各1件であった（写真2-14）。回収した各鳥類の死亡要因は、エゾフクロウ、オナガガモおよびオオセグロカモメが交通事故であった。アカゲラは窓への衝突であった。

羅臼町側で回収した1件は鳥類で、羅臼VCの窓に衝突死したアオジのみであった。

表2-2. 知床国立公園内および国指定鳥獣保護区内における野生動物死体の回収状況
【平成28年5月1日～10月31日】

＜斜里町＞			＜羅臼町＞			
動物種	死因	件数	動物種	死因	件数	
哺乳類	エゾシカ	不明	2	なし		
	キタキツネ	交通事故	1	哺乳類		
	エゾリス	交通事故	1			
鳥類	アカゲラ	窓への衝突	1	アオジ	窓に衝突	
	エゾフクロウ	交通事故	1	鳥類		
	オナガガモ	交通事故	1			
	オオセグロカモメ	交通事故	1			
小計		8	小計		1	
					総計	9

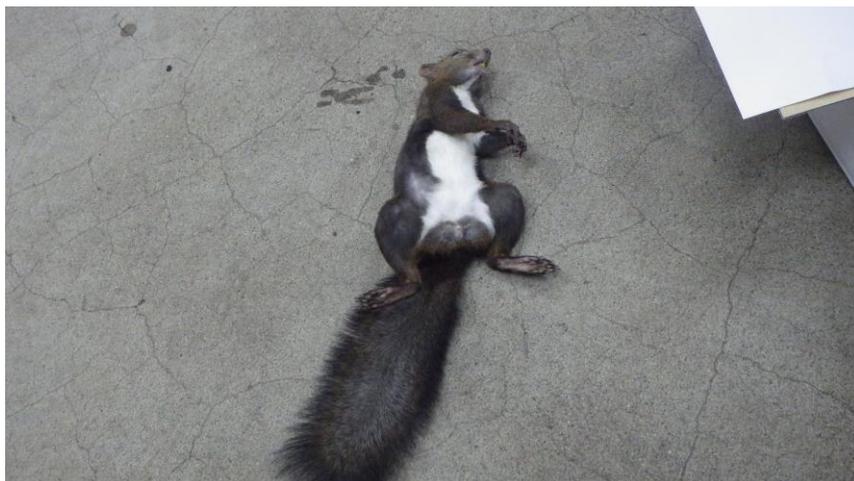


写真2-13. 知床横断道にて回収した交通事故死のエゾリス(9月29日)



写真 2-14. 道道知床公園線で回収した交通事故死のオナガガモ(10月6日)

Ⅲ. ヒグマ保護管理方針に関するデータ収集・とりまとめ・評価

知床半島ヒグマ保護管理方針に記載された管理目標の達成状況を評価するために必要なデータ、およびモニタリングの実施状況を把握するためのデータについて、関係機関等からデータを収集し、とりまとめを行った。データの収集は、平成 24～28 年度分について行った。モニタリングの実施状況の一覧を表 3-1、収集したデータは巻末資料にとりまとめた。

表 3-1. モニタリングの実施状況一覧

	調査項目	実施状況					備考
		H24	H25	H26	H27	H28	
1	駆除個体の頭数とその内容、サンプル収集分析 (年齢構成、繁殖状況、胃内容物、遺伝子情報)	○	○	○	○	○	
2	狩猟個体の頭数とその内容、サンプル収集 (年齢構成、繁殖状況、胃内容物、遺伝子情報)	○	○	○	○	○	
3	標識調査などによる繁殖状況の調査	○	○	○	○	○	5年ごとに取りまとめ予定
4	広域へアトラップ調査による生息数推定	×	×	×	×	×	実施せず
5	人身被害・危険事例の発生情報の収集	○	○	○	○	○	
6	ヒゲマ目撃アンケートの実施	○	○	○	○	○	
7	定点カメラ・足跡トラップ	×	×	×	×	×	定点カメラはへアトラップ調査に集約、足跡トラップは停止中
8	標識調査などによる生息地利用様式や行動パターンの調査	○	○	○	○	○	
9	遺産地域からの移動分散状況の調査(広域的な捕獲個体との遺伝子情報の対比など)	×	×	×	×	○	
10	農林水産業被害統計	○	○	○	○	○	各町の農協からの被害報告
11	出没や被害に関する通報・対応件数と対応状況の記録	○	○	○	○	○	
12	遊歩道・登山道などの運用状況の記録	○	○	○	○	○	
13	学校教育や社会教育における地域住民への普及啓発活動の記録	○	○	○	○	○	5年ごとに取りまとめ予定

14	施設等における利用者への普及啓発活動の記録	○	○	○	○	○	5年ごとに取りまとめ予定
15	ゴミの投棄やゴミステーションの運用状況など住民生活における問題事例の発生状況の記録	○	○	○	○	○	5年ごとに取りまとめ予定
16	住民意識調査	×	×	×	×	×	実施せず
17	保護管理活動実施体制の把握	×	×	×	×	×	実施せず

卷末資料

<人為的死亡個体の年齢・性の内訳>

- ・平成 24～28 年、斜里町と羅臼町におけるヒグマの人為的死亡個体の内訳は、メスが 82 頭、オスが 105 頭。
- ・年齢査定や体サイズ、捕獲時の状況（子を連れていたか）等から判断した、5 歳以上のメスの人為的死亡数は 5 年間で 39 頭。
- ・5 歳以上のメスの捕獲は斜里町 27 頭、羅臼町 12 頭で、斜里町が羅臼町を大きく上回っている。羅臼町で捕獲された 5 歳以上のメスは、全て大量出沒年に捕獲（平成 24 年に 11 頭、平成 27 年に 1 頭）。

表 1. 斜里町・羅臼町におけるヒグマの人為的な死亡個体(捕獲・事故)の内訳
(平成 24～28 年)

年齢／性別	メス	オス	小計
0 歳	6	9	15
1 歳	16	17	33
2 歳	9	24	34
3 歳以上	51	55	105
小計	82	105	187

表 2. 平成 24 年 ヒグマ捕獲個体の内訳(年齢別・場所別・性別)

年齢／ 場所・性別	斜里		羅臼		小計
	メス	オス	メス	オス	
0 歳	0	1	2	1	4
1 歳	2	1	3	3	9
2 歳	3	3	5	7	18
3 歳以上	7	5	14	10	36
小計	12	10	24	21	67

表 3. 平成 25 年 ヒグマ捕獲個体の内訳(年齢別・場所別・性別)

年齢/ 場所・性別	斜里		羅臼		小計
	メス	オス	メス	オス	
0 歳	0	0	0	0	0
1 歳	2	1	0	0	3
2 歳	0	2	0	0	2
3 歳以上	2	5	0	2	9
小計	4	8	0	2	14

表 4. 平成 26 年 ヒグマ捕獲個体の内訳(年齢別・場所別・性別)

年齢/ 場所・性別	斜里		羅臼		小計
	メス	オス	メス	オス	
0 歳	0	0	0	0	0
1 歳	1	1	0	0	2
2 歳	0	1	0	2	3
3 歳以上	3	7	0	4	14
小計	4	9	0	6	19

表 5. 平成 27 年 ヒグマ捕獲個体と事故個体の内訳(年齢別・場所別・性別)

年齢/ 場所・性別	斜里		羅臼		小計
	メス	オス	メス	オス	
0 歳	1	5	1	2	9
1 歳	4	7	0	3	14
2 歳	1	5	0	2	8
3 歳以上	19	7	1	10	36
小計	25	24	2	17	68

*斜里町で交通事故死と麻酔事故死した個体(いずれもメス 3 歳以上)、羅臼町で羅網した個体(オス 0 歳)を含む。

*斜里町で交通事故にあい手負い状態になり捕殺された個体(オス 2 歳)、誤射して捕殺した個体(メス 3 歳以上)は駆除個体を含む。

表 6. 平成 28 年 ヒグマ捕獲個体と事故個体の内訳(年齢別・場所別・性別)

年齢/ 場所・性別	斜里		羅臼		小計
	メス	オス	メス	オス	
0 歳	3	1	0	0	4
1 歳	2	1	0	0	3
2 歳	1	2	0	0	3
3 歳以上	4	3	0	2	9
小計	10	7	0	2	19

< 標識個体の捕獲状況 >

平成 24 年度

- ・ 9/3 に羅臼町知昭町で捕獲された個体 (ID:GR、♀3+) は、斜里町幌別で平成 11 年に標識を装着した個体であった。
- ・ 12/3 に斜里町峰浜で捕獲された個体 (ID:12B22、♂3+) は、標津町で実施されている調査で標識された個体であった。

平成 25 年度

- ・ 4/26 に羅臼町海岸町で捕獲された個体 (ID:R13B01、♂3+) は、DNA 分析結果からルシャ由来の個体であることが判明。
- ・ 6/6 に斜里町真鯉で捕獲された個体 (ID:13B01、♂3 才) は、DNA 分析結果からルシャ由来の個体であることが判明。
- ・ 8/24 に羅臼町相泊で捕獲された個体 (ID:08B08、♂35 才) は、斜里町岩尾別で平成 20 年に標識を装着した個体であった。

平成 26 年度

- ・ 5/10 に斜里町峰浜で捕獲された個体 (ID:BS、♂3 才) は、平成 25 年に斜里町岩尾別温泉道路で頻繁に出没を繰り返したヒグマのうちの 1 頭。過度に人慣れが進んだ個体で、春先から幌別地区やウトロ東地区等で出没を繰り返した後、半島基部方向へ移動。

平成 27 年度

- ・ 10/18 に斜里町の幌別川河口で捕獲された個体 (ID:EX、♀推定 4 才) は、平成 25 年に斜里町岩尾別温泉道路で頻繁に出没を繰り返したヒグマのうちの 1 頭。過度に人慣れが進んだ個体で、釣り人が足元に置いていたリュックサックに入っていた釣り餌やおにぎりを食べて現場に執着し、危険とみなされ有害捕獲となった。
- ・ 10/26 に斜里町越川で捕獲された個体 (ID:13B03、♀20 才) は、2009 年に公園内で標識を装着した以降、捕獲の直前までは知床五湖周辺など公園内でのみ行動が確認されていた。

平成 28 年度

- ・ 標識個体の捕獲無し。

<年齢査定の状況>

・平成 24 年分は知床財団、環境科学研究センターともに終了。平成 25～28 年に捕獲されたメスの年齢査定は完了。

標津町におけるヒグマの捕獲状況

<捕獲数>

- ・平成 24 年に 3 頭（有害 2：狩猟 1）、平成 25 年に 1 頭（狩猟 1）、平成 27 年に 5 頭（有害 2：狩猟 3）、平成 28 年に 3 頭（有害 3）のヒグマを捕獲。平成 26 年度は捕獲なし。

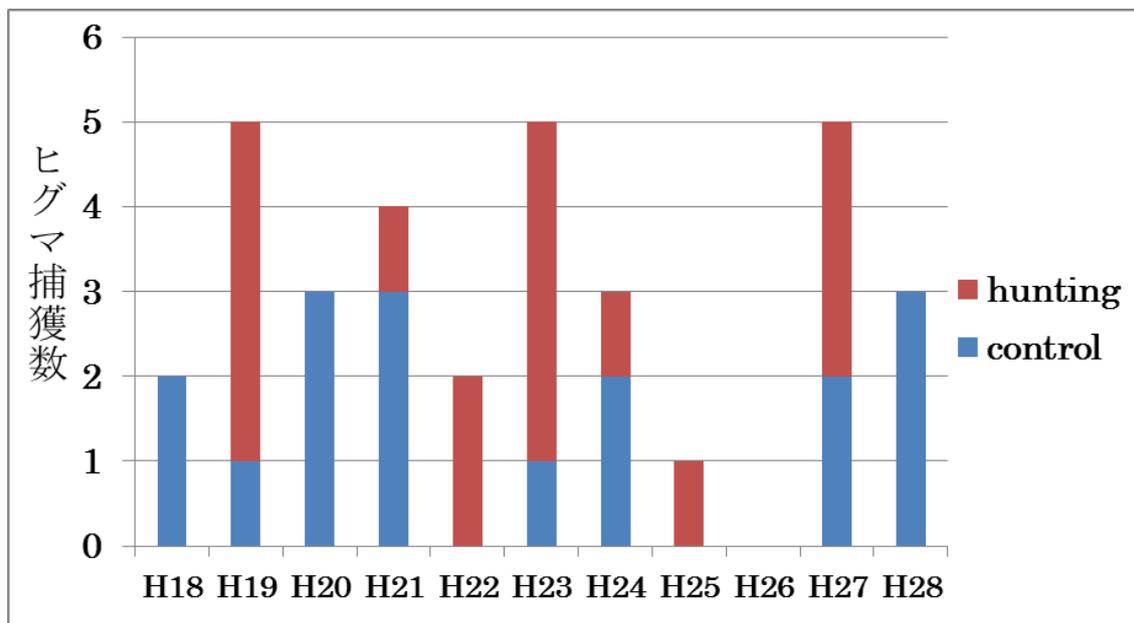


図 2. 標津町におけるヒグマ捕獲頭数

(hunting: 狩猟による捕獲、control: 有害捕獲)

<捕獲内訳>

- ・平成 24 年～28 年、標津町におけるヒグマ捕獲数は合計 12 頭。内訳はメスが 4 頭、オスが 8 頭。

表 6. ヒグマ捕獲個体の内訳(年齢別・性別)

年齢／ 性別・年別	平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		合計
	メス	オス									
0 才	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 才	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2 才	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3 才以上	0	0	1	0	0	0	1	4	0	3	9
小計	2	1	1	0	0	0	1	4	0	3	12

調査研究・モニタリング項目③

標識調査などによる繁殖状況の調査

<実施状況>

- ・平成 24 年度は幌別・岩尾別地区で 1 頭に標識を装着(知床財団)。
- ・平成 25 年度は幌別・岩尾別地区で 2 頭、ルシャ地区で 2 頭、計 4 頭に標識を装着(知床財団他)。幌別・岩尾別地区で標識を装着した 1 頭については、捕獲時に 1 歳 1 頭の子連れであったが、その後の観察で当年秋には子離れし、単独で行動していることが確認されている。
- ・平成 26 年度はルシャ地区で計 7 頭に標識を装着 (知床財団・知床博物館・北大)。
- ・平成 27 年度は幌別・岩尾別地区で 1 頭に標識を装着(知床財団)。約 1 か月後に狩猟捕獲される。
- ・平成 28 年度は新規に標識を装着した個体はなし。

⇒繁殖状況の調査結果は、平成 28 年度第 1 回知床半島ヒグマ保護管理方針検討会議（平成 28 年 6 月 10 日）の資料 3-3 別紙③として取りまとめた。

調査研究・モニタリング項目④

広域ヘアトラップ調査による生息域推定

<実施状況>

- ・平成 24～28 年度、実施せず。

人身被害・危険事例の発生状況

<人身被害>

- ・斜里町・羅臼町・標津町における人身被害なし（H24、H25、H26、H27、H28）

<危険事例>

斜里町

危険な事例が 79 件発生（H24:12 件、H25:6 件、H26:11 件、H27:31 件、H28:19 件）した。人が関連する食品（釣り人が放置した荷物や釣り上げた魚など）や不法投棄ゴミなどにヒグマが餌付いてしまう事例や、カメラマンや観光客が撮影のためにヒグマに異常接近する事例、住宅地にヒグマが侵入する事例、ヒグマが車両に接近したり接触する事例、ヒグマが自転車やバイクを追いかける事例、釣り人の自転車や荷物を荒らし、壊す事例、テントを破く事例、建物内に侵入する事例などであった。詳細は以下の通り。

平成 24 年度の事例

- 1) 6 月 19 日にヒグマがオシンコシンの滝の下部付近の林内でフキを採食しており、滝を展望する階段が緊急閉鎖される事例が発生。階段の突き当たりとヒグマの距離はわずか 20m 程であった。
- 2) 6 月 22 日に道路沿いで 2 頭連れ親子を発見した観光客が、車から降りた際に親グマに突進される事例が発生した。当事者はすぐに車に乗り込んだため、ヒグマとの接触はなかった。
- 3) 6 月 30 日に標識付きオス成獣が国設野営場に侵入したことが確認されたため、7 月 1 日早朝に有害捕獲した事例。
- 4) 7 月 23 日に知床公園線沿い（イダシュベツ川付近）でヒグマの写真を撮るため車を降りてヒグマに約 10m まで接近した観光客が、ヒグマに威嚇されて逃げる際に転倒し、擦過傷を負った事例。
- 5) 8 月 1 日に知床五湖へと向かう公園線沿いで、車中からヒグマに対しパンを投げる観光客を当財団スタッフが目撃し、直ちにヒグマを追い払いパンを回収した事例。
- 6) 8 月 16 日に岩尾別川付近の公園線沿いでゴミ袋を啜るヒグマが目撃された。現場でヒグマを追い払い、散乱した漬物やメロン等のゴミを回収した。この事例では目撃情報と現場の状況から複数のヒグマ（1 頭連れ親子と単独ヒグマ）がゴミを採食してしまったと考えられた。

- 7) 8月24日に環境省職員が登山道上を歩いて接近してくるヒグマにクマスプレーを噴射して撃退した事例。このヒグマは前方に人がいると認識したにも関わらず接近し続けるなど、まったく人を恐れない個体であった。
- 8) 8月23日にウトロ沢河口付近に単独のヒグマが出没し、幌別川河口まで延々と追い払った事例。
- 9) 8月27日にウトロ漁港内に停泊中の船舶にヒグマが侵入し、漁具や漁業用の餌が荒らされる事例が発生した。8月28日の夜間にはウトロ漁港から国設野営場方面に逃げ込む単独のヒグマが目撃され、翌朝に国設野営場内で有害捕獲された。
- 10) 8月31日に岩尾別のホテルのゴミ置き場を荒らして生ゴミを食べる単独ヒグマが目撃されたため、追払いと散乱したゴミの回収を実施した。同日ヒグマが再度出没しゴミ置き場を壊しているとの通報を受け、現場で同一のヒグマを発見しやむなく有害捕獲する事例。
- 11) 9月21日にウトロ西の住宅地にヒグマが侵入し、干し魚を荒らす事例が発生。
- 12) 11月6日にウトロ西でサケトバ作業小屋の窓がヒグマに壊される事例が発生。

平成25年度の事例

- 1) 5月下旬頃から真鯉やオシンコシンの滝付近の海岸にオス亜成獣が繰り返し出没し、エゾシカファームの敷地に入り込みシカの残滓を食べたり、ウトロ西の海岸を移動して道の駅近くまで入り込むなど問題行動を繰り返す事例が発生。同個体は6月6日に弁財崎付近の海岸で有害捕獲となった。
- 2) 5月28日にフレペの滝遊歩道でわずか5mの距離でヒグマと遭遇し走って逃げたという事例が発生。
- 3) 7月25日、野営場利用者が日中にキャンプサイトの炊事場の近くをうろついているヒグマが目撃され、野営場利用者を建物内（知床ボランティア活動施設）に避難させた状態でヒグマを有害捕獲する事例が発生。
- 4) 9月6日に岩尾別温泉道路をパトロール中、羅臼岳登山のため路肩に駐車している車両にヒグマが接近している現場を確認した。このヒグマは窓から車内を覗き込んだり、ボンネットに前足をのせたりするといった、明らかに車両に興味を持っている行動が見られた。
- 5) 9月18日に岩尾別川内に頭と内臓を除去されたサケの死体15尾が投棄されているのが発見された。投棄した人物が故意にヒグマを寄せようとしていた可能性が高いと考えられた。これらのサケをヒグマが採食した痕跡はなく、今回はヒグマが餌付く前に回収できた。
- 6) 10月20日に幌別川河口で釣り人が釣ったサケをヒグマに盗られたという事例が発生。

平成 26 年度の事例

- 1) 4 月から 5 月にかけて、ウトロ香川の市街地柵外の住宅周辺で昨年のクルミの堅果を目的に複数のヒグマが頻繁に出没する状況が発生した。人を全く気にしない個体もあり、4 月 29 日には住宅前に出没したヒグマ (ID=BS) を住民がクマスプレーで追い払うといった事例も発生した。
- 2) 5 月 2 日以降、真鯉に単独亜成獣ヒグマが出没。うち 1 頭 (ID=BS) は 5 月に国道沿いを斜里基部方向へ徐々に移動、国道近くでシカを捕殺したり、ゴミを漁ったりする行動を取り、最終的に峰浜で有害捕獲となった。
- 3) 5 月 4 日、ウトロ保育所周辺で単独のヒグマが道路上をうろつき、緊急捕獲された。捕獲された個体は、無標識であったが、幌別川周辺でたびたび目撃されていた個体の可能性があった。
- 4) 5 月 11 日以降、数日間に渡り、ウトロ高原の住宅傍に複数のクマが繰り返し出没する状況が発生した。少なくとも大小 2 頭のクマが人目を気にせず、日中にも出没した。いずれのクマも昨年の掘り残したビートを食べていた。
- 5) 5 月 24 日以降、岩尾別の道道近くに 0 才 3 頭連れ親子 (親ヒグマ ID=CM) が繰り返し出没。人に対して威嚇突進を繰り返すなど、行動に注意を要する個体であった。
- 6) 4 月から 7 月の期間、自然センターからウトロにかけてのエリアに、人を気にしない亜成獣のヒグマ (ID=RB) が繰り返し出没した。ウトロ東の住宅裏やウトロスキー場など、人の生活圏にごく近い場所に出没する事例も頻発した。この個体に関してはその行動履歴から問題個体と判断され、国立公園外で有害捕獲する方針になったが、その後は公園外への目立った出没がなく、捕獲には至らなかった。8 月に入り、サケ・マスの遡上が始まると、岩尾別川、幌別川流域に繰り返し出没した。人を忌避しない性質は変わっておらず、来年度以降も注意が必要。
- 7) 6 月 9 日以降、ウトロ西の住宅裏に 0 歳 2 頭連れのヒグマが頻繁に出没。出没個体は、住宅裏の斜面で日中にフキなどの草本類を採食するなど、人に対する警戒心が極めて低い個体であった。6 月 23 日に住宅裏に再出没し、捕獲された
- 8) 7 月 25 日、ウトロ漁港の三角岩にヒグマが出没しているとの情報が、釣り人より寄せられた。目撃者によれば、三角岩で釣りをしていたところ、海岸線沿いを移動中のクマを発見し、避難したとのこと。その後、クマは三角岩からウトロ東方向に泳いでいき、ウトロ沢付近で上陸した模様。現場確認の結果、ウトロ沢付近でクマの足跡らしき痕跡を発見した。
- 9) 9 月 15 日、プユニ岬付近で自転車に乗った男性が約 30m に渡ってヒグマに追いかけるという事例が発生した。最接近距離は約 10m で、個体のサイズは成獣クラスだったとのこと。
- 10) 9 月 23 日に、知床横断道路にてヒグマが車を追いかける事例が発生した。現場確認を行ったが、該当個体や誘引物の発見には至らなかった。目撃情報によると、クマは道路上方から降りてきて、怒った様子で車を追いかけてきたとのこと。
- 11) 10 月 9 日、知床五湖地上遊歩道でのヒグマの目撃情報が寄せられ現場確認を行った。地上遊歩道の大ループ上で該当個体を発見した。この個体は、対策員の姿を見ても忌避するこ

となく、5mほど歩道上を歩いて接近してきた。その後、追い払いに入った別の職員に対しても、フーフーと言いながら興奮する様子をみせた。

平成 27 年度の事例

- 1) 4月16日、ウトロ香川の旧自然村で単独ヒグマが住宅の窓をのぞき込む事例が発生。現場到着時、ヒグマの姿はなく個体は不明。
- 2) 6月3日、真鯉の国道沿いでヒグマと乗用車の接触事故があり、ヒグマが手負いとなる。警察が国道を一時閉鎖し、猟友会と知床財団でヒグマを駆除（15B05）。
- 3) 6月13日、知床横断道路でヒグマが自転車を追いかける事例が発生。事故には至らなかったが非常に危険な状況。
- 4) 6月16日、真鯉でヒグマの交通事故死体が発見される。事故発生は15日夜と推定された。
- 5) 6月28日、ウトロのコンビニエンスストアで深夜に単独ヒグマが目撃される。
- 6) 6月13、22、26日に岩尾別でヒグマが車両に接近・威嚇突進する事例が発生。
- 7) 7月5日、岩尾別でヒグマが車両を叩く事例が発生。怪我人はなし。
- 8) 7月7日、岩尾別温泉道路でバイクを追いかける単独ヒグマの情報あり。
- 9) 7月11日、知床峠付近で自転車と親子ヒグマが近距離で遭遇。事故には至らず。
- 10) 7月13日、日の出の商店の空き瓶置き場の瓶がヒグマによって一部倒される。
- 11) 7月17日、知床横断道路で親子ヒグマ（09B06）が停車している乗用車に近づき臭いを嗅ぐ事例が発生。
- 12) 7月18日、知床横断道路、知床公園線でヒグマがバイクや車に威嚇突進する事例が発生。
- 13) 7月26日、幌別橋付近でヒグマ（09B06）が乗用車に足をかけ揺する事例が発生。
- 14) 7月29日、幌別地区で車を追いかける単独ヒグマの目撃あり。
- 15) 8月2日、エゾシカファームでシカ用のエンジンがヒグマに食べられる。
- 16) 8月6日、フレペの滝遊歩道内でヒグマが出没し、利用者の退出中にヒグマ（CP）がシカを追いかけて、人の列の間を通過する事例が発生。
- 17) 8月13日、知床横断道路で親子ヒグマ（09B06）が出没し、子の1頭が車に前足をかけてのぞき込む事例が発生。
- 18) 8月13日、知床連山の三ツ峰野営地テントがヒグマに破かれる事例が発生。テントは無人で食糧等は入っていなかった。
- 19) 8月14日、ウトロ東の沿岸をヒグマ（CP）が泳いでウトロ漁港方面に移動する事例が発生。観光船に協力を仰ぎ港への侵入を阻止。ヒグマを幌別川まで押し戻す。その間、国道沿いに大渋滞が発生し、警察に交通整理の協力を要請。
- 20) 8月23日、エゾシカファームの解体場のシャッターがヒグマに壊され、シカの残滓を荒らされる事例が発生。同日の夕方に駆除態勢をとるが、捕獲に至らず。

- 21) 8月24日、ウトロ西で夜間ヒグマの目撃情報があり、現場を調査中に単独ヒグマを目視。ヒグマは山側へ逃げロスト。翌早朝、パトロールを実施したがヒグマの姿なし。糞から採取した遺伝子より、ルシヤや羅臼を広域的に行動しているオス(MA)と判明。その後、この個体は9月1日にウトロ高原農地で有害駆除されたことが遺伝子から判明。
- 22) 8月30日、岩尾別孵化場の電気柵内にヒグマが侵入。住宅のガレージ内にも侵入し、移動後に緊急駆除となる(CP)。
- 23) 9月9日、町民公園パークゴルフ場内でヒグマの足跡が見つかる。役場と猟友会が付近を捜索したがヒグマは確認されず。
- 24) 9月9日、ウトロ中島で子グマの目撃情報あり。9月6日に小中学校のグラウンドを走る子グマがいたとの情報あり。翌日、ペレケ川沿いで0才2頭を発見し駆除。
- 25) 9月13日、エゾシカファームに常習的に侵入した個体が有害駆除となる(DF)。
- 26) 9月29日、ウトロ市街地内のペレケ川で単独ヒグマを発見し駆除(EZ)。体重345kgのオス成獣であった。
- 27) 10月15日、ウトロ市街地内に0才2頭連れ親子が侵入。最終的に野営場側のフェンスを乗り越え逃走。
- 28) 10月18日、幌別川河口で釣り人がヒグマに荷物を荒らされる事例が発生。現場に執着している単独ヒグマ(EX)を危険と判断し駆除。
- 29) 10月18日、幌別川河口で単独ヒグマが出没し、釣り人の放置したサケを採食する事例が発生。追い払い中に実弾が誤射され、ヒグマ手負い状態となる。危険と判断し緊急駆除(SZ)。
- 30) 10月19日、ウトロ西の国道上で夜間、単独ヒグマが目撃される。ヒグマは海岸へ逃走し、その後の行方は不明。ヒグマには耳標が付いていた。
- 31) 11月10日、ウトロ東でヒグマ出没場所に大量の魚ゴミを発見し、回収。注意看板を設置。

平成28年度の事例

- 1) 5月30日、ウトロ東の漁業番屋裏に親からはぐれた子グマが出没。麻酔銃で不動化し奥地放獣。
- 2) 7月5日、フレペの滝遊歩道内でヒグマ2頭が利用者の間を通り抜けていく事例が発生。利用者は走って逃げようとしたが同伴者が注意し、大事に至らず。
- 3) 7月9日～12日の間、ウトロ市街地柵内でヒグマの痕跡が相次いで見つかる。市街地柵内を調査・巻き狩りするがヒグマの姿なし。
- 4) 7月31日、岩尾別温泉道路で自転車がヒグマに接触しかける。事故には至らず。
- 5) 8月13日、硫黄山登山道で登山者がヒグマに喰られる。
- 6) 8月24日、幌別川で釣り人の自転車がヒグマに壊される。サドル部分を齧られる。
- 7) 8月25日、幌別川で釣り人の荷物がヒグマに荒らされる。中に食物はなし。

- 8) 8月26日、幌別川でヒグマが釣り人に接近。釣った魚をヒグマに持ち去られる。
- 9) 8月27日、幌別川河口にヒグマが出現、釣り人が右岸に取り残される。
- 10) 8月28日、幌別川河口にヒグマが出現。釣り人の投棄した釣り餌（イカ）を食べる。
- 11) 8月29日、幌別川でヒグマが釣り人の残置した魚を摂食し、その後も釣り人に接近する。
- 12) 9月14日、ウトロ市街地柵内のペレケ川でヒグマに捕食されたマスが見つかる。調査するもヒグマの姿なし。
- 13) 9月22日、岩尾別川付近の公園線でヒグマが車に接近。ヒグマにパンを与えようとする者がおり、目撃者が阻止した。
- 14) 10月26日、岩尾別川付近の公園線で車に接近してくるヒグマを発見。
- 15) 10月28日、岩尾別川付近の公園線で車に接近してくるヒグマの情報。
- 16) 11月1日、岩尾別川付近の公園線で車に接近してくるヒグマの情報。
- 17) 11月8日、岩尾別川付近の公園線で車に接近してくるヒグマの情報。
- 18) 11月13日、岩尾別川付近の公園線で車に接近してくるヒグマを発見。停車している車の運転席ドアの前に来て匂いを嗅ぐ。餌付けされている疑いあり。
- 19) 11月13日、岩尾別川付近の公園線でヒグマが駐車中の車（無人）にのしかかる事例が発生。車の損傷は無し。

羅臼町

危険な事例が17件発生（H24：4件、H25：1件、H26：3件、H27：9件、H28：1件）。平成24年度の夏期には、削痩し衰弱したヒグマの住宅地への侵入が多発した。衰弱により追い払いへの反応が極端に悪くなった例や、周辺に人や住宅が多いために追い払いを安全に実施できない例も多く、有害捕獲頭数の増加につながった。また、平成27年度の夏期には、モイレウシを除く相泊以北の各釣り場で、利用者が持ち込んだ食べ物や釣った魚がヒグマに奪われる事例が報告された（後述するペキン川河口の事例以外は間接的な情報であり、現地調査を実施していないため詳細不明）。また、春日町の漁業番屋の倉庫にオス成獣が侵入する事例があった。

平成24年度の事例

- 1) 7月23日にヒグマが昆布浜の番屋内に侵入し、生ゴミを食べるといふ事例が発生。翌早朝に当該個体は有害捕獲された。
- 2) 7月26日と同28日に、八木浜町と麻布町で、住宅街の生ゴミに餌付いた可能性の高いオス成獣が相次いで有害捕獲された。周辺では夜間に住宅脇で大型のヒグマが頻繁に目撃され、倉庫のシャッターを破られて中の干し魚を食べられた例や、勝手口のドアをヒグマに傷つけられる例などが発生していた。

- 3) 8月20日に海岸で作業をしていた昆布漁業者に対して、オス成獣が次々と威嚇突進を繰り返す事例が発生した。
- 4) 9月6日に羅臼漁港内に衰弱したヒグマが侵入する事例が発生。同個体は漁港の斜路で寝始めた。既に日没時刻を過ぎていた上に、周囲に多数の見物人が集まっており、山への追い払いは不可能な状況であった。そのため、警察官職務執行法に基づく発砲命令を羅臼駐在所の警察官が下し、その場で有害捕獲された。

平成 25 年度の事例

- 1) 4月22日の朝、羅臼町役場付近の羅臼市街地中心部を、きわめて警戒心の薄い若い単独オスが横断する事例が発生した。これまでも夜間に羅臼川沿いに侵入してくる例などはあったが、日中に堂々と市街地中心部を横断した事例は羅臼町内初であった。

平成 26 年度の事例

- 1) 7月26日、麻布町の水産加工場に隣接した住宅で、屋外に設置されていたゴミ箱が荒らされ、中身の生ごみが持ち去られた。現場付近でフキの食痕が確認されたため、ヒグマによる被害である可能性が高かった。
- 2) 7月28日深夜、麻布町の住宅で生ごみの入ったバケツが荒らされた。付近でヒグマが目撃されたため、このヒグマによるものと推測された。
- 3) 8月、赤岩において、漁業番屋の近くから離れないヒグマが確認された。漁業活動に支障が出たため有害捕獲方針となったが、捕獲には至らなかった。

平成 27 年度の事例

- 1) 7月1、4日に知床峠付近で一般車両が親子グマ(親ヒグマ ID:08B14)にブラフチャージを受けた。当該親子は斜里側で自転車を追いかけた親子と同一の可能性があった。
- 2) 7月21日、深夜にオッカバケ川右岸で一般住宅のゴミが荒らされる被害が発生した。空のゴミ箱が持ち去られ、翌日の深夜には少し離れた場所で木箱に入った生ごみが持ち去られた。8月4日、加害個体と考えられるヒグマが有害捕獲となった。
- 3) 8月17日、知昭町の水産加工場敷地内にある汚水槽が荒らされる被害が発生した。汚水槽の上に積まれた木製パレットが破壊され蓋が開けられた。これらの被害を受けて捕獲檻が設置され、8月25日に有害捕獲となった。
- 4) 8月21日、釣り場(瀬渡し場)の一つであるペキン川河口において、利用者が持ち込んだ食べ物や釣った魚がヒグマに奪われる被害が特に酷いと報告された。原則として、レクリエーション利用のためのヒグマの駆除(あるいはそれに準ずる対応)はしない事になっていたが、特に人に対して至近距離まで接近して来る事例が報告された同所においては、異例の追い払い対応が行われた。

- 5) 8月22日、栄町で深夜に一般住宅裏の小屋から塩マス、干し魚がヒグマに奪われる被害が発生した。翌日の夜にも同じ場所に出没していることが自動撮影カメラによって明らかになったが、その後、姿を現すことがなかった。当該個体は、8月25日に有害捕獲された個体と体格が類似していたため、同一だった可能性がある。
- 6) 9月10日、岬町モセカルベツ地区で夜間に水産加工場付近でヒグマが目撃され、対応中に残渣が食べられる被害が発生した。威嚇弾による追い払いを実施した結果、同じ場所に出没することはなかった。
- 7) 9月15日、オッカバケ川右岸の水産加工場の屋内作業場にヒグマが侵入する被害が発生した。作業場の出入口は破壊され、屋内に保管してあった鮮魚が食べられた。これらの被害を受けて捕獲檻が設置され、翌16日に有害捕獲となった。
- 8) 10月22日、幌萌町の水産加工場で発砲スチロールゴミが荒らされる被害が発生した。現場検証の結果、残渣も食べられていることが明らかになり、被害は9月末頃から続いていたことが判明した。当該個体は、日中にも出没していることからそのまま捕獲体制となり、同日中に敷地に侵入しようとしていた当該個体が有害捕獲となった。
- 9) 11月15日、春日町の漁業番屋の倉庫にオス成獣ヒグマが侵入しサケトバを食べられる被害が発生。侵入時にシャッターと窓ガラスが破損。当該個体は後日に捕殺となった。

平成28年度の事例

- 1) 7月26日、岬町で水産加工場の残渣が食べられる。異なるサイズの足跡があることから加害個体は複数いることが推測され、うち1頭が箱罟で有害捕獲された。

標津町

平成24年度～平成28年度はヒグマによる直接的な人身被害はなかったが、24、25年度においては複数の危険事例が確認された。

平成24年度の事例

- 1) 崎無異市街地において、ヒグマ(2歳)が住宅裏の海岸線に漂着した海獣の死骸を捕食していた事例が発生。その際、対応者から2mの近距離でヒグマと遭遇、追払い対応を検討するも周囲に住宅が点在しており、住民が庭先で作業をしているため、安全上難しいと判断し、個体を駆除し誘引物を撤去した。その後の住民からの聞き取りでは、駆除個体の他にも以前から複数のヒグマが誘引物に誘引されていた模様。
- 2) 崎無異～薫別において、海獣の斃死体漂着が昨年から増して13件となった。その多くがヒグマの誘引物となり、対応に迫られた。また、漂着した時期がお盆に重なったことから町外からのキャンプ客や釣り人に対する利用自粛願いに苦慮した。

- 3) 8月の出没件数が増えた要因として、忠類市街地付近でヒグマ（1歳）が繰り返し出没した。同個体は、市街地付近でフキなど捕食し続けたほか、漁網の洗浄作業を行っていた付近を中心に徘徊していた。

平成 25 年度の事例

- 1) 7月に川北ウラップ川西4線陸橋付近の河川敷で、有害駆除にて半矢になったエゾシカを親子連れヒグマ（成獣1、幼獣1）が捕獲している所をドライバーが目撃し通報。その後も同一地点で目撃が相次いだ。周辺の状況は、藪も濃く、誘引物となっているエゾシカの死骸の撤去は難しいと判断。さらに、周囲には人家も少なく、同付近はヒグマの活動域となっていることなどから、関係者との協議で追払い対応とした。
- 2) 7月に川北シュラ川流域で、亜成獣2頭の出没が相次いだ。
- 3) 10月に国道272号線川北付近の山林で、単独で山ブドウ狩りを行っていた町内男性がヒグマと遭遇。その後、国道まで退避するまでの100m程度をヒグマに後方を付けられた事例が発生。当初男性は、ヒグマとの遭遇を避ける目的で、定期的にホイッスルを鳴らしていたが、気が付いたら20m程度のところにヒグマが居たとのこと。その後、持っていたブドウの入った袋やハサミを振り回しながら道路まで後退していったが、ヒグマは全く逃げる気配を見せず、最終的には道路のり面付近まで来た時には数mまで接近。その際、たまたま通りかかったトラックがクラクションを鳴らした際に、ようやくヒグマが逃避し、難を逃れた。その後、現場確認を実施したところ、個体は最後に逃げ去った場所からほぼ真っ直ぐに山林を抜け、湿地帯に向かった後だった。その後、しばらくパトロールを行っていたが、姿を見せることもなかったため、周囲に注意喚起の看板を設置するとともに、パトロールを継続。後日、付近で同個体は捕獲された。

平成 26～28 年度は危険事例なし。

ヒグマ目撃件数（出没件数）

<斜里町>

ヒグマ目撃アンケート

平成 24～28 年の 5 年間のうち、平成 24 年、27 年、28 年の 3 年でそれぞれ目撃件数が 1,000 件を超え、近年の目撃件数は平成 23 年以前より増加傾向にある。特に平成 24 年および平成 27 年は、過去 20 年強の間で突出した目撃件数となり、「大量出没年」であった。目撃件数が最も多かった年は平成 24 年の 1,763 件（国立公園内 1,576 件、国立公園外 187 件）であり、次いで平成 27 年が 1,487 件（国立公園内 1,273 件、国立公園外 214 件）となった。平成 28 年は 1,035 件（国立公園内 906 件、国立公園外 129 件）と過去 3 番目に多かった。

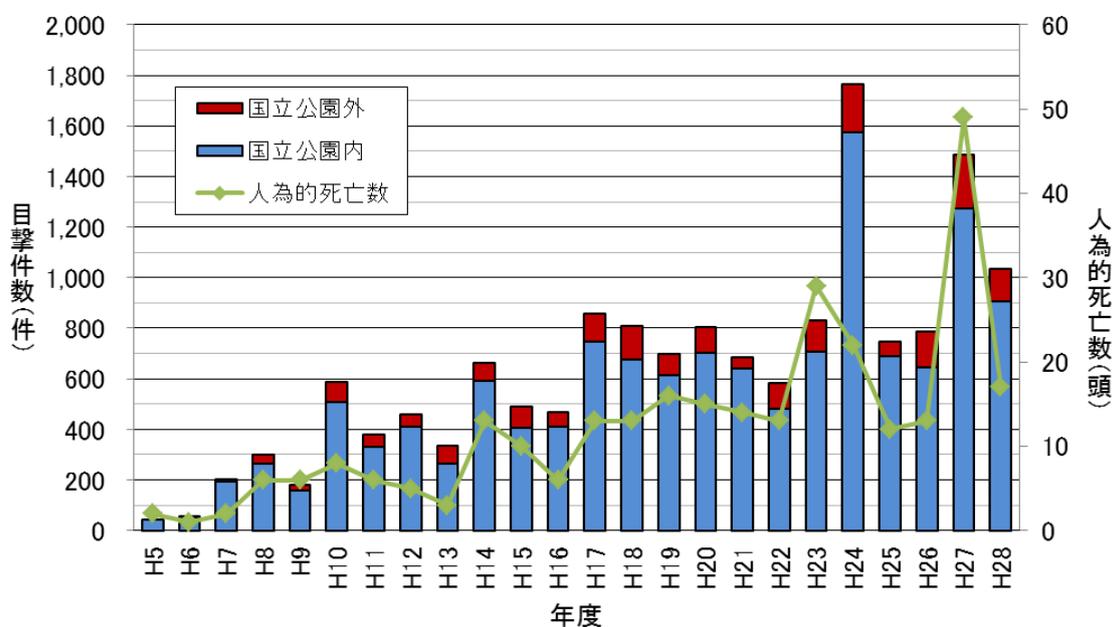


図 3. 斜里町におけるヒグマ目撃件数の推移

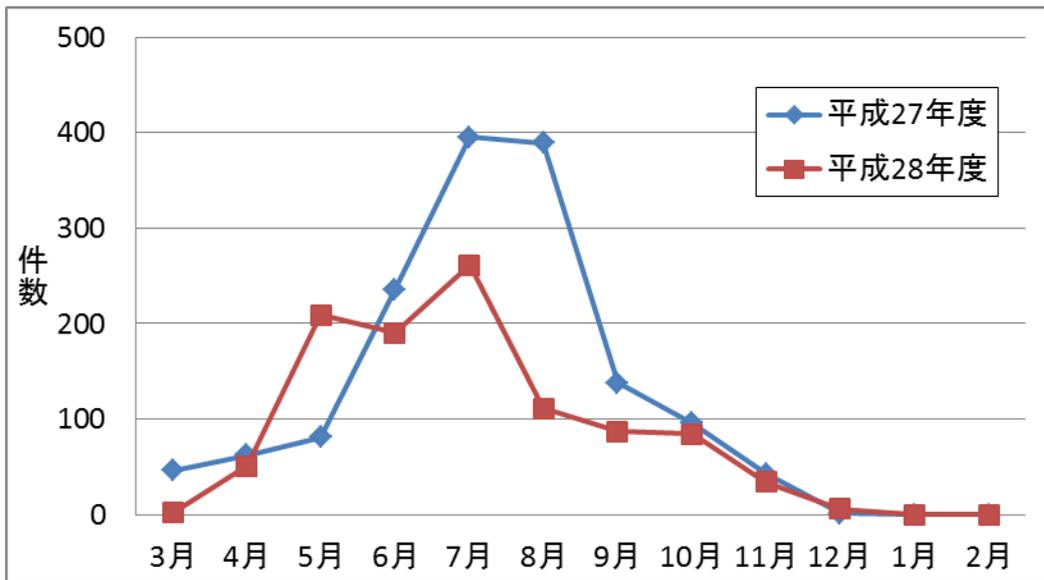


図 4. 斜里町におけるヒグマ目撃件数の月別変化(平成 27 年度と平成 28 年度の比較)

観光船からのヒグマ目撃情報

- ・ヒグマ個体群の動向を把握するため、斜里側の小型観光船運営会社 1 社が記録しているヒグマの目撃情報をコース別に取りまとめた。

⇒ヒグマウォッチングコースと知床岬コースの目撃について、平成 24、27 年の大量出没年の翌年は減少している。

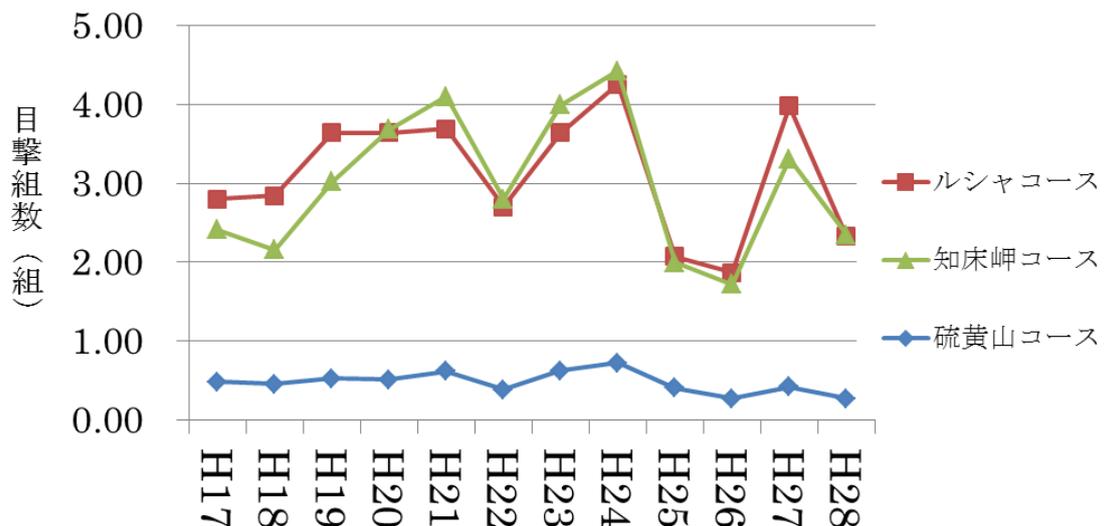


図 5. コース別運航 1 回あたりのヒグマ目撃組数

<羅臼町>

平成 24～28 年の 5 年間で、目撃件数が最も多かった年は平成 24 年であった。平成 24 年は、国立公園外 237 件、国立公園内 150 件の計 387 件であった。次いで平成 27 年が、国立公園外 137 件、国立公園内 172 件の計 309 件となり多かった。平成 24 年、27 年の目撃件数が例年と比較して多かった状況は、斜里町と同様であった。

場所別では、平成 19 年以降、国立公園外では平成 24 年の 237 件が最も多く、国立公園内では平成 28 年の 175 件が最多であった。平成 28 年の国立公園内の目撃が多かった理由の一つとして、平成 27 年以降、ヒグマウォッチングクルーズ等の遊漁船事業者から知床岬地区における目撃情報が多く寄せられるようになったことが挙げられる。

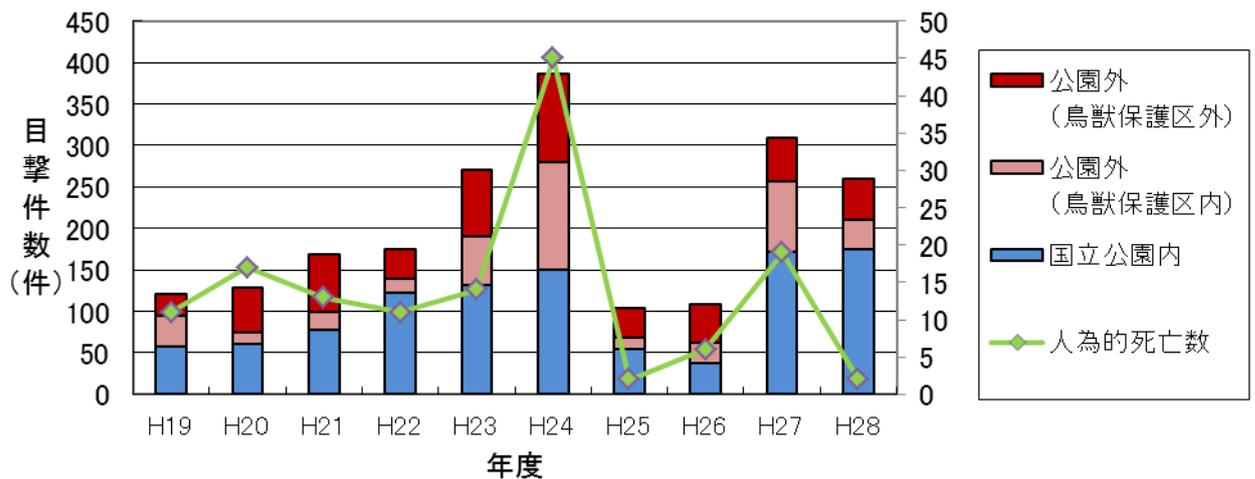


図 6. 羅臼町におけるヒグマ目撃件数の推移

<標津町>

平成 24～28 年度の 5 年間で、ヒグマ対応件数が最も多かったのは平成 25 年度の 49 件であった。平成 21～25 年度まで年 40 件を超えていたヒグマの対応件数は、平成 26 年度以降は 20～30 件台で推移した。斜里町では平成 27 年に大量出沒が発生したが、標津町は比較的落ち着いた状況で推移した。平成 24～28 年度の 5 年間、ヒグマの狩猟捕獲は毎年 0～2 頭、有害捕獲も毎年 0～3 頭であった。

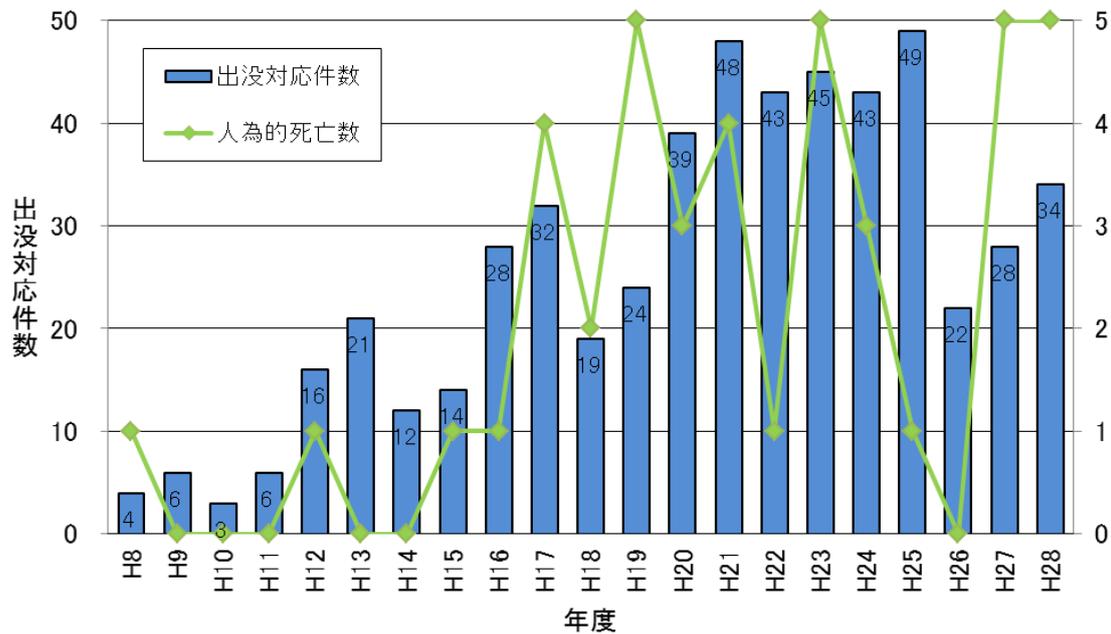


図 7. 標津町における年度別出沒件数

定点カメラ・足跡トラップ

<実施状況>

標津町においてヒグマの出没情報があった地点および、出没の可能性がある地点に、自動撮影カメラ・足跡トラップを設置し、個体識別情報や生息状況を分析している。定点カメラは、ヘアトラップ調査に集約。また、足跡トラップは、同付近からヒグマの動きが変化したため、現在停止中。(実施主体：標津町およびNPO法人 南知床ヒグマ情報センター)

ヒグマの行動追跡調査の実施状況

<実施状況>

斜里町

- ・平成 24 年度は幌別・岩尾別地区で 1 頭に GPS 首輪を装着（知床財団）。同個体(11B02)は夏期、岩尾別台地上の人間の活動エリアのすぐ近くに滞留していたが、比較的人目を避けて行動しており、目撃される機会は少なかった。晩秋には環境省事業で試行されていたカメラトラップのサイトを頻繁に来訪していた。
- ・平成 25 年度は幌別・岩尾別地区で 2 頭、ルシヤ地区で 2 頭、計 4 頭に標識を装着（GPS 首輪 3 頭、耳標のみ 1 頭。知床財団他）。うち 1 頭は 24 年度捕獲個体と同一（11B02）。11B02 は前年よりも東寄りの知床五湖以東、イダシュベツ川方面で主に行動していた。GPS 首輪を装着した 3 頭はいずれも夏期に低標高帯～高標高帯を短期間で往復する行動を反復していた。岩尾別地区で冬も電波を受信可能だった 2 頭（11B02, 13B03）は、12 月初旬から活動が低下し、同月下旬に冬眠に入ったものと推測された。
- ・平成 26 年度はルシヤ地区で 2 頭に耳標、5 頭に GPS 首輪を装着（知床博物館・北大）。
- ・平成 27 年度は幌別地区で 1 頭に GPS 首輪を装着するが、装着した 1 か月後にウトロ高原農地で有害駆除となった。
- ・平成 28 年度は生体捕獲なし、GPS 首輪の装着なし。また、傷病として捕獲された衰弱した 1 歳ヒグマの放獣時に耳標を装着したが、行動追跡には至らず。

羅臼町

- ・町内での生体捕獲・標識装着は平成 24～28 年度ともになし。
- ・斜里町で 2008 年に初標識されていた高齢のオス成獣（08B08）が、相泊の海岸線で有害捕獲された（2013(平成 25)年 8 月 24 日）。

標津町

- ・平成 24 年度は 3 頭に標識を新規装着（NPO 南知床他）。他に 1 頭、過去に標識装着した個体の再捕獲あり。
- ・平成 25 年度は 3 頭に標識を新規装着（NPO 南知床他）。他に 1 頭、過去に標識装着した個体の再捕獲あり。
- ・平成 26 年度は 3 頭に標識を新規装着（NPO 南知床他）。他に 1 頭、過去に標識装着した個体の再捕獲あり。
- ・平成 24～25 年度に町内におけるヘアトラップ調査（北大獣医学部他）により、25 個体を DNA で識別。

- 平成 24 年度に標津のヘアトラップで個体識別されていたオスが、平成 25 年度（8/25）に斜里町日の出の農地で有害捕獲された。
- 平成 27 年度は標識の装着に至らず行動追跡調査実施できず。
- 平成 28 年度は標識の装着に至らず。

ヒグマによる農林業被害の発生状況

<斜里町>

表 7. 平成 24 年度(4 月~12 月)ヒグマによる農作物被害状況(JA 斜里 提供)

被害作物	被害面積	被害金額
澁原馬鈴薯	10	72
種子馬鈴薯	15	216
甜 菜	727	5,601
秋 小 麦	273	1,920
春 小 麦	10	60
人 参	30	426
スイートコーン		
大 豆		
小 豆	10	107
そ の 他		
計	1,075	8,402

表 8. 平成 25 年度(4 月~12 月)ヒグマによる農作物被害状況(JA 斜里 提供)

被害作物	被害面積	被害金額
澁原馬鈴薯	15	115
種子馬鈴薯		
甜 菜	380	3,000
秋 小 麦	245	1,636
春 小 麦	20	119
人 参	10	261
スイートコーン		
大 豆		
小 豆		
そ の 他		
計	670	5,131

表 9. 平成 26 年度(4 月~12 月)ヒグマによる農作物被害状況(JA 斜里 提供)

被害作物	被害面積	被害金額
澁原馬鈴薯	40	291
種子馬鈴薯	10	111
甜 菜	295	3,009
秋 小 麦	205	1,238
春 小 麦		
人 参	10	154
スイートコーン		
大 豆		
小 豆		
そ の 他		
計	560	4,803

表 10. 平成 27 年度(4 月~12 月)ヒグマによる農作物被害状況(JA 斜里 提供)

被害作物	被害面積	被害金額
澁原馬鈴薯	25	185
種子馬鈴薯		
甜 菜	575	6,746
秋 小 麦	180	1,321
春 小 麦		
人 参	40	1,124
スイートコーン		
大 豆		
小 豆		
そ の 他		
計	820	9,376

※平成 28 年度の情報はとりまとめ中 (平成 29 年 3 月現在)

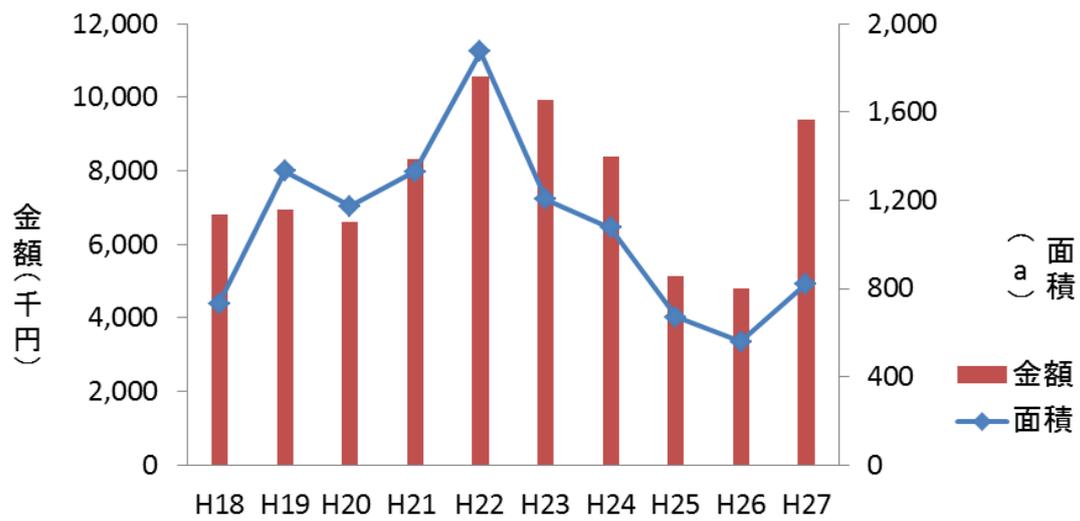


図 8. 斜里町におけるヒグマによる農作物被害の面積及び金額の経年変化

<羅臼町><標津町>

平成 24～28 年度とも直接的な被害報告なし。

出没や被害に関する通報・対応件数と対応状況の記録

ヒグマ対応件数

<斜里町>

平成28年度の斜里町内におけるヒグマ対策活動件数は733件で、平成27年度の987件から254件減少した。月別では7月に最も対応件数が多く、平成25年度および26年度と同様に8月に対応件数が減少する傾向があった。

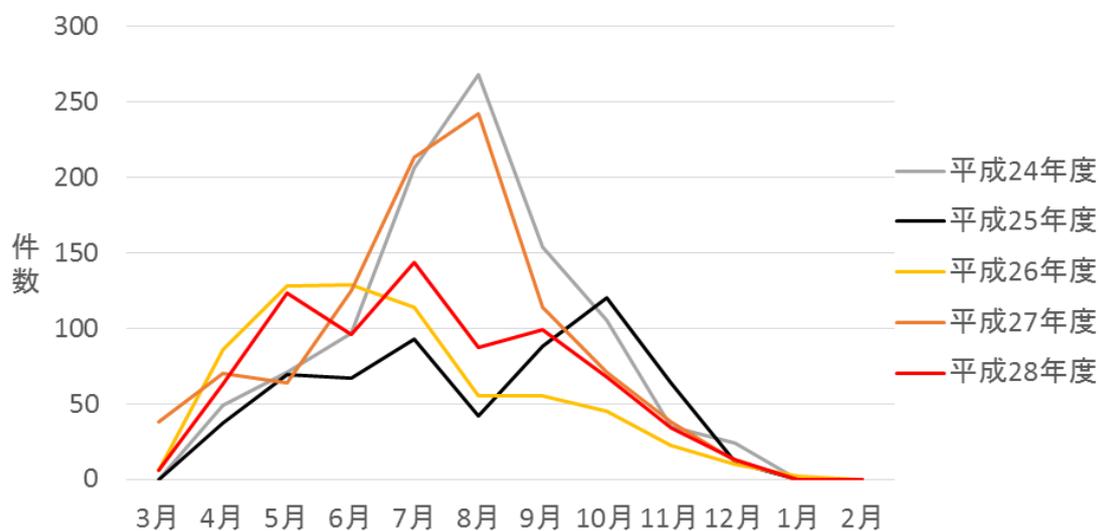


図9. 斜里町におけるヒグマ対応件数の月別変化

<羅臼町>

平成28年度の羅臼町内におけるヒグマ対策活動件数は138件で、平成27年度の197件から減少した。平成26年度、平成27年度と同様に8月に対応件数が減少する傾向があった。

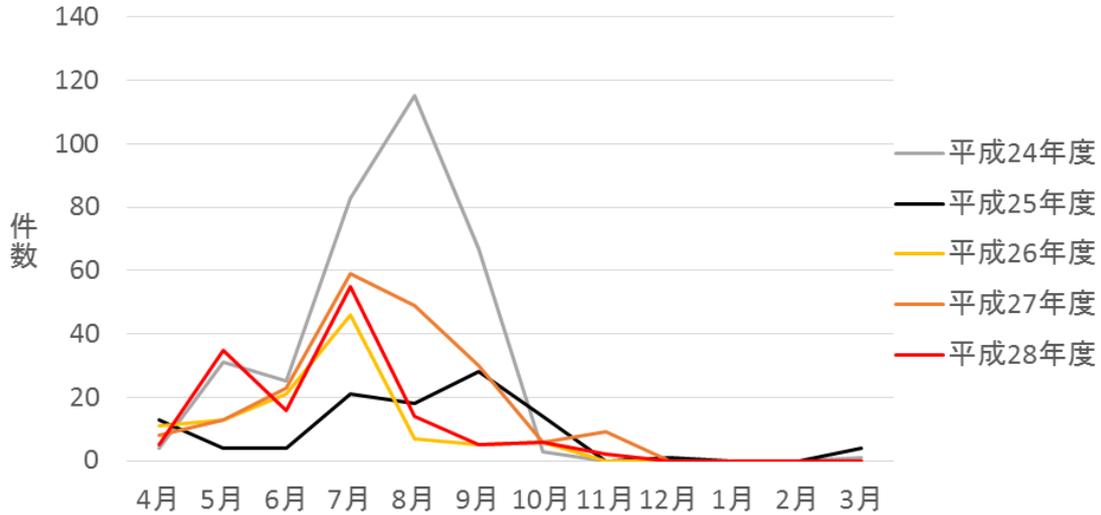


図 10. 羅臼町におけるヒグマ対策活動件数の月別変化

<標津町>

平成28年度の標津町内におけるヒグマ出没対応件数は34件で、平成27年度の28件よりやや増加した。平成24～28年度を全体的にみると月別では7月がもっとも多くなる傾向がみられた。

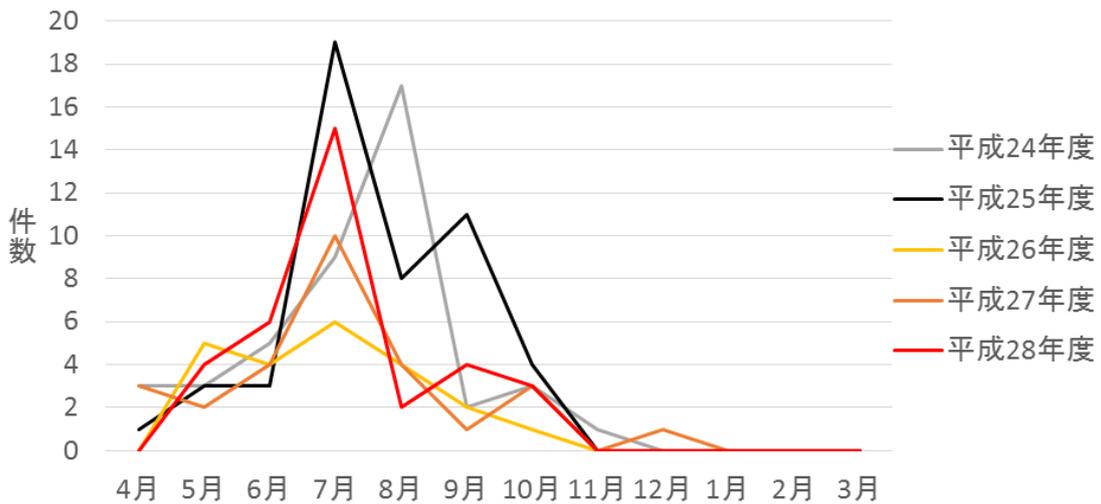


図 11. 標津町におけるヒグマ出没対応件数の月別変化

ヒグマ対応件数のゾーン別・行動段階別集計

*斜里町は知床財団による対応のみを集計。猟友会による対応は除く。

斜里町ではゾーン別ではゾーン 3、行動段階別では行動段階 1 の対応件数が多く、ゾーン 3・行動段階 1 の対応が過半数を占める。羅臼町ではゾーン 5 と 3、行動段階 1 の対応件数が多く、ゾーン 5・行動段階 1 とゾーン 3・行動段階 1 で対応の過半数を占める。

表 10. 斜里町におけるゾーン別、行動段階別のヒグマ対応件数

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2012	1	0	1	0	0	1
	2	2	21	0	0	23
	3	8	271	4	0	283
	4	1	20	2	0	23
	5	2	4	3	0	9
	計	13	317	9	0	339

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2013	1	0	1	0	0	1
	2	0	10	1	0	11
	3	2	163	0	0	165
	4	0	3	0	0	3
	5	0	2	0	0	2
	計	2	179	1	0	182

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2014	1	0	0	0	0	0
	2	1	19	0	0	20
	3	1	146	0	0	147
	4	0	39	1	0	40
	5	0	4	0	0	4
	計	2	208	1	0	211

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2015	1	0	0	0	0	0
	2	2	19	5	0	26
	3	4	282	1	0	287
	4	2	35	4	0	41
	5	0	2	0	0	2
	計	8	338	10	0	356

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2016	1	0	0	0	0	0
	2	0	2	0	0	2
	3	3	189	2	0	194
	4	0	56	17	0	73
	5	0	0	0	0	0
	計	3	247	19	0	269

※行動段階が明確な対応のみを集計。

表 11. 羅臼町におけるゾーン別、行動段階別のヒグマ対応件数

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2012	1	1	1	0	0	2
	2	1	1	0	0	2
	3	1	44	2	0	47
	4	1	23	0	0	24
	5	6	157	26	0	189
	計	10	226	28	0	264

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2013	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
	3	1	24	0	0	25
	4	1	7	0	0	8
	5	0	31	1	0	32
	計	2	62	1	0	65

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2014	1	0	0	0	0	0
	2	0	3	0	0	3
	3	0	15	0	0	15
	4	0	10	0	0	10
	5	0	38	1	0	39
	計	0	66	1	0	67

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2015	1	0	0	0	0	0
	2	0	1	1	0	2
	3	0	32	0	0	32
	4	0	12	0	0	12
	5	0	68	10	0	78
	計	0	113	11	0	124

	ゾーン	行動段階				合計
		0	1	2	3	
2016	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
	3	0	44	0	0	44
	4	0	9	0	0	9
	5	0	57	3	0	60
	計	0	110	3	0	113

※行動段階が明確な対応のみを集計。

遊歩道・登山道の運用状況

<フレペの滝遊歩道>

フレペの滝遊歩道は通年利用可能である。ヒグマ出没による緊急閉鎖は、平成 24 年度は 48 回、平成 25 年度は 20 回、平成 26 年度は 50 回、平成 27 年度は 85 回、平成 28 年度は 53 回であった。

<知床五湖地上遊歩道>

平成 24 年度は、開園（4 月 20 日午後）から閉園（11 月 25 日午後）までの全 219.5 日中、83 日間はヒグマ活動期、100.5 日間は植生保護期、36 日間は自由利用期となった（1 日の午前と午後をそれぞれ 0.5 日として計算）。

植生保護期においてヒグマが原因で地上遊歩道が全面閉鎖もしくは一部閉鎖された日数は合計 43.5 日であった。ヒグマ活動期において登録引率者がヒグマと遭遇し、ツアー中止となった件数は 39 件であった。自由利用期ではヒグマ出没による地上遊歩道閉鎖は 1.0 日のみであった。

平成 25 年度は、ヒグマ活動期において登録引率者がヒグマと遭遇しツアー中止となった件数は 3 件であり、昨年の 39 件より大幅に少なかった。植生保護期におけるヒグマを原因とする閉鎖日数は 3.0 日間（昨年度 43.0 日間）、自由利用期では 1.5 日間（1.0 日間）であった。また、4 月下旬の大雪で 5 月上旬まで 12 日間地上歩道が閉鎖されるという事例があった。

平成 26 年度は、ヒグマ活動期において登録引率者がヒグマと遭遇しツアー中止となった件数は 3 件であり、昨年と同程度となった。植生保護期におけるヒグマを原因とする閉鎖日数は 5.0 日間（昨年度 3.0 日間）、自由利用期は早期閉園のため 0 日間（1.5 日間）であった。

平成 27 年度は、ヒグマ活動期において登録引率者がヒグマと遭遇しツアー中止となった件数は 13 件であり、昨年より大幅増となった。植生保護期におけるヒグマを原因とする閉鎖日数は 29.0 日間（昨年度 5.0 日間）、自由利用期は 1.0 日間（昨年度 0 日間）であった。

平成 28 年度は、ヒグマ活動期において登録引率者がヒグマと遭遇しツアー中止となった件数は 6 件であり、昨年の約半数となった。植生保護期におけるヒグマを原因とする閉鎖日数は 2.0 日間（昨年度 29.0 日間）、自由利用期は 1.0 日間（昨年度 1.0 日間）であった。

表 12. 平成 24～28 年度(※)における知床五湖の利用ルール概要

	ヒグマ活動期	植生保護期	自由利用期
期間	5/10-7/31	開園-5/9、8/1-10/20	10/21～閉園
登録引率者	必要	不要	不要
立入申請	必要	必要	不要
費用	ツアー参加費+認定手数料	認定手数料	不要
地上歩道の利用形態	周回ルート: 一方通行で ①FH>5湖>4湖>3湖>2湖>1湖>高架木道 ②FH>2湖>1湖>高架木道 ※②のルートは平成26年より供用開始	以下2つの周回ルートが選択可能 ①FH>5湖>4湖>3湖>2湖>1湖>高架木道 ②FH>2湖>1湖>高架木道	
高架木道との接続	あり	あり	
ヒグマ出没時	登録引率者が地上遊歩道の利用継続・中止を判断し、中止の場合自分の引率するグループを避難誘導する。	管理者による緊急閉鎖等が実施される。	

※26年度は駐車場拡張工事のため知床五湖は10月14日に閉園したため自由利用期なし。

<羅臼岳登山道>

平成24～28年度ともにヒグマ出没などによる登山道の閉鎖は実施されなかった。

<羅臼湖>

平成24～28年度ともにヒグマ出没などによる登山道の閉鎖は実施されなかった。

<羅臼温泉園地歩道>

平成24～28年度ともにヒグマ出没による羅臼温泉園地歩道の閉鎖はなし

<知床半島先端部地区海岸トレッキング>

相泊以北海岸、平成24年8月10日から9月15日にかけて、クジラの死体漂着にともなうヒグマ出没のため、立ち入り自粛要請が出された。平成25～27年は閉鎖や自粛要請なし。平成28年は7月8日～8月2日の間、トドの死体漂着にともなうヒグマ出没のため、立入自粛要請が出された。

学校教育や社会教育における地域住民への普及啓発活動の記録

<学校教育>

平成 24 年度

斜里町

- ・ウトロ小中学校にて小学 1 年生～中学 3 年生対象（70 名）にヒグマに関する授業を行った（5/7）。
- ・峰浜小学校にて小学 1～6 年生対象（15 名）にヒグマに関する授業を行った（5/22）。
- ・川上小学校にて 1～6 年生対象（59 名）にヒグマに関する授業を行った（9/12）。

羅臼町

- ・春松中学校にて中学 1・3 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/13）。
- ・羅臼中学校にて中学 1・3 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/28）。
- ・羅臼高校にて高校 2 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/29）。
- ・羅臼小学校にて小学 3 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（8/29）。
- ・春松小学校にて小学 5 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（12/20）。

標津町

なし

平成 25 年度

斜里町

- ・ウトロ小中学校にて小学 1 年生～中学 3 年生対象（85 名）にヒグマに関する授業を行った（5/9）。
- ・峰浜小学校にて小学 1～6 年生対象（14 名）にヒグマに関する授業を行った（5/21）。
- ・以久科小学校にて小学 1～6 年生対象（24 名）にヒグマに関する授業を行った（9/18）。
- ・ウトロ小中学校にて小学 4～5 年生対象（14 名）に、ヒグマに関する授業を野外で行った（10/13）。

羅臼町

- ・羅臼中学校にて中学 1・3 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/5）。
- ・春松中学校にて中学 1・3 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/12）。
- ・羅臼高校にて高校 2 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（7/23）。
- ・羅臼幼稚園にて全園児を対象にヒグマに関する授業を行った（8/28）。
- ・春松幼稚園にて全園児を対象にヒグマに関する授業を行った（8/30）。
- ・春松小学校にて小学 5 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（2/27）。

標津町

- ・2013/7 標津中学校及び川北中学校を対象に、ヒグマ講座を実施（標津町、NPO 南知床）。

平成 26 年度

斜里町

- ・ウトロ小中学校にて全児童を対象にヒグマに関する授業を行った（5/8）。
- ・川上小学校にて全児童を対象にヒグマに関する授業を行った（9/22）。
- ・ウトロ小中学校にて小学 1～4 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（11/6）。
- ・ウトロ小中学校にて小学 5、6 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（12/8）。

羅臼町

- ・羅臼中学校にて中学 1 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/5）。
- ・春松中学校にて中学 1・3 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/12）。
- ・羅臼中学校にて中学 3 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/26）。
- ・羅臼高校にて高校 2 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（7/23）。
- ・春松幼稚園にて全園児を対象にヒグマに関する授業を行った（8/29）。
- ・羅臼幼稚園にて全園児を対象にヒグマに関する授業を行った（9/19）。
- ・春松小学校にて小学 5 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（2/17）。

標津町

- ・2014/7 標津中学校及び川北中学校を対象に、ヒグマ講座を実施（標津町、NPO 南知床）。

平成 27 年度

斜里町

- ・ウトロ小中学校の全生徒を対象にヒグマに関する授業を行った（5/11）。
- ・斜里高校を対象に知床自然概論授業を行った（6/24）。
- ・ウトロ小中学校の中学生を対象に知床世界遺産学習授業を行った（7/22）。
- ・斜里高校を対象に知床自然概論授業を行った（9/16）。
- ・斜里小学校を対象に知床 100 平方メートル運動体験学習を行った（10/1）。
- ・ウトロ小中学校の小学 1～2 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（10/7）。
- ・以久科小学校を対象にヒグマに関する授業を行った（10/14）。
- ・斜里中学校を対象に世界遺産学習授業を行った（10/27）。
- ・ウトロ中学校 1 年生を対象に総合学習授業を行った（10/21、10/28）。

羅臼町

- ・羅臼幼稚園の年長児を対象にヒグマに関する授業を行った（6/11）。
- ・羅臼中学校の 1・3 年生を対象にヒグマに関する授業を行った（6/18）。

- ・春松中学校の1・3年生を対象にヒグマに関する授業を行った(6/24)。
- ・羅臼高校の2年生を対象にヒグマに関する授業を行った(7/16)。
- ・春松幼稚園の全園児を対象にヒグマに関する授業を行った(8/28)。
- ・羅臼小学校の3～5年生を対象にヒグマに関する授業を行った(9/9)。

標津町

- ・標津中学校を対象にヒグマに関する授業を行った(標津町 9/16・NPO 南知床)。

平成 28 年度

斜里町

- ・知床ウトロ学校の全生徒を対象にヒグマに関する授業を行った(5/12)
- ・斜里小学校を対象に知床 100 平方メートル運動体験学習(6/6)
- ・知床ウトロ学校の1～4年生遠足(6/24)
- ・斜里高校を対象に知床自然概論授業(6/29)
- ・朝日小学校の遠足(12/2)

羅臼町

- ・羅臼幼稚園の年長児を対象にヒグマに関する授業を行った(11/17・24名)
- ・春松幼稚園の全クラスを対象にヒグマに関する授業を行った(9/7・53名)
- ・羅臼小学校の3年生を対象にヒグマに関する授業を行った(11/9・20名)
- ・羅臼小学校の5年生を対象にヒグマに関する授業を行った(11/9・33名)
- ・春松小学校の3年生を対象にヒグマに関する授業を行った(8/24・15名)
- ・春松小学校の5年生を対象にヒグマに関する授業を行った(2/23・14名)
- ・羅臼中学校の1年生を対象にヒグマに関する授業を行った(6/28・33名)
- ・羅臼中学校の3年生を対象にヒグマに関する授業を行った(6/28・34名)
- ・春松中学校の1年生を対象にヒグマに関する授業を行った(6/29・25名)
- ・春松中学校の3年生を対象にヒグマに関する授業を行った(6/29・25名)
- ・羅臼高等学校の2年生を対象にヒグマに関する授業を行った(7/20・42名)

標津町

なし

<地域住民対象>

平成 24 年度

斜里町

- ・しれとこ科学教室「渡島半島での試行から学ぶ北海道のヒグマ保護管理」実施(環境省事業)。講師は知床世界自然遺産地域科学委員会 エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ委員 間野勉氏。参加者 49 名(10/23)。

- ・地域住民対象講座「現在・過去・未来、ここまでわかった知床のヒグマ」(環境省事業)実施。講師は知床博物館 館長 山中 正実氏。参加者 47 名 (10/30)。
- ・地域住民対象講座「ヒグマ対応最前線-2012-」(環境省事業)実施。講師は知床財団 保護管理研究係主任 葛西真輔氏。参加者 34 名 (11/6)。

羅臼町

- ・根室管内 P T A 連合会主催で春松小学校にて「自然から学ぶ～環境保全と環境教育」を開催 (7/15)。

標津町

なし

平成 25 年度

斜里町

- ・café SORA にてウトロ町民対象(23 名)にクマに関する講演・情報交換会を行った(2/12)。

羅臼町

なし

標津町

- ・2014/3 町民を対象としたフォーラムを開催。60 名の参加。

平成 26 年度

斜里町

- ・季風クラブにてウトロ町民対象(16 名)にクマに関する講演・情報交換会を行った(2/12)。

羅臼町

- ・羅臼町町内会連合総会において町内におけるヒグマ対応について、その活動内容の紹介と、対応への理解、協力をお願いした (5/20)。

標津町

- ・2015/2 町民を対象としたフォーラムを開催。60 名の参加。

平成 27 年度

斜里町

- ・café SORA にてウトロ町民対象 (11 名) にクマに関する講演・情報交換会を行った (2/4)。

羅臼町

- ・羅臼町町内会連合総会において町内におけるヒグマ対応について、その活動内容の紹介と、対応への理解、協力をお願いした (5/19)。
- ・羅臼町在住の 60 歳以上を対象にした「こまぐさ学級」にて、ヒグマに関する講演を行った (8/25)。

標津町

なし

平成 28 年度

斜里町

- ・町民を対象に知床博物館において講演会「軽井沢のクマ事情を変えた 2 つの秘策」を開催（10/29）。
- ・ウトロ町民対象にクマに関する講座・情報交換会を予定（2 月上旬）。

羅臼町

- ・羅臼町町内会連合総会において、平成 27 年度の町内におけるヒグマ対応状況についての説明と、対応への理解、協力をお願いした（5/17・40 名）。
- ・羅臼漁業協同組合昆布部会指導会議において、本会議終了後、町内におけるヒグマ対応について、その活動内容の紹介と、対応への理解、協力をお願いした（7/11・75 名）。

標津町

- ・町民を対象としたアニマル・プロジェクト講演会を開催（ヒグマ管理計画の住民向け説明会と同日開催）（12/4・36 名）。

施設における利用者への普及啓発活動

1. ヒグマの生態および注意事項などの解説展示がある施設

- ・知床世界遺産センター
- ・知床自然センター
- ・羅臼ビジターセンター
- ・知床五湖フィールドハウス
- ・知床五湖パークサービスセンター
- ・ルサフィールドハウス

2. 知床ヒグマえさやり禁止キャンペーンの実施

観光客や住民に、野生のヒグマに餌をやることの危険性を理解してもらい、餌をやらな
いしてほしいと訴えるキャンペーン（平成25～27年度）。

(1) 実行組織

平成24年度第2回適正利用・エコツーリズム検討会議での承認を受け、平成25年からキ
ャンペーンを開始。知床斜里町観光協会、知床羅臼町観光協会、環境省、北海道森林管理
局、北海道、斜里町、羅臼町、知床財団、自然公園財団知床支部、ウトロ自治会、ウトロ
地域協議会、しれとこウトロフォーラム21からなる「知床ヒグマえさやり禁止企画実行委
員会」が取組を進めてきた。平成28年から休会となり各主体で取組を継続している。

(2) 啓発活動の展開

- 缶バッジによる啓発活動
- マグネットステッカーによる啓発活動
- ポスター掲示
- ホームページの開設、キャンペーン映像の放映
- 知床横断道路開通式でのキャンペーンキックオフイベントの実施
- 企業との協働による啓発
- バス会社、旅行代理店等への啓発
- 知床財団オリジナルの普及啓発カードのマイナーチェンジバージョンを作成、並びに英
語バージョンと中国語バージョンを作成、配布。
- 知床自然センターでは、来館者参加型の展示物を作成。

ゴミに関連する問題事例の発生状況

<平成 24 年度>

斜里町

- ・ 8 月 16 日には岩尾別川付近の公園線沿いでゴミ袋を啜えるヒグマが目撃された。現場でヒグマを追い払い、散乱した漬物やメロン等のゴミを回収したが、目撃情報と現場の状況から複数のヒグマ（1 頭連れ親子と単独ヒグマ）がゴミを採食してしまったと考えられた。
- ・ 8 月 31 日に岩尾別のホテルのゴミ置き場を荒らして生ゴミを食べる単独ヒグマが目撃されたため、追払いと散乱したゴミの回収を実施した。同日ヒグマが再度出没しゴミ置き場を壊しているとの通報を受け、現場で同一のヒグマを発見しやむなく有害捕獲とした。同ホテルにはゴミの管理を徹底するよう厳重注意した。
- ・ 上記の事例も含め、ゴミの不法投棄は 18 件に及んだ。

羅臼町

- ・ 7 月 5 日に岬町モセカルベツの水産加工場にて、残渣がヒグマに荒らされる。
- ・ 7 月 11 日に知昭町の水産加工場で残渣がヒグマに荒らされる。
- ・ 7 月 19 日に麻布町の住宅で生ゴミがヒグマに荒らされる。
- ・ 7 月 19 日に岬町モセカルベツの水産加工場で残滓がヒグマに荒らされる（2 度目）。
- ・ 7 月 20 日に麻布町の運送会社にて、水産系残渣を運搬する車両の幌が破かれ、空き缶を入れてあったポリバケツがヒグマに荒らされる。また、付近の住宅で屋外に置いてあったゴミ容器が倒される。
- ・ 7 月 22 日に八木浜町の住宅にて、生ゴミがヒグマに荒らされる。
- ・ 7 月 23 日に八木浜町の住宅にて、生ゴミがヒグマに荒らされる。
- ・ 7 月 24 日に麻布町の住宅で、ゴミを入れるポリバケツがヒグマに荒らされる。空のポリバケツ 1 つがヒグマによって持ち去られた。
- ・ 7 月 28 日に共栄町および海岸町の住宅にて、生ゴミと干し魚がヒグマに荒らされる。
- ・ 8 月 17 日に麻布町の水産加工場跡地で建築廃材に混ざって放置されていた水産系の生ゴミをヒグマに荒らされる。
- ・ 8 月 22 日に共栄町羅臼港の廃網置き場がヒグマに荒らされる。ヒグマはその場で有害捕獲された。
- ・ 8 月 30 日に海岸町天狗岩の住宅で生ゴミがヒグマに荒らされる。
- ・ 9 月 5 日に共栄町の住宅で生ゴミがヒグマに荒らされる。

- ・ 9月6日に岬町モセカルベツの水産加工場で残渣入れの蓋がヒグマにかじられる。
- ・ 9月8日に岬町モセカルベツの水産加工場でヒグマに残渣を荒らされる（3度目）。木製パレット3枚がヒグマに破壊される。
- ・ 9月10日に本町の住宅で生ゴミをヒグマに荒らされる。
- ・ 9月11日に海岸町の住宅で生ゴミがヒグマに荒らされる。
- ・ 9月12日に礼文町の住宅で生ゴミがヒグマに荒らされる。

<平成25年度>

斜里町

- ・ 9月18日に岩尾別川内に頭と内臓を除去されたサケの死体15尾が投棄されているのを発見した。これらのサケをヒグマが採食した痕跡はなく、ヒグマが餌付く前に回収できた。
- ・ 6月1日に道道知床公園線沿いにて、残飯やその他のゴミ含む弁当箱16個分のゴミが不法投棄されているのを発見、回収した。ヒグマが採食した痕跡はなかったが、「STOP！餌やりキャンペーン」実施直後の事であり、マスメディアに大きく取り上げられる事例となった。
- ・ 上記の事例も含め、ゴミの不法投棄は11件に及んだ。

羅臼町

特になし。

<平成26年度>

斜里町

- ・ ゴミの不法投棄は3件確認された。ゴミの内容物は、生活ゴミの他に5月7日に見晴橋付近で発見された電子レンジなどの粗大ゴミであった。

羅臼町

- ・ ゴミの不法投棄は3件確認された。ゴミの内容物は、10月1日に知床横断道路で発見したコンビニ袋に入った食品トレー等のゴミを除き、大型のベニヤ板、薄型テレビ、ポリエチレン容器などであったため、羅臼町役場生活環境課へ通報した。

<平成27年度>

斜里町

- ・ 9月1日に幌別川河口で大量のシロザケの死体が発見されたが、ヒグマが餌付く前に回収することができた。
- ・ 11月10日にウトロ東2ヶ所においてシロザケと思われる魚のアラが大量に捨てられているのが発見され、回収した。回収前にヒグマに餌付かれたため、約2週間監視を続けた。

- ・上記の事例も含め、ゴミの不法投棄は32件に及んだ。

羅臼町

- ・7月20日深夜、海岸町一般住宅で生ゴミの入ったゴミ箱が持ちさられた。翌日に再出沒したため追い払いを実施したが、同日深夜に数百メートル離れた一般住宅で、ゴミ箱内の生ゴミが持ち去られた。数日間パトロールを実施し、8月4日早朝に当初被害のあった現場に再出沒したため、捕獲された。
- ・9月10日、岬町モセカルベツ地区の水産加工場付近でヒグマが目撃された。対策員が捜索中に水産加工場敷地内で加工残滓を食べているヒグマを発見し追い払った。
- ・上記の事例も含め、一般住宅の生ゴミが持ち去られる事例は3件、水産加工場の残滓が食べられる事例は3件であった。

<平成28年度>

斜里町

- ・5月8日にウトロ東において、サクラマスやカレイ、ウニのガラが捨てられているのを発見、回収した。付近ではヒグマの出沒が確認されていたが、ヒグマが餌付く前に回収することができた。
- ・9月17日に道道知床公園線の路肩にシロザケ6尾の死体が捨てられているのを発見、ヒグマが餌付く前に回収することができた。
- ・9月25日に峰浜の農道沿いにシロザケ11尾の死体が捨てられているのを通行人が発見、回収された。付近の農地は例年ヒグマが出沒している場所であるが、ヒグマが餌付くことはなかった。

羅臼町

- ・7月26日朝、岬町モセカルベツ地区の水産加工場で加工残渣が食べられているのが確認された。繁忙期前で未設置だった加工場所有の電気柵をすぐに稼働させたが、27日に再び被害が発生したため有害捕獲対象となり、1頭のヒグマが有害捕獲となった。
- ・9月29日に幌萌町の水産加工場でヒグマが目撃された。その後の聞き取り調査で、6~7月頃から目撃され始め、通報が来た頃にはほぼ毎日加工場に出沒していることが判明したため、追い払いを実施した。追い払い後、約2週間監視を続けたが、再度出沒することはなかった。
- ・上記の水産加工場の残渣被害2件以外で、ヒグマがゴミ等に誘引される事例は発生しなかった。

平成 28 年度 環境省釧路自然環境事務所 請負事業

事業名：平成 28 年度知床半島ヒグマ保護管理方針に基づくゾーニング管理等推進業務

事業期間：平成 28（2016）年 5 月 12 日～平成 29（2017）年 3 月 10 日

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531 番地
知床自然センター内

表紙写真

平成 28 年 8 月 24 日に斜里町幌別川河口において釣り人の自転車を物色するヒグマ

リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可

本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係わる判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[A ランク]のみを用いて作製しています。